

# 千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XI

林 跡 遺 跡 (224-004)

1 9 9 2

千葉県企業庁  
住宅・都市整備公団千葉開発局  
財團法人 千葉県文化財センター

# 千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XI

林 跡 遺 跡 (224-004)

1 9 9 2

千葉県企業庁  
住宅・都市整備公団千葉開発局  
財團法人 千葉県文化財センター

## 序 文

千葉県の北部に広がる下総台地は平坦で豊かな緑に覆われた広大な台地であり、また、利根川や、印旛沼・手賀沼といった河川などの水に恵まれた肥沃な土地でもあります。このように恵まれた自然環境のもとに、先土器時代からの人々の生活した跡が数多く残されています。

また、この北総地域は、東京都心から30~40kmという至近距離に位置しています。そこで首都圏の住宅需要に応じ、この地域の中核として千葉ニュータウンが計画されました。さらにニュータウンの内外を結ぶ幹線道路として県道鎌ヶ谷本塩線（通称100m道路）がニュータウンを東西に縦貫する計画が同時にすすめられました。

このため、本地域の開発にあたっては、先人が残した貴重な生活の跡である埋蔵文化財の保護との調整を行う必要が生じてまいりました。そこで、千葉県開発庁（現千葉県企業庁）では、文化庁・千葉県教育委員会と協議を重ねた結果、昭和45年度から埋蔵文化財の調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

調査は昭和45年8月から（財）千葉県都市公社内に設置された文化財調査事務所によって開始され、昭和50年4月からは当（財）千葉県文化財センターで継続実施しており、調査開始以来20年を迎えております。この間、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、調査成果は『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書』としてすでに都合10冊にまとめられております。

この度報告する遺跡は、昭和59年度から昭和61年度にかけて3次にわたり調査を実施しました林跡遺跡です。本遺跡は先土器時代を中心とした遺跡で、特に調査区の東側、谷に近い台地の緩やかな斜面上に集中して多くの遺物が広い範囲に検出され、県内の先土器時代の様相を解明する上で貴重な資料を提供しております。

発掘調査に続く整理作業は、昭和62年度から開始し、平成2年度をもって終了し、今年度「第11集」として刊行する運びとなりました。本書の刊行が郷土の歴史のみならず文化財に対して多くの方々の理解を深め、さらに広く活用されることを望んでやみません。

最後に、千葉県企業庁ならびに住宅・都市整備公団および鎌ヶ谷市教育委員会の御協力と千葉県教育庁生涯学習部文化課の御指導、御助言にお礼を申し上げるとともに、寒風、酷暑のなかで調査に従事され、報告書刊行に至るまで御苦労をお掛けした調査補助員の皆様に心から謝意を表します。

平成4年3月

財団法人 千葉県文化財センター  
理事長 岩瀬良三

## 凡　例

1. 本報告書は千葉北部地区新市街地造成整備事業（千葉ニュータウン）に関連して調査した鎌ヶ谷市初富字林跡928他に所在する林跡遺跡(224-004)の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査から整理作業までに至る業務は、千葉県企業庁ならびに住宅・都市整備公団の委託を受けて、千葉県教育委員会の指導の下に、財團法人千葉県文化財センターが行った。
3. 発掘調査は、昭和59・60・61年度に下記により実施した。

(昭和59年度) 調査期間 昭和59年9月1日～昭和59年10月15日

調査面積 対象面積 1,766m<sup>2</sup> 上層本調査 1,766m<sup>2</sup> 下層本調査 340m<sup>2</sup>  
調査担当 調査部長 鈴木道之助 部長補佐 岡川宏道 班長 鈴木定明  
主任調査研究員 及川淳一

(昭和60年度) 調査期間 昭和60年11月1日～昭和61年3月26日

調査面積 対象面積 7,074m<sup>2</sup> 上層本調査 900m<sup>2</sup> 下層本調査 3,950m<sup>2</sup>  
調査担当 調査部長 鈴木道之助 部長補佐 岡川宏道 班長 矢戸三男  
調査研究員 糸川道行

(昭和61年度) 調査期間 昭和61年8月1日～昭和61年11月10日

調査面積 対象面積 7,460m<sup>2</sup> 上層本調査 1,044m<sup>2</sup> 下層本調査 500m<sup>2</sup>  
調査担当 調査部長 鈴木道之助 部長補佐 古内茂 班長 矢戸三男  
調査研究員 田島新

4. 整理作業及び本書の作成は、下記により行った。

(昭和62年度) (昭和63年度) (平成2年度)

調査部長	堀部昭夫	調査部長	堀部昭夫	調査部長	堀部昭夫
部長補佐	古内茂	部長補佐	古内茂	部長補佐	阪田正一
班長	小宮孟	班長	大原正義	班長	上野純司
主任調査研究員	橋本勝雄	主任調査研究員	橋本勝雄	班長代理	高橋博文

5. 本書の執筆及び編集は、班長代理 高橋博文が行なった。
6. 写真撮影のうち遺構・遺物はそれぞれの発掘担当者が行い、整理作業に伴う遺物撮影は高橋博文が担当した。但し、空中写真については京葉測量株式会社の撮影によるものを使用した。
7. 本遺跡1J-85区における立川ローム層の土壤(鉱物)分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、実施したものである。
8. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1:25000地形図 松戸[NI-54-25-2-1], 白井[NI-54-19-14-3]である。
9. 本書に使用した方位は、座標北である。

# 目 次

序 文  
凡 例  
本文目次

第1章 環境と経過.....	1
I. 遺跡の位置と環境.....	1
II. 調査の経過と概要.....	1
第2章 検出された遺構・遺物.....	6
I. 先土器時代の調査.....	6
1. 層 序.....	6
2. 遺構と遺物.....	8
II. 縄文時代以降の調査.....	71
1. 遺構と遺物.....	71
a. 土 坑.....	71
b. 陷 穴.....	72
c. 溝状遺構.....	72
2. グリッド出土の遺物.....	74
a. 土 器.....	74
b. 石 器.....	76
第3章 まとめ.....	85
I. 先土器時代.....	85
II. 縄文時代以降.....	88
III. 鉱物分析について（報告）.....	90
<分析結果を見て>.....	98
IV. 先土器時代遺物資料集 .....	102

## 挿 図 目 次

第1図 林跡遺跡周辺の地形と遺跡	2
第2図 遺跡地形図	3
第3図 グリッド名称	4
第4図 上層下層グリッド配置図	5
第5図 標準土層と土層断面図	7
第6図 先土器時代遺構及び遺物出土状況	9
第7図 第1・第2ブロック遺物出土状況図	11
第8図 第1・第2ブロック遺物接合状況図	13
第9図 第1・第2ブロック石器実測図1	15
第10図 第1・第2ブロック石器実測図2	16
第11図 第1・第2ブロック石器実測図3	17
第12図 第3ブロックブロック外(1N・2N)遺物出土状況図	21
第13図 第3ブロック石器実測図	23
第14図 第4ブロック遺物出土状況図	24
第15図 第4ブロック石器実測図	25
第16図 第5ブロック遺物出土状況図	26
第17図 第5ブロック石器実測図	27
第18図 第6ブロック遺物出土状況図	28
第19図 第6ブロック石器実測図	29
第20図 第7ブロック・ブロック外(2L・3L)遺物出土状況図	31
第21図 第8・第9・第10・第11ブロック遺物出土状況図	33
第22図 第8ブロック遺物出土状況図	35
第23図 第8ブロック石器実測図1	36
第24図 第8ブロック石器実測図2	37
第25図 第9・第10ブロック遺物出土状況図	39
第26図 第9ブロック石器実測図	41
第27図 第10ブロック石器実測図1	42
第28図 第10ブロック石器実測図2	43
第29図 第11ブロック遺物出土状況図	45
第30図 第11ブロック石器実測図	46

第31図 第12ブロック遺物出土状況図	48
第32図 第12ブロック石器実測図1	49
第33図 第12ブロック石器実測図2	50
第34図 第13ブロック遺物出土状況図	53
第35図 第13ブロック石器実測図	53
第36図 第14ブロック遺物出土状況図	54
第37図 第14ブロック石器実測図	55
第38図 第15ブロック遺物出土状況図	57
第39図 第16ブロック遺物出土状況図	58
第40図 第16ブロック石器実測図	59
第41図 第17ブロック遺物出土状況図	60
第42図 第17ブロック石器実測図	61
第43図 ブロック外(1J)遺物出土状況図1	63
第44図 ブロック外(1L)遺物出土状況図2	63
第45図 ブロック外(2K)遺物出土状況図3	63
第46図 ブロック外(3N)遺物出土状況図4	63
第47図 ブロック外(3L)遺物出土状況図5	64
第48図 ブロック外(3E)遺物出土状況図6	65
第49図 ブロック外石器実測図1	66
第50図 ブロック外石器実測図2	67
第51図 ブロック外石器実測図3	68
第52図 先土器時代炭化物集中地点(2D-98・99、3D-08・09)	69
第53図 001・002・003号土坑実測図	72
第54図 004号溝状遺構実測図	73
第55図 グリッド出土土器実測図及び拓影図1	75
第56図 グリッド出土土器拓影図2	77
第57図 グリッド出土土器拓影図3	78
第58図 歴史時代土器実測図	79
第59図 繩文時代石器製作跡遺物出土状況図	80
第60図 繩文時代石器製作跡出土遺物実測図	81
第61図 グリッド出土土器実測図	83
第62図 先土器時代石器一覧	86

第63図 グリッド1 J-85北壁試料鉱物組成	91
第64図 鉱物分析試料採取地点土層柱状図及び下総台地各遺跡との土層対比図	93
第65図 カンラン石と輝石との量比変化	100
第66図 火山ガラスの量比変化	101

## 表 目 次

第1表 第1・2ブロック石器計測表	18
第2表 第1・2ブロック砾・礫破片接合表	19
第3表 第3ブロック石器計測表	23
第4表 第4ブロック石器計測表	25
第5表 第5ブロック石器計測表	27
第6表 第6ブロック石器計測表	29
第7表 第8ブロック石器計測表	38
第8表 第9ブロック石器計測表	41
第9表 第10ブロック石器計測表	44
第10表 第11ブロック石器計測表	47
第11表 第12ブロック石器計測表	51
第12表 第12ブロック砾・礫破片接合表	52
第13表 第13ブロック石器計測表	53
第14表 第14ブロック石器計測表	55
第15表 第16ブロック石器計測表	59
第16表 第17ブロック石器計測表	61
第17表 ブロック外・表採石器計測表	68
第18表 繩文時代石器製作跡(4M)出土石器計測表	82
第19表 繩文時代石器計測表	84
第20表 重鉱物組成一覧(1回目)	94
第21表 重鉱物組成一覧(2回目)	94
第22表 軽鉱物組成一覧(1回目)	95
第23表 軽鉱物組成一覧(2回目)	96

## 図版目次

- 図版1 林跡遺跡周辺の航空写真  
図版2 遺跡遠景・土層断面（1L-60・70西壁、2E-51北壁）  
図版3 第1・第2ブロック、第3ブロック、第4ブロック遺物分布状況  
図版4 第5ブロック、第6ブロック、第6・第7ブロック遺物分布状況  
図版5 第7ブロック・ブロック外、第8ブロック、第9ブロック遺物分布状況  
図版6 第8・第9・第10・第11ブロック、第12ブロック、第13・第14ブロック遺物分布状況  
図版7 第15ブロック、第16ブロック、ブロック外（3N）遺物分布状況  
図版8 ブロック外（3L-84、2E-51、3E-36）遺物出土状況  
図版9 ブロック外（4D）遺物分布状況、グリッド2D・3D炭化物出土状況、縄文時代石器製作跡遺物分布状況  
図版10 第1・第2・第3・第4ブロック出土石器  
図版11 第5・第6・第8・第9ブロック出土石器  
図版12 第10・第11ブロック出土石器  
図版13 第12・第13・第14・第16ブロック出土石器  
図版14 第17ブロック・ブロック外（3E）出土石器  
図版15 ブロック外出土石器、縄文時代石器  
図版16 グリッド出土土器1  
図版17 グリッド出土土器2  
図版18 001・002・003号土坑全景  
図版19 004号溝及び土層断面  
図版20 (1) グリッド1J-85北壁試料採取土層断面  
         (2) 試料採取土層中火山ガラス

## 第1章 環境と経過

### I 遺跡の位置と環境（第1・2図、図版1）

千葉県の北部に広がる下総台地の北西部、北総台地と呼ばれる一角に、北を利根川の流れに、南と東を広大な印旛沼に挟まれ、小支谷が樹枝状に幾重にも台地に入り込む標高20m～30mの平坦な印旛台地が広がる。この印旛台地の西端部に近く、本遺跡から北へ約9kmに位置する手賀沼に流れ込む大津川の最奥部に近く、その支流に挟まれた標高22～28mの台地の東側に林跡遺跡は立地する。北総台地に東西に細長く広がる千葉ニュータウンの中では西部、県道船橋・取手線と接する位置にあたり、千葉県鎌ヶ谷市初富字林跡928-1827番地他に所在する。

本遺跡の東側の谷を挟んで『千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書IX』で報告された『五本松遺跡』・『上葉貢台遺跡』が、さらに約600m東側の台地の端には先土器時代の遺物を数多く検出した『落山遺跡』が位置する。周囲には『木戸脇貝塚』などの縄文時代遺跡をはじめとして近世までの数多くの遺跡が存在している。

### II 調査の経過と遺跡の概要（第3・4図）

本調査は、住宅・都市整備公団の委託により『北千葉ニュータウン線3.1.1（鎌ヶ谷地区）』造成に先立ち実施したものである。発掘調査は昭和59年度・昭和60年度・昭和61年度の3カ年にわたり、昭和59年度1,766m<sup>2</sup>、昭和60年度7,074m<sup>2</sup>、昭和61年度7,460m<sup>2</sup>の合計16,300m<sup>2</sup>の面積を実施した。

本遺跡の発掘調査に先立ち、遺跡の発掘対象地区全域を公共座標を基準に20m×20mの大グリッドに分割設定し、さらに、この大グリッドの中を2m×2mの小グリッド100個に細分割し、発掘調査の基本グリッドとした。（第3図）。

昭和59年度の調査は昭和59年9月1日から開始、まず東西に長い2m×4mのトレンチを80m<sup>2</sup>に1個の割合を基本にして設定し、さらに遺跡の状況に合わせて任意の大きさのトレンチを設けて上層の確認調査を実施した。その結果、調査範囲のほとんどが立川ローム層の上層まで削平され、遺構の検出は不可能と判断、統けて上層の確認グリッドを利用して2m×2mのトレンチを設定し、立川ローム層の下部まで下層の確認調査を実施した。その結果、4地点で遺物を検出し、県文化課より340m<sup>2</sup>の調査面積が本調査として示され、引き続き本調査を実施し、同年10月15日に調査を終了した。

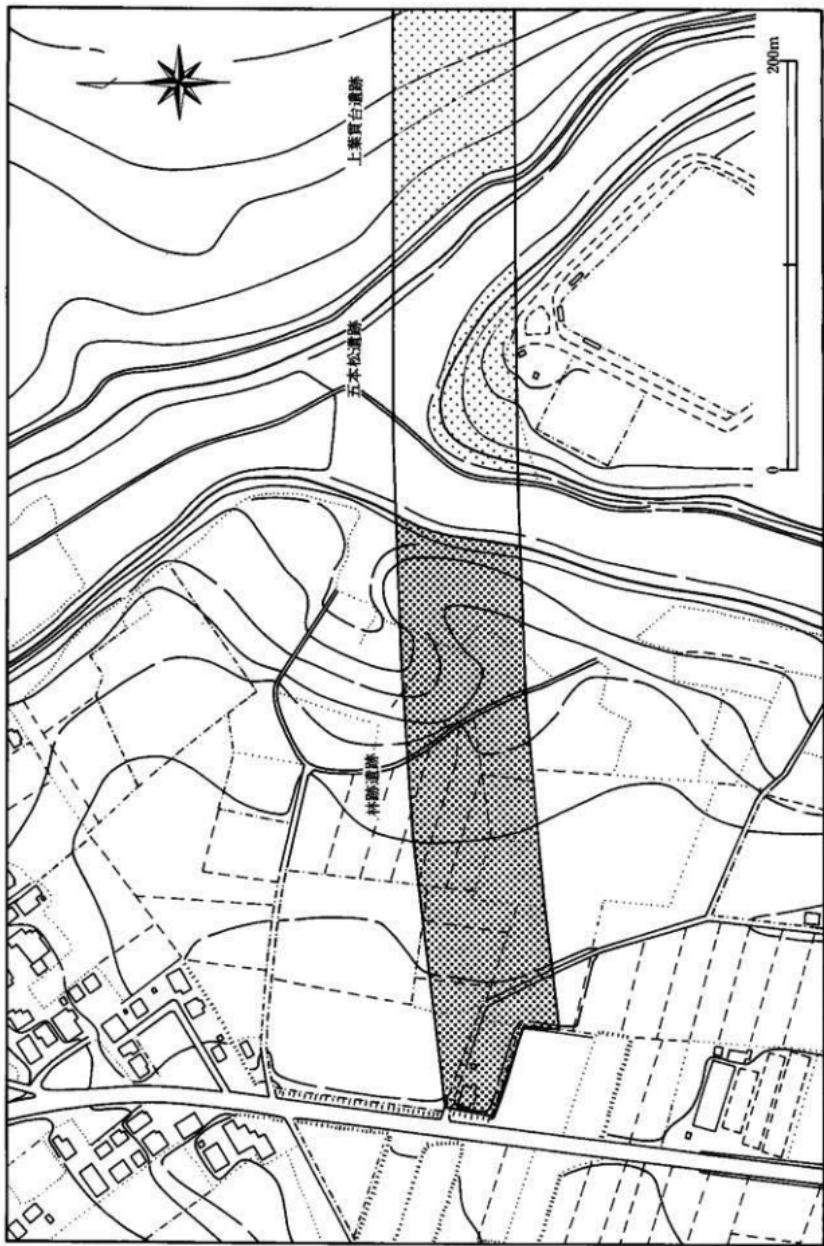
昭和60年度の調査は、昭和60年11月1日から開始、まず東西に長い2m×4mのトレンチを80m<sup>2</sup>に1個の割合を基本にして設定し、さらに遺跡の状況に合わせて任意の大きさのトレンチを設けて上層の確認調査を実施した。上層の検出遺構の数量が少なくさらに偏在していたので、引き続いて、上層

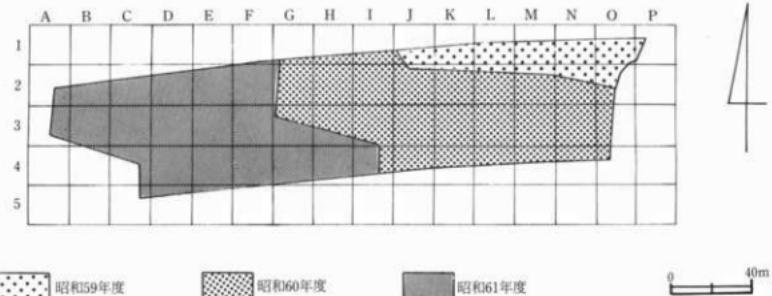
海上自衛隊下総航空基地

- |            |           |            |            |
|------------|-----------|------------|------------|
| 1. 林跡遺跡    | 2. 五本松遺跡  | 3. 上葉賀台遺跡  | 4. 落山遺跡    |
| 5. 東林跡遺跡   | 6. 東野遺跡   | 7. 稲荷前遺跡   | 8. 中沢貝塚    |
| 9. 一本松遺跡   | 10. 木戸脇貝塚 | 11. 栗野田境遺跡 | 12. 橋本遺跡   |
| 13. 中山新山遺跡 | 14. 山王台遺跡 | 15. 北根郷屋遺跡 | 16. 高柳新田遺跡 |

第1図 林跡遺跡周辺の地形と遺跡 (1: 25,000)

第2図 遺跡地形図 (1 : 2,500)





00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
10	11								
20		22							
30			33						
40				44					
50					55				
60						66			
70							77		
80								88	
90									99

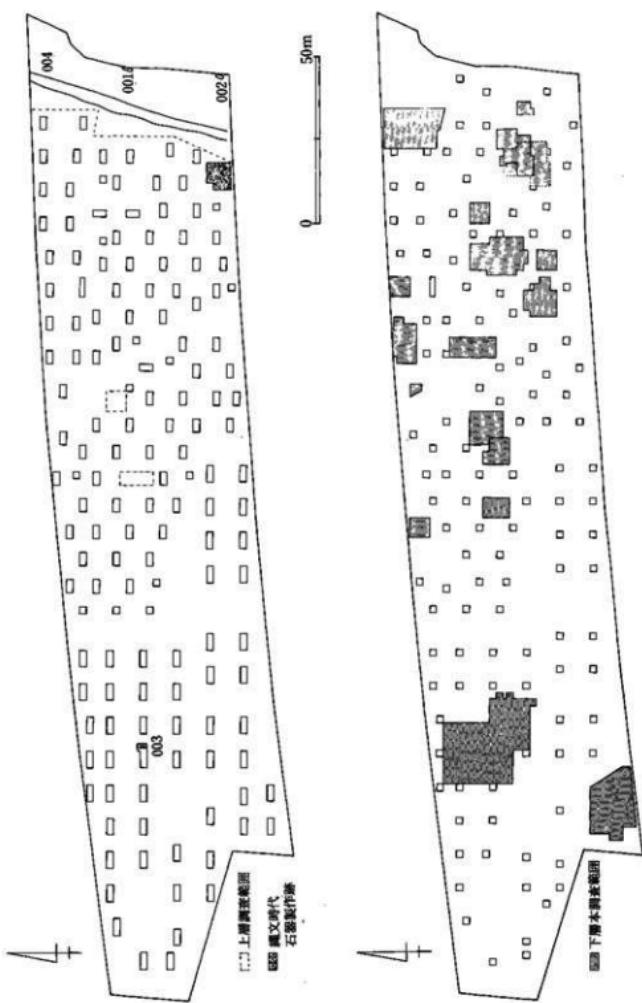
第3図 グリッド名称

の確認グリッドを利用して  $2\text{m} \times 2\text{m}$  のトレンチを設定し、立川ローム層の下部まで下層の確認調査を実施した。その結果、県文化課より  $1,100\text{m}^2$  の上層本調査面積が、 $1,014\text{m}^2$  の下層本調査面積が示され、確認調査に引き続いて本調査を実施し、昭和61年3月26日調査を終了した。

昭和61年度の調査は昭和61年8月1日から開始、まず東西に長い  $2\text{m} \times 5\text{m}$  のトレンチを大グリッド ( $40\text{m}^2$ ) に4個の割合に設定し、上層の確認調査を実施した。その結果、土坑が1基のみしか検出されなかったので、引き続き上層のトレンチを利用して  $2\text{m} \times 2\text{m}$  のトレンチを設定し立川ローム層の下部まで下層の確認調査を実施した。その結果、県文化課より  $500\text{m}^2$  の下層本調査範囲が示され、確認調査に引き続いて本調査を実施し、昭和61年11月10日にすべての調査を終了した。

以上のように、昭和59年から昭和61年まで3次にわたり延べ12ヶ月間の調査を実施した。その結果、上層では4M区に縄文時代の石器製作の場と思われる跡が1カ所、土坑が3基（うち1基は陥穴）および遺跡の東側を南北に走る溝状遺構1条が検出された。下層では遺物の集中出土地点が17カ所、炭化物の集中地点が1カ所検出され良好な先土器時代遺跡であることが判明した。遺物の集中地点はさらに幾つかのグループに分割できた。今回行われた調査は、広い範囲を持つ遺跡の一部分の地域の調査にすぎないが、遺跡全体としても、先土器時代の良好な遺物・資料を包含する遺跡と考えてもよさそうである。

第4図 上層・下層グリッド配置図



## 第2章 検出された遺構と遺物

### I. 先土器時代の調査

#### 1. 層序（第5図）

本遺跡の現地表面から先土器時代の遺物を包含する立川ローム層の下部までの標準的土層の堆積状況について、肉眼による観察で得られた層準について本遺跡の特徴的な状況を加えながら、最上層である表土層から下位の層へ順に説明することにする。

なお、昭和59年度の調査では1J-85区グリッドの北壁面の立川ローム層について鉱物分析を実施しているが、詳細は章を改めて述べるので、ここでは肉眼による観察で得られた層準について述べることとする。

I層 表土層で、耕作等により擾乱されている。一般に黒色を呈している。

II層 二層（a, b）に分割できる。IIa層はいわゆる「新期テフラ」で、60年度の調査では観察されているが、59・61年度では観察されていない。IIb層は漸移層で、暗褐色を呈する。

以下は立川ローム層で本遺跡では大きく五層に区分できる。

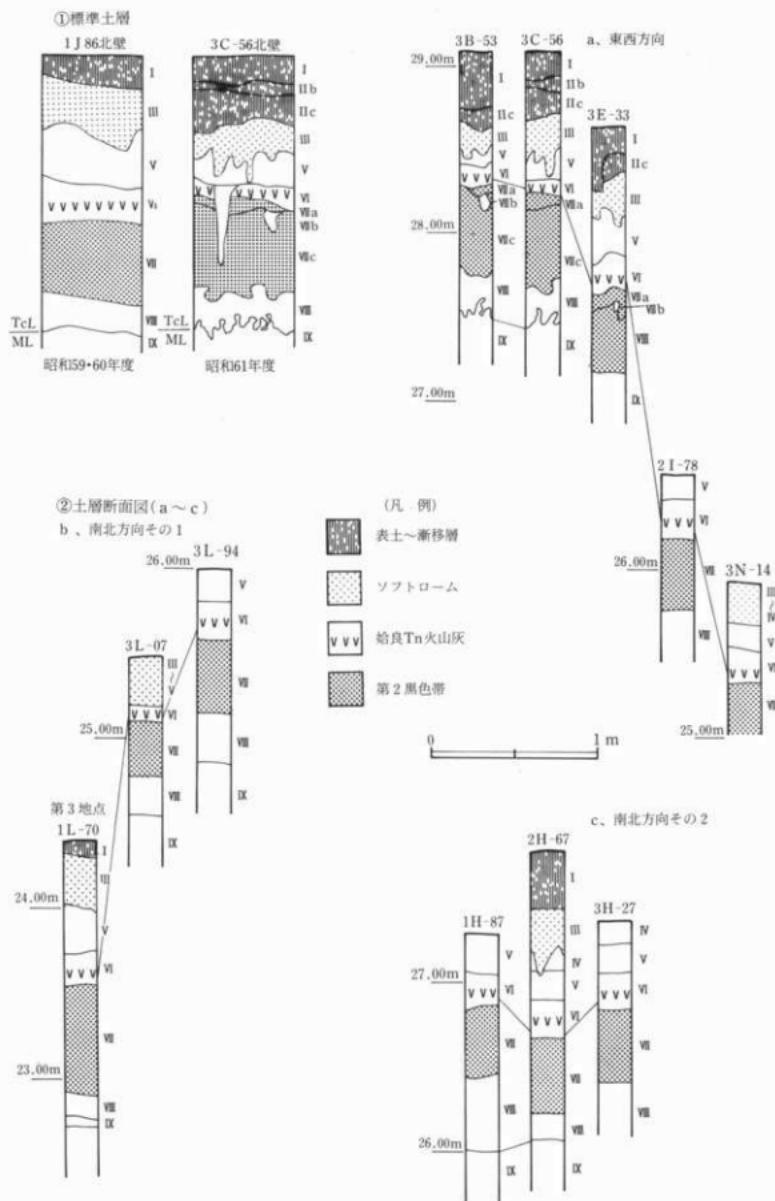
III層 軟質（ソフト）で黄褐色のローム層である。立川ローム層の最上層で、厚さは平均30～40cmを計る。

IV層 本来は硬質（ハード）で暗黄褐色のローム層である。しかし、クラックの発達が著しい本層の性質等を考えるとソフトローム層（III層）との同一化が考えられ、本遺跡では層準としての認識は難しく、まれに連続するブロック状に観察される程度である。ただし、よく観察すると赤色のスコリアが上層・下層より若干ではあるが密になる。

V層 暗褐色のハードロームで第1黒色帯に相当する、ごく一部にIII層及びIV層との同一化が見られるものの本遺跡ではほとんどの地域で識別できる。なお、59年度の調査ではパミス（火山ガラス）の存在がブロック状に肉眼で観察されている。

VI層 非常に硬質の褐色のローム層である、ローム層中一番早く乾燥し白っぽくなる。これは始良Tn火山灰（AT）を多量に包含するためと考えられる。ATの多くは層準を成さずブロック状に、希に連続して層準のごとく観察される。

VII層 硬質の全体に黒っぽい色調のローム層である。第2黒色帯に相当する、色調等により区別し、上からa, b, cの三層に識別できる。本遺跡では色調の明るいb層は層準を成さず、小さな



第5図 標準土層と土層断面図

ブロックが希にVII層の中位に観察される程度である。多くはVIIa, VIIcの二層として観察されることがほとんどである。なお、VIIa層はVIIc層に比べて色調が黒い。

VIII層 立川ロームの最下層であると考えられる、黄褐色を呈する。粘性を強くする。

IX層 武藏野ローム層の最上層と考えられる。立川ローム層と比べて軟質で、粘性が強く、色調的には僅かに青味がかかる見える。

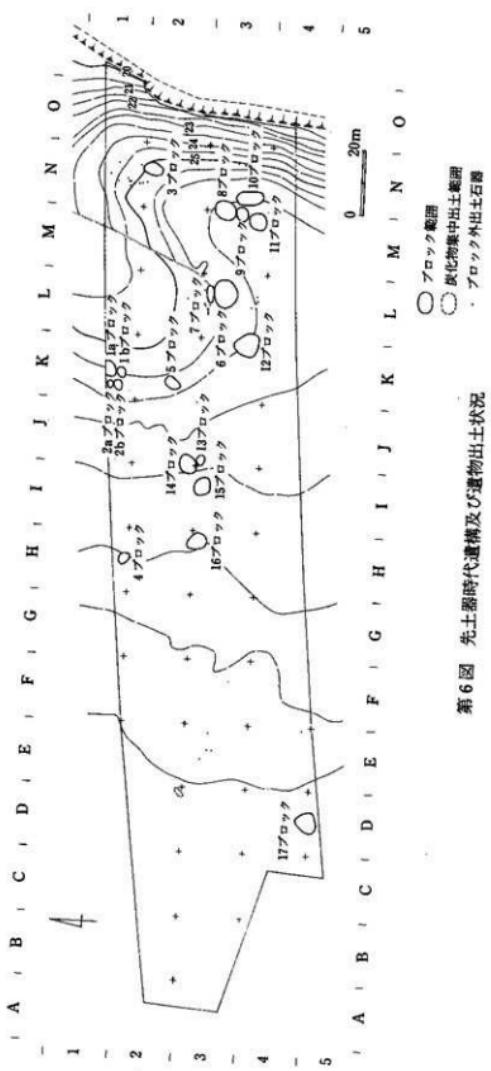
本遺跡の立川ローム層を中心とした基本的層序は以上に述べたとおりである。肉眼の観察だけでは、標準的な層序の識別はなかなか難しいようである。まして台地縁辺の斜面部では、一部層序の識別が不可能な状況にあったり、把握できなくなっている箇所も存在する。調査区全域が必ずしも一様の堆積状況ではないことが分かる。本遺跡では第一黒色帯に相当するV層がめずらしく調査区域のほぼ全域で層準として観察されている。また一方ではIV層がほとんどブロック状で観察される状況で、層準として捕らえることが難しく、より一層の軟質化が進んで上位の軟質なIII層（ソフトローム）と一体化してしまった様相である。さらに、この軟質化は下位のV層の第一黒色帯にも一部及んでいる箇所も観察されている。

## 2. 遺構と遺物

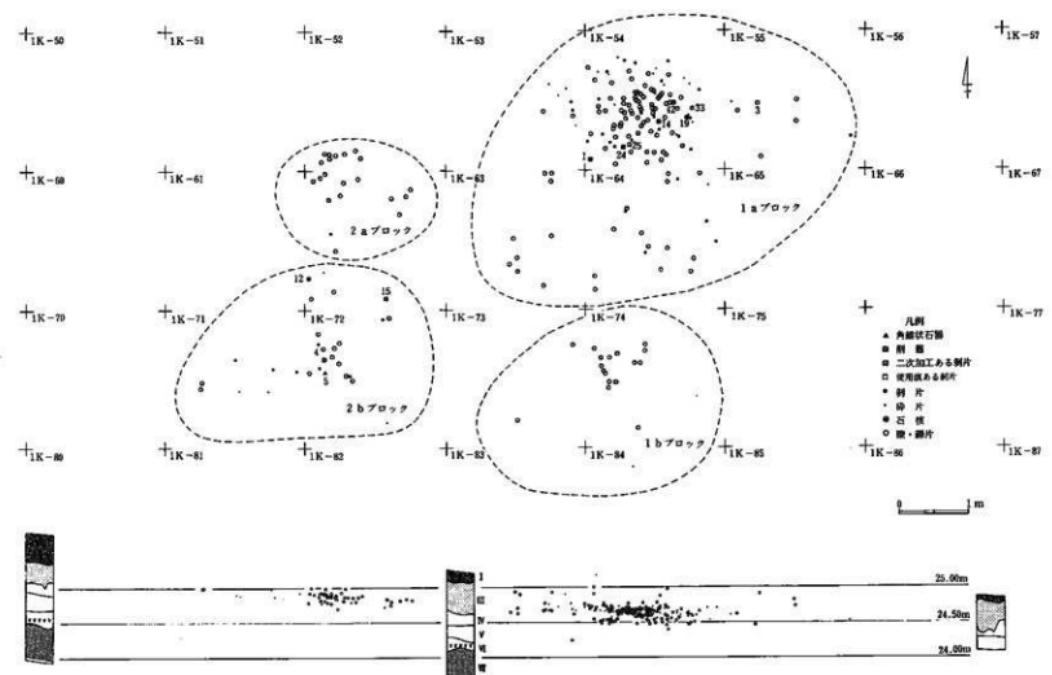
3次にわたる調査では、1次・2次の調査地区である遺跡の東側、台地が谷に向かって緩やかに傾斜はじめるいわば台地の縁辺を中心とする地域に、集中的といつてもよいくらいにほとんどの遺物が検出されている。一方3次の調査地区は前回までと違って台地のやや奥まった地域で、遺物は2カ所の地点で、それぞれ単独または数点が散漫に分布して検出されたのみで、ほかに炭化物の集中地点1カ所が検出されている。（第6図）これら遺物の検出箇所はすべてで17地点に及び、合計697点の石器が検出された。これらの石器群はその産出層準・石器の組成・石器の素材である石材などから17個の石器群（ブロック）とそれ以外に分類できる。以下に順をおってその詳細を述べることとする。

### 第1・第2ブロック（第7～11図、図版3・10）

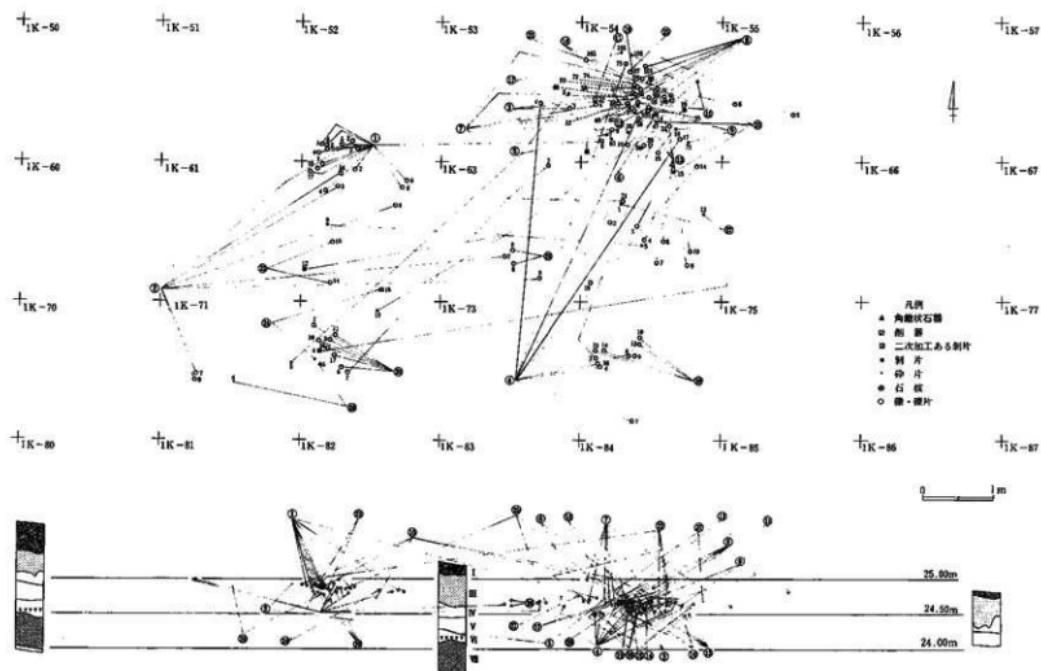
調査区の北東部分に小さな窪みが入り込んでおり、その窪みに向かって緩やかに傾斜し始めるグリッド1K-54を中心として検出された石器群である。半径5mの円を描く範囲から合計226点の石器及び礫破片が検出された。半数以上を礫破片が占めており、本ブロックは礫群の性格が強く石器は礫群に伴出する形で少量であった。石器および礫の集散で、石器を伴う1aブロック(1K-54)・2bブロック(1K-72)と礫・礫破片のみで構成される1bブロック(1K-74)・2aブロック(1K-62)の4つのグループに分けられる。出土はIII層から一部V層にと幅をもって検出されているが、産出層準としては立川ローム層の軟質ローム層下部（III層下部）としてよいであろう。



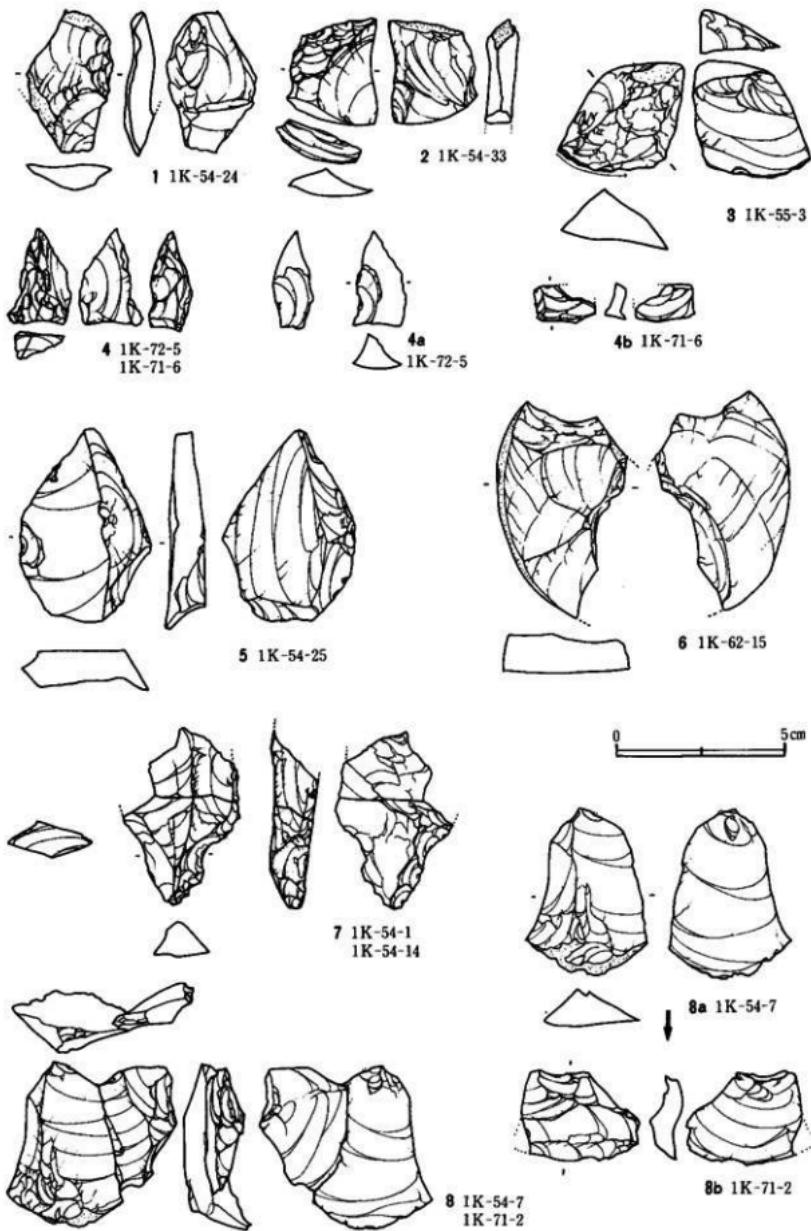
第6図 先土器時代遺構及び遺物出土状況



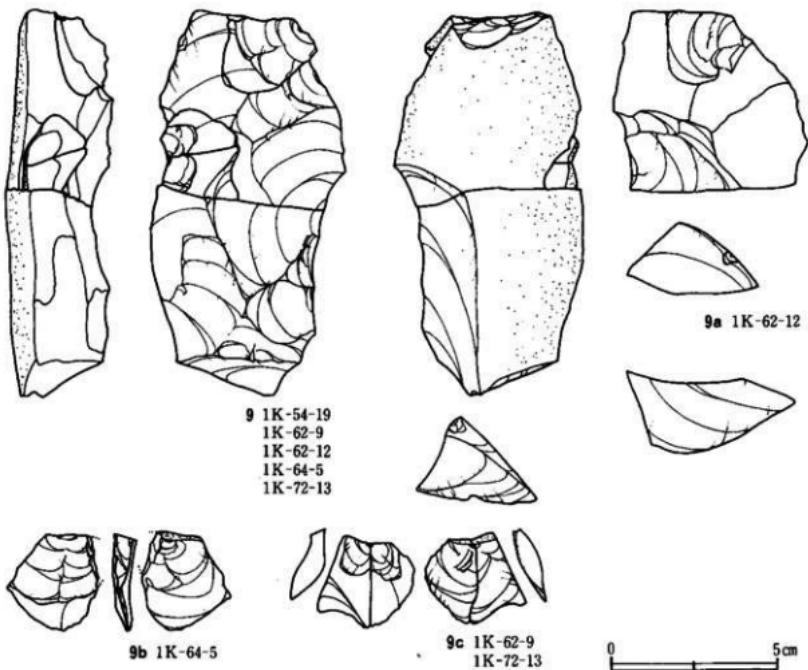
第7図 第1・第2ブロック遺物出土状況図



第8図 第1・第2ブロック遺物接合状況図



第9図 第1・第2ブロック石器実測図 1

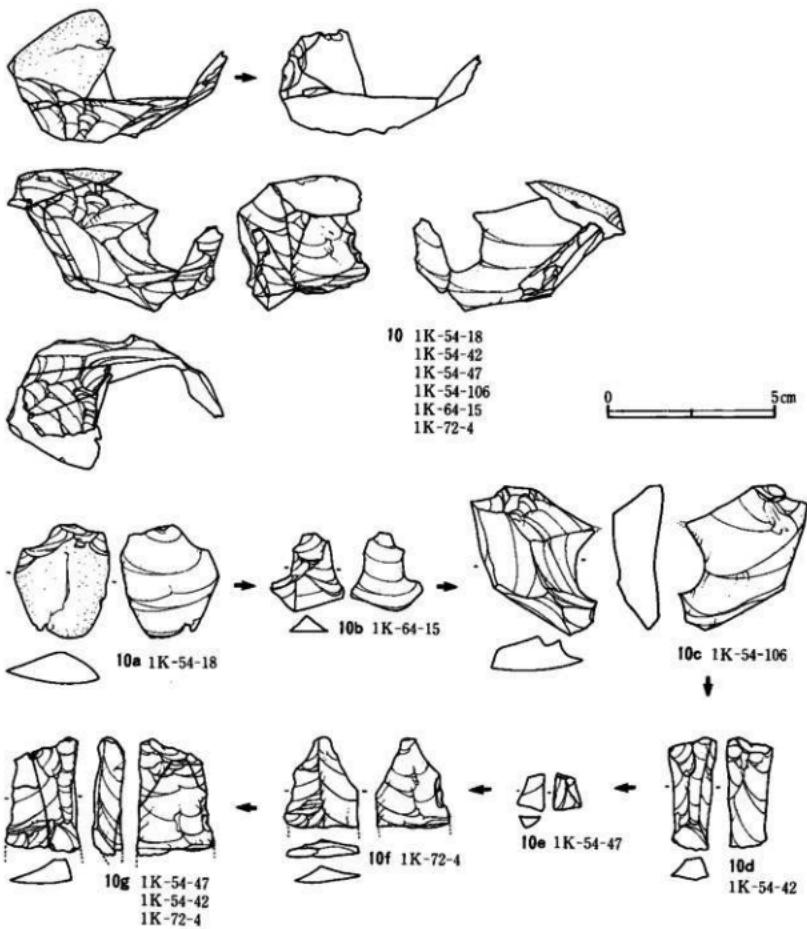


第10図 第1・第2ブロック石器実測図 2

石器は角錐状石器1点、削器1点、二次加工ある剝片5点、使用痕ある剝片2点、石核2点、そして剝片11点の計22点を数える。そのほかは碎片などである。

4の角錐状石器は珪質頁岩の横長剝片を用いており、背部方向からの片面に調整を加えている。角錐状石器特有の鋸歯状を示す刃部は見られないものの、厚みを考えると本類に分類してよさそうである。なお、剝片1点と接合する。7の削器はチャートの剝片を用い、二面片側一側縁に調整を加えている。1. 2. 6. 10d. 10fの二次加工ある剝片は5点のうち前3点が安山岩、残り2点が凝灰岩である。いずれも一部分に調整を加えられている。8. 9. 10は接合資料である。8は剝片同士2点の接合資料。9は原面を残す砂岩の大型の石核と剝片の接合資料である。礫をそのまま石核として用いているようである。10は凝灰岩の剝片のみの接合で、残念ながら石核は検出されなかった。

本ブロックの石器・礫破片の接合状況を見ると、先に分けた4グループ内同士での接合がさすがに多いが、グループを越えての接合も多く見られ、1つのブロックとしてとらえることもできる。しかし、本ブロックは調査区際からの検出で、さらに北側に広がる可能性が充分に考えられるので、ここで早急に結論することは避けたい。



第11図 第1・第2ブロック石器実測図 3

表1 第1・2ブロック石器計測表

捕獲番号	遺物番号	分類	計測値(mm)			重量(g)	打面	細部調整	石材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	1K-54	24 剥片(二次)	41.9	24.9	8.3	8.3	平坦	部分的	安山岩	
2	1K-54	33 剥片(二次)	29.5	25.7	28.1	7.8	欠損	部分的	安山岩	
3	1K-55	3 剥片(使用)	32.9	32.5	15.7	14.9	平坦		チャート	
4 a	1K-72	5 角錐状石器	27.8	16.6	10.6	3.8	平坦	片面	珪質頁岩	
b	1K-71	6 剥片	10.5	18.4	5.6	1.0	平坦		珪質頁岩	
5	1K-54	25 剥片(使用)	56.9	39.0	10.4	22.4	平坦		凝灰岩	
6	1K-62 1K-72	15 剥片(二次) 9 剥片	65.2 22.8	40.5 18.6	12.1 5.0	38.6 1.9	欠損	部分的	安山岩 安山岩	
7	1K-54 1K-54	14 削器 1	53.8 4.9	34.3 11.6	11.6 10.3		二側縁		チャート チャート	
8 a	1K-54	7 剥片	49.7	34.6	10.7	18.1	平坦		凝灰岩	
b	1K-71	2 剥片	49.7	57.1	10.7	7.0	平坦		凝灰岩	
9 a	1K-62	12 石核	52.8	52.4	24.2	79.2	有		砂岩	
b	1K-64	5 剥片	27.5	27.0	5.8	3.8	原面		砂岩	
c	1K-62 1K-72	9 剥片 13 剥片	24.1 24.1	29.4 6.1	6.1 1.6		原面		砂岩 砂岩	
10a	1K-54	18 剥片	32.9	28.6	10.4	9.5	点状		凝灰岩	
10b	1K-64	15 剥片	22.7	21.0	5.7	1.7	欠損		凝灰岩	
10c	1K-54	106 剥片	46.2	34.4	13.5	18.4	平坦		凝灰岩	
10d	1K-54	42 剥片(二次)	33.8	14.4	6.9	3.6	平坦	部分的	凝灰岩	
10e	1K-54	47 剥片	11.4	8.1	4.0	0.3	欠損		凝灰岩	
10f	1K-72	4 剥片(二次)	26.7	21.7	6.9	2.9	平坦	部分的	凝灰岩	

さて、本群の礫群について述べることとする。礫破片のうち114片について接合が見られた。接合状況は表2に示したとおりである。小破片同士での接合が多く、30%以上復元できたのは僅かに6点にとどまった。また、大きく4つに分けたブロックのほぼ同一地点または同一ブロックから検出された破片が多く接合している。

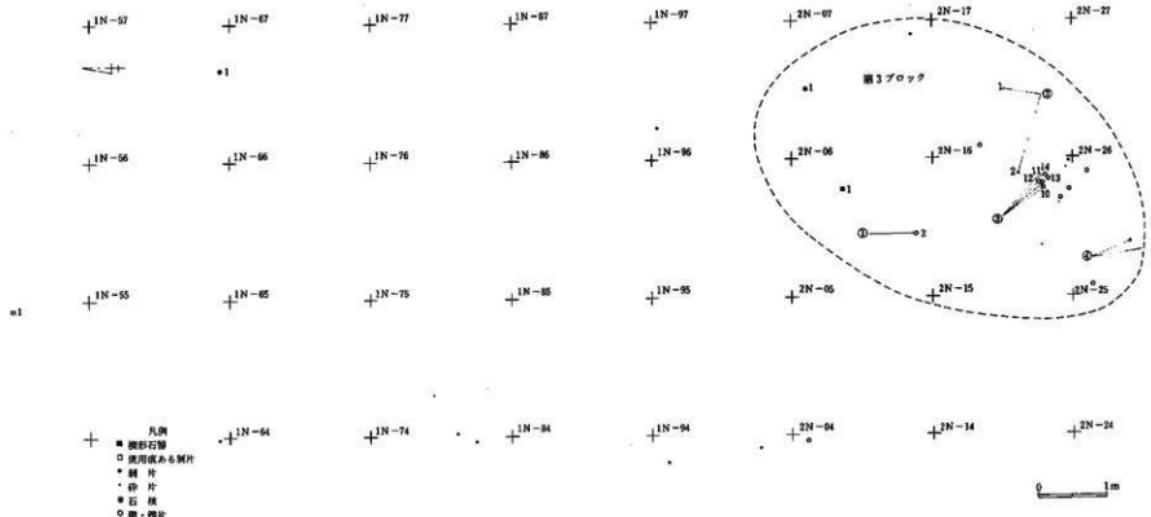
これら礫破片は何度も熱を受け表面が赤色に変化しているものがほとんどであった。石材は安山岩、砂岩、花崗岩の3種類のみである。他は破片が小さく明確に判定ができないものが多く、不明とせざるを得なかったものもある。原石の大きさ、重量については、50%を越えて復元されたものが4点であり、重量にも差があり推測するにしても原石の復元は難しい。

表2 第1・2ブロック礫・礫破片接合表

資料番号	石材	復原率(%) 純重量(g)	破片 数量	接合 遺物番号	備考
1	安山岩	90 (483.0)	12	1K 52-2+1K 62+3/8/16 [5]+1K 63-7/9+1K 71-7/8	
2	安山岩	40 (192.2)	12	1K 54-27/31/60/70 [3]+1K 64-3/4/7/8/9/10	
3	花崗岩	断片 (151.7)	10	1K 53-4+1K 54-17/28/50/75+1K 64-14+1K 74-4/7/8/16	
5	砂岩	断片 (83.7)	4	1K 74-10/13/14/15	
6	不明	断片 (66.3)	2	1K 63-6/8	
7	砂岩	断片 (21.1)	3	1K 63-2+1K 64-21+1K 72-7	
13	安山岩	70 (149.7)	8	1K 54-4/9/55/68/69+1K 55-6+1K 64-2/19	
14	砂岩	50 (158.7)	7	1K 72-1/3/6/10/11/16/17	
15	砂岩	95 (274.5)	15	1K 52-1/3/4/5/6 [2]+1K 54-8+1K 62-1/2/4/5/6/17/18	
16	花崗岩	30 (145.1)	4	1K 53-3+1K 54-56/58+1K 74-9	
17	チャート	断片 (87.0)	8	1K 54-10/12/15/40/57/76/88/101	
18	砂岩	断片 (13.0)	3	1K 54-97 [3]	
19	砂岩	断片 (78.7)	8	2N 15-10/11/12/13/14 [4]	
20	不明	断片 (9.8)	2	1K 54-74 [2]	
21	不明	断片 (36.0)	2	1K 54-29+1K 74-3	
22	不明	断片 (7.8)	2	1K 54-22+1K 55-15	
24	花崗岩	断片 (46.3)	2	1K 54-66/72	
25	花崗岩	断片 (1.8)	2	1K 54-103 [2]	
29	不明	断片 (5.4)	2	2N 05-22	
30	不明	断片 (14.7)	2	1K 62-10/14	
31	不明	断片 (95.0)	4	1K 54-39/74 [2]/90	

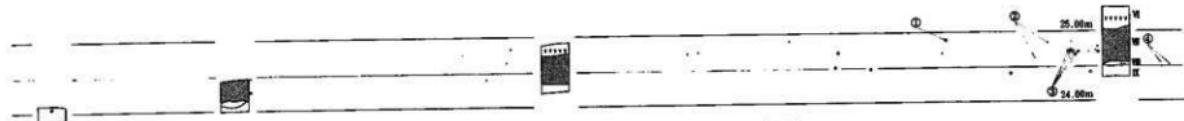
\* 資料番号は遺物接合図の接合資料番号と一致する。

\* 復元率で「断片」とした資料は接合資料自体が小さく、復元率を求めるのが困難な資料である。



- 凡例
- 楕円石器
- 使用痕のある片
- 刺 片
- 砧 片
- 石 塊
- 骨・擦片

0 1m

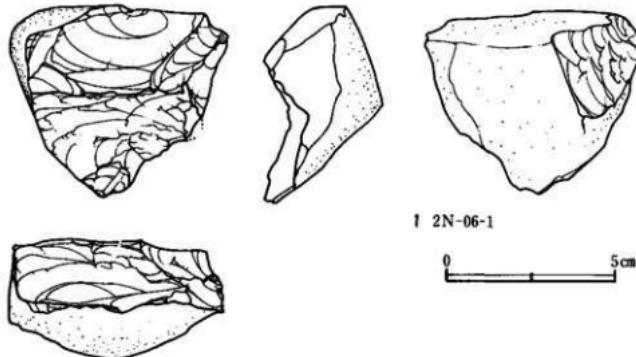


第12図 第3ブロック・ブロック外(1N・2N)遺物出土状況図

### 第3ブロック（第12・13図、図版3・10）

3次にわたる調査の中で最も東寄りに検出された石器群で、調査区の北東部分に小さな窪みが入り込んでおり、その窪みに向かって緩やかに傾斜し始めるグリッド2N-15を中心に分布している。すぐ東側には谷が迫っている。半径2.5mの円を描く範囲にとくに集中して合計27点の石器および礫破片が検出された。また周囲の広い範囲にも石器が分散した状態で検出されているが、本石器群またはこれら石器同士間には、とりたてて有機的関係が見られないで別にブロック外として述べることとした。本群の産出層準はVII層中位から下部にかけてとしてよいだろう。

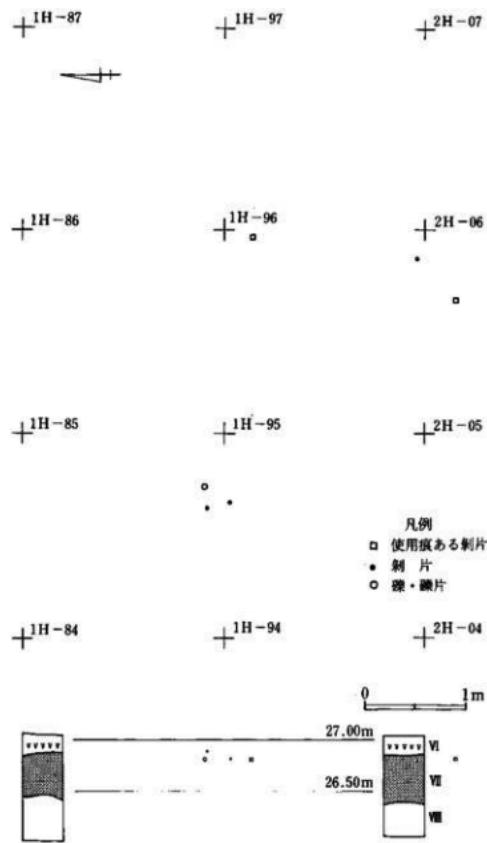
第13図1に示す石核1点のみが石器である、残念ながらほかの剥片とは接合しない。石材は砂岩。



第13図 第3ブロック石器実測図

表3 第3ブロック石器計測表

捕団 番号	遺物		分類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石 材	備考
	出土地点	番号		長さ	幅	厚さ					
1	2N-06	1	石核	57.0	63.1	34.3	104.8	有		砂岩	

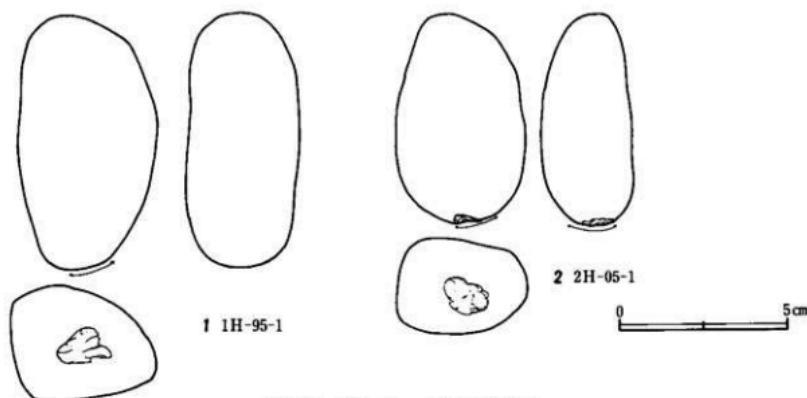


第14図 第4ブロック遺物出土状況図

#### 第4ブロック（第14・15図、図版3・10）

調査区のほぼ中央北の端グリッド1H-84・95におもに検出された。やや台地の奥に入り込んだ地域である。直径4mの範囲に散在して合計7点の石器が検出された。本群の産出層準はVII層上部としてよいであろう。

出土した石器は第14図に示す敲石の2点がおもな石器である。1の石材は凝灰岩である。長軸両端に使用痕が観察できる。2の石材は安山岩である。長軸の一端に使用痕が観察される。



第15図 第4 ブロック石器実測図

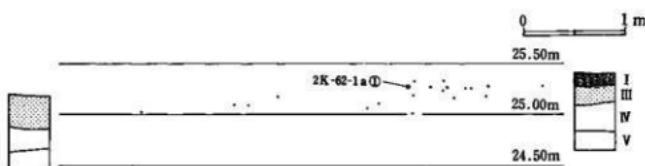
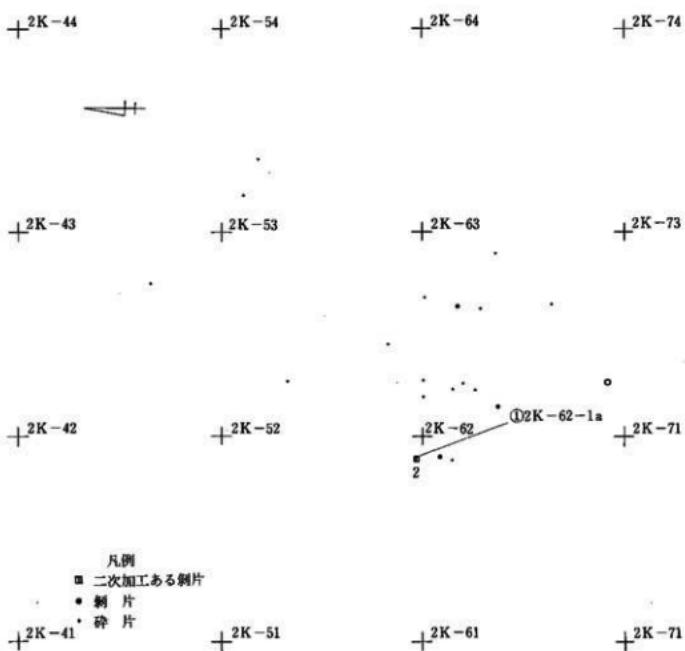
表4 第4 ブロック石器計測表

捕図 番号	遺物	分類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	1H-95	1 敲石	70.3	40.2	32.0	165.1			凝灰岩	
2	2H-05	1 敲石	60.2	30.9	20.7	88.3			安山岩	

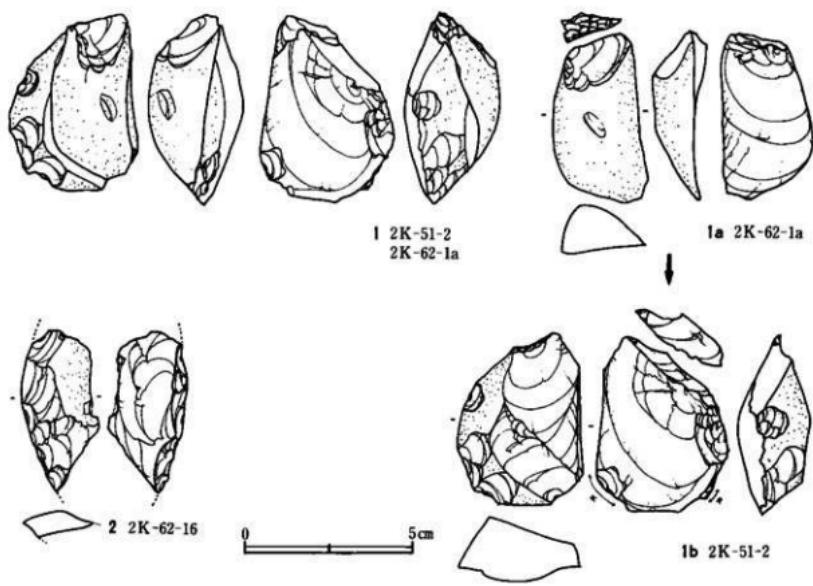
#### 第5 ブロック (第16・17図、図版4・11)

第1 ブロックの南側、やはり小谷に向かって緩やかに傾斜し始める所から検出された石器群である。グリッド2K-62を中心半径2 mの円を描く範囲から合計21点の石器が検出された。一部IV層からの出土も見られるが、産出層準はソフトローム層(III層)としてよきようである。

出土した石器には製品と言えるものではなく、剝片のみの石器群である。第16図1・2に示す二次加工ある剝片1点と剝片2点が図示できる資料である。いずれも石材は凝灰岩である。1は接合資料である。1aは原面を残す剝片で、1bと接合する。原石もそれ程大きくなさそうである。1bの剝片の一部に細部調整が観察される。2もやはり一部に原面を残す横長の剝片である。



第16図 第5ブロック遺物出土状況図



第17図 第5ブロック石器実測図

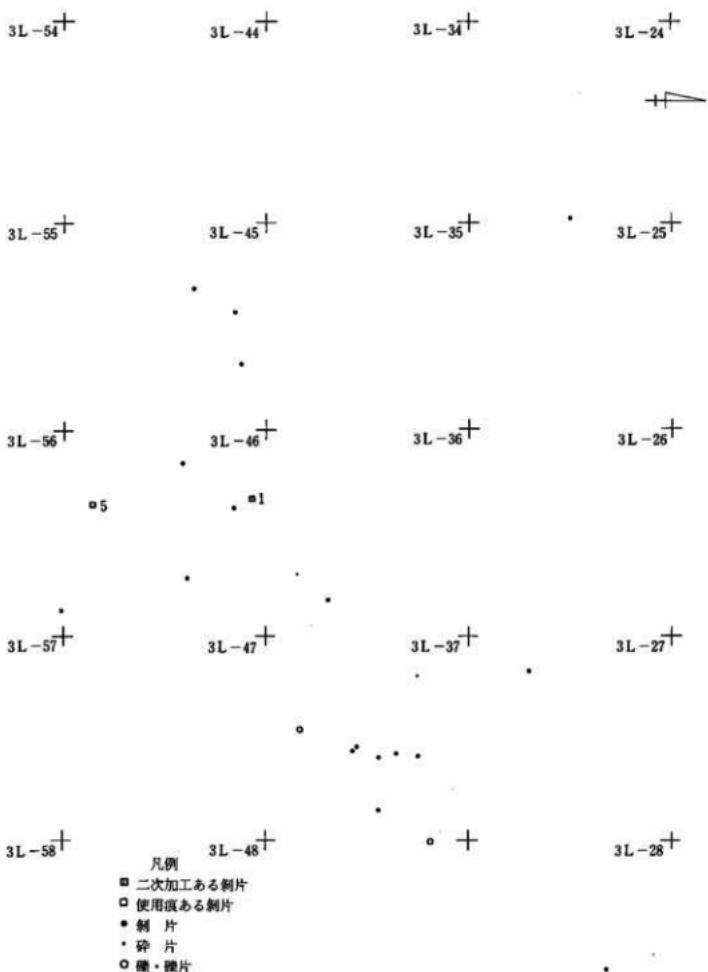
表5 第5ブロック石器計測表

捕団 番号	遺物		分類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石 材	備考
	出土地点 番号	番号		長さ	幅	厚さ					
1	2K-62	1	剥片	50.0	28.1	14.7	19.3	平坦		凝灰岩	
2	2K-51	2	剥片(二次)	51.0	38.3	19.9	32.0	平坦	部分的	凝灰岩	
3	2K-62	1	剥片	47.0	24.6	6.9	6.7	欠損		凝灰岩	

#### 第6ブロック (第18・19図、図版4・11)

第5ブロックの南東側、やはり小さな谷に向かって緩やかに傾斜し始める所から検出された石器群である。グリッド3L-37を中心半径4mの円を描く範囲から合計26点の石器が散在して検出された。

産出層準はVII層としてよいであろう。石器として製品の出土ではなく、第19図に示した使用痕ある剥片1点のみが図示可能な石器である、横幅のある寸づまりの剥片である。石材はチャート。



第18図 第6ブロック遺物出土状況図



第19図 第6ブロック石器実測図

表6 第6ブロック石器計測表

擲出番号	遺物番号	分類	計測値(mm)			重量(g)	打面	細部調整	石材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	3L-46	5 剥片(使用)	19.0	15.5	4.9	1.1			チャート	

#### 第7ブロック (第20図、図版4・5)

第6ブロックの北に隣接するように、そして小さな谷に向かって緩やかに傾斜し始める所から検出された石器群である。グリッド3L-15・16・17にわたる長径6m、短径2mの梢円を描く範囲から合計14点の石器・礫・礫破片が散在して検出された。一部下位層からの出土もみられるが、産出層準はソフトローム層(III層)下部としてよいであろう。石器として製品の出土ではなく、図示できるものはなかった。

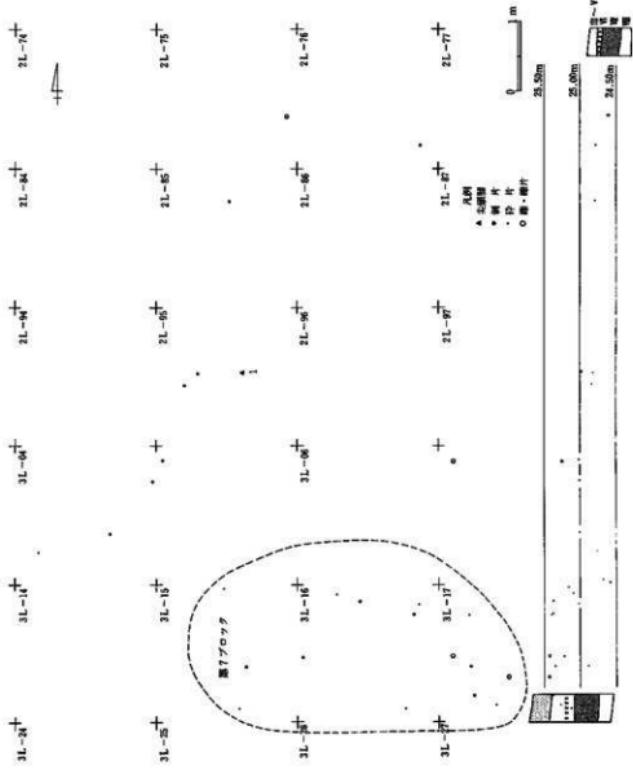
なお、本ブロックの北側には広い範囲にわたり散在して石器及び礫・礫破片が少量ながら検出されている、しかし本ブロック及び第6ブロックとは石材・接合・産出層準など有機的と思える関係はないと考える。これらのブロック外の石器については後にまとめて触れる。

#### 第8ブロック (第21~24図、図版6・11)

調査区の東の谷に向かって台地が傾斜し始める地域に検出された石器群である。グリッド3M-39を中心半径3mの円を描く範囲から合計54点の石器・礫破片がまとまって検出されている。石器は上下にかなりの幅をもって出土しているが、大半がVII層の上部から検出されており、産出層準はVII層としてよさそうである。石材は大半を石英が占め、ほかに凝灰岩・砂岩が見られる。

石器はナイフ形石器1点、削器1点、二次加工ある剥片1点、石核2点、敲石1点、剥片6点が主なものである。

1はナイフ形石器である。基部付近は欠損しており全体を見ることはできない。石材は石英である。



第三回 嘉平ノヨロヅタ：ヲ吉ツク外(2L:3L)主の出立次第

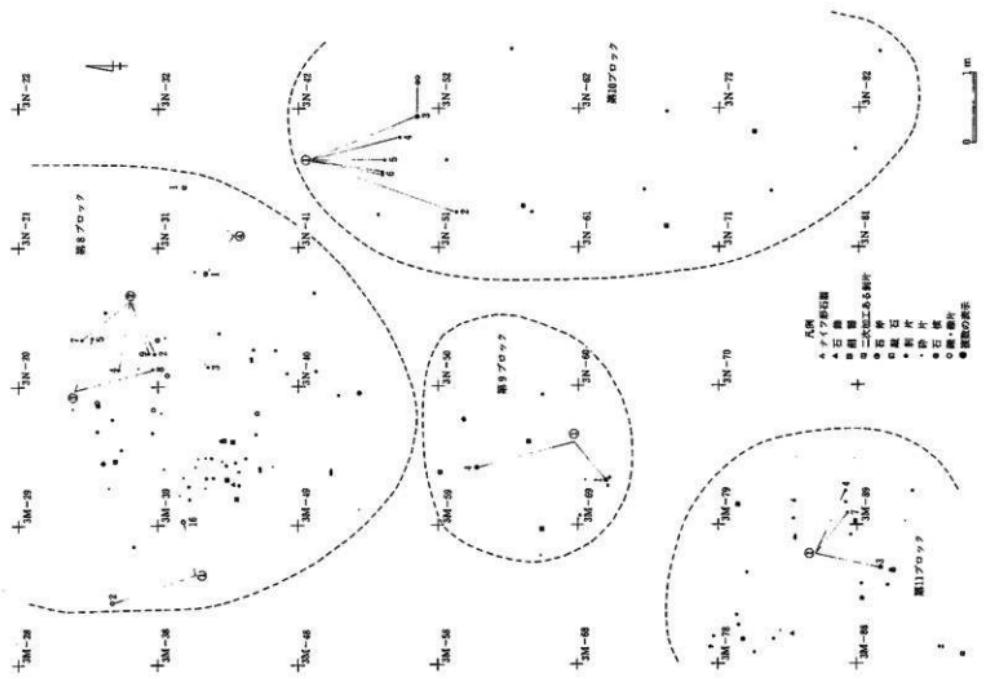
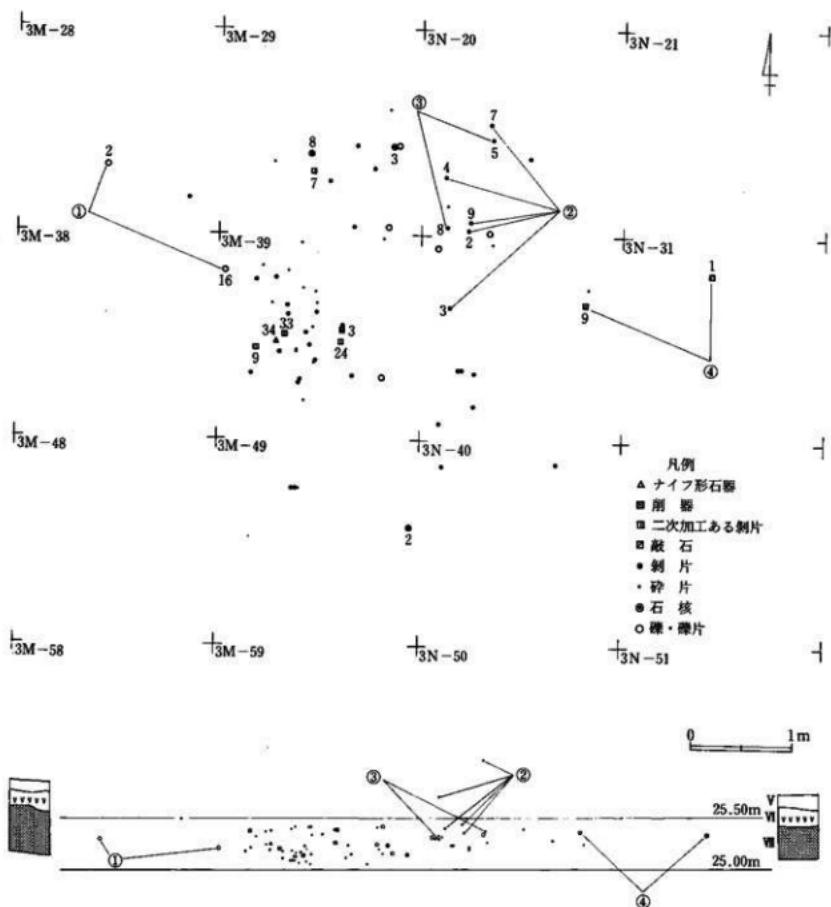
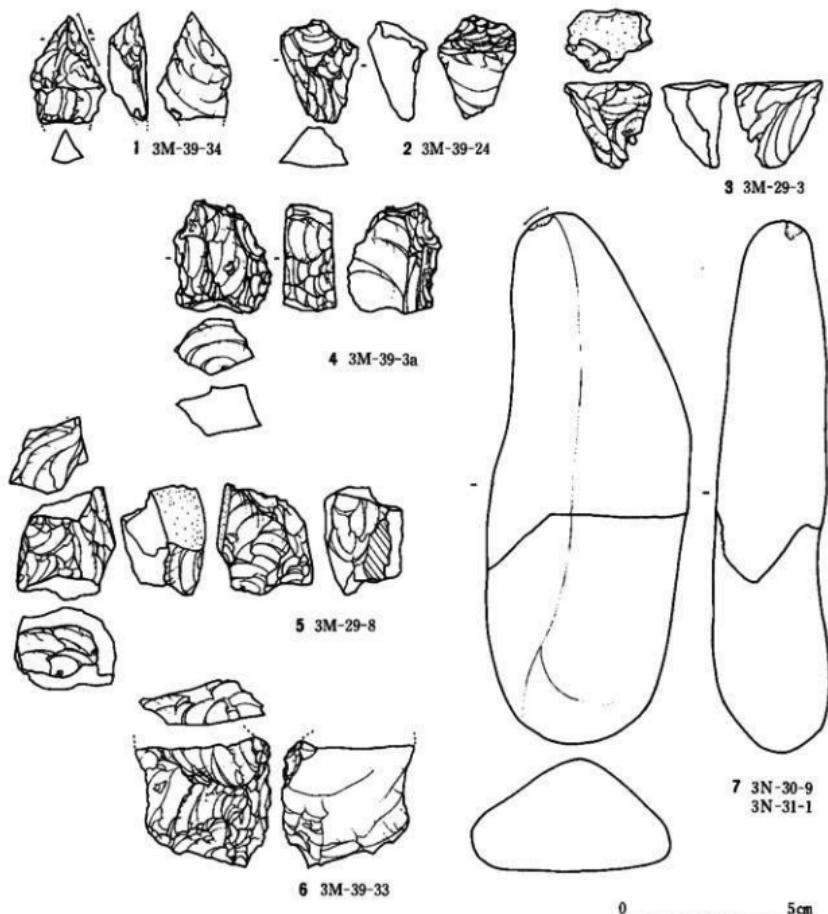


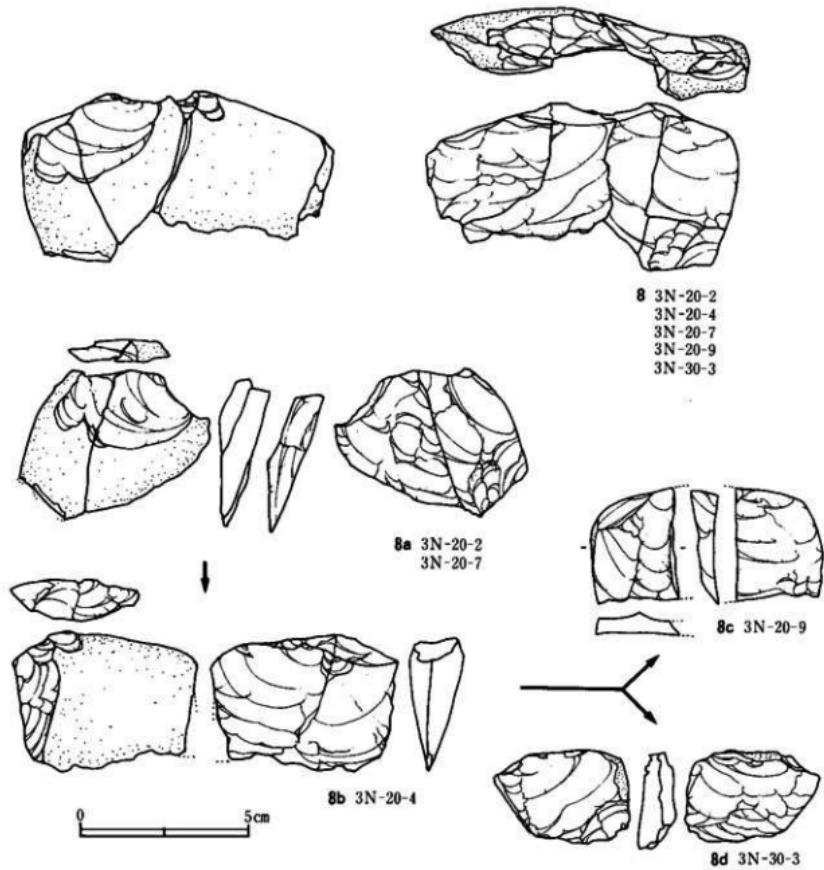
圖21 第8・第9・第10・第11プロック遺物出土状況



第22図 第8ブロック遺物出土状況図



第23図 第8ブロック石器実測図 1



第24図 第8 ブロック石器実測図 2

2・6は二次加工ある剥片である。3・5はいずれも石核として分類したが、石材が石英であり、一部に原面または節理面を残し、厚みのある立体感のある石器である、とともに広い意味で剥片であるとも考えられる。4は削器である。石材は石英である。7は敲石である。二つに割れて1mほど離れて検出された。接合して完全な原形に復元できた。長軸のやや尖った方の一端に敲打の結果と思われる浅い凹みが橢円形に観察される。石材は砂岩である。8は接合資料である。凝灰岩の大礫を原石としている。合計4点の剥片が接合するのみで、残念ながら石核は検出されていない。剥片はいずれも一部に原面を残している、これから考へても原石はそれほど大きな礫ではなさそうである。またこれら剥片には使用痕あるいは二次加工などの痕跡は観察されない。

表7 第8ブロック石器計測表

捕団 番号	遺物		分類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石材	備考
	出土地点	番号		長さ	幅	厚さ					
1	3M-39	34	ナイフ形石器	30.8	22.2	10.8	5.7		部分的	石英	
2	3M-39	24	剝片(二次)	28.9	23.3	15.6	8.0	欠損	部分的	石英	
3	3M-49	3	石核	24.9	25.6	16.4	8.7			石英	
4	3M-39	3	削器	33.1	27.5	25.3	16.2	欠損		石英	
5	3M-29	8	石核	31.6	27.3	20.8	23.2		有	石英	
6	3M-39	33	剝片	38.0	40.1	17.3	24.2	欠損	部分的	石英	
7	3N-31	1	敲石	156.3	57.1	31.3				砂岩	
	3N-30	9								砂岩	
8 a	3N-20	7	剝片	43.5	57.5	9.9	11.0			凝灰岩	
	3N-20	2	剝片				13.2			凝灰岩	
b	3N-20	4	剝片	39.7	54.6	14.4	28.4	欠損		凝灰岩	
c	3N-20	9	剝片	32.7	25.1	8.0	8.7	欠損		凝灰岩	
d	3N-30	3	剝片	26.7	41.0	9.2	11.0			凝灰岩	

## 第9ブロック(第21・25・26図、図版6・11)

第8ブロックの南に隣接してグリッド3M-59-69に検出された非常に小規模な石器群である。半径2mの範囲に点在して合計16点の石器が検出された。産出層準はVII層としてよいであろう。石材は石英、珪質頁岩、安山岩が見られる。

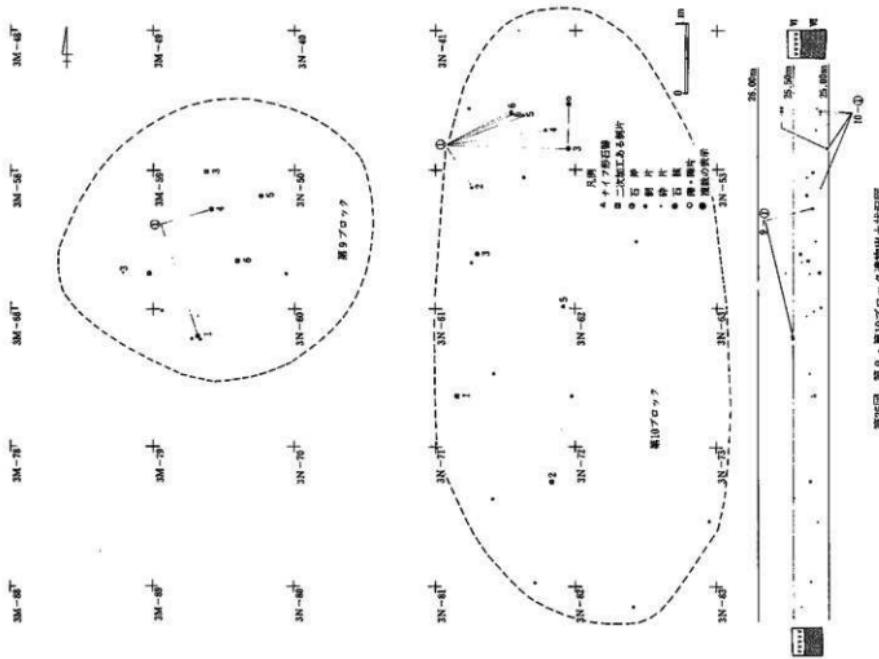
石器は削器1点、二次加工ある剝片2点、石核2点である。

1は二次加工ある剝片で、石材は石英である。2は石材が安山岩の一部に原面を残す石核である、打面調整は少なくとも2回以上は行われていると思われる。3は接合資料である。石核に厚みのある剝片1点が接合するのみである。4は縦長ではあるが、若干寸法よりの剝片の一部に二次加工が加えられている。石材は珪質頁岩。5は削器である、一部に原面を残す。石材は安山岩である。

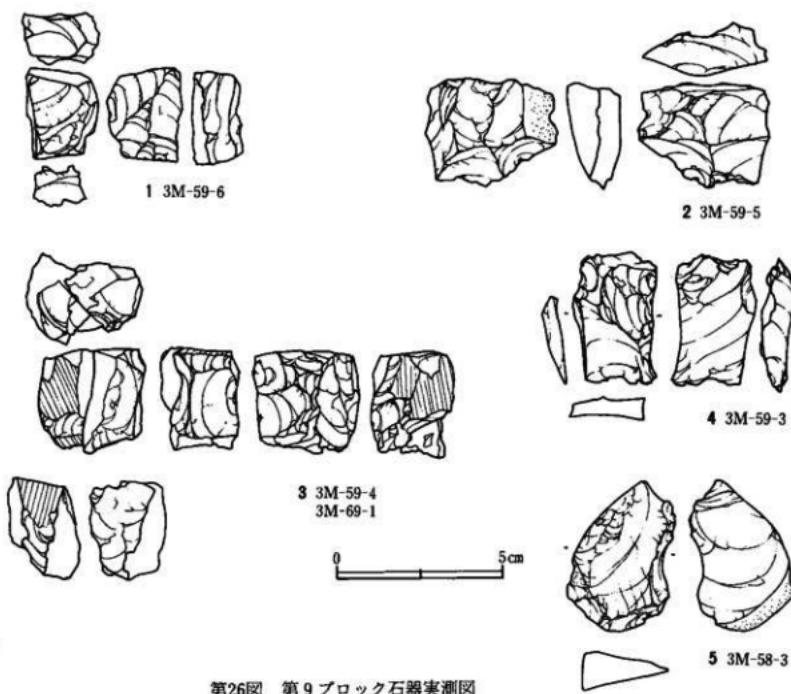
## 第10ブロック(第21・25・27・28図、図版6・12)

第9ブロックの東側に隣接して検出された石器群である。グリッド3N-41-51を主体に長径8m、短径4mの南北に長い橢円形を描く範囲に散在して合計28点の石器が検出された。産出層準はVII層上部としてよいであろう。

石器はナイフ形石器1点、二次加工ある剝片3点、接合資料でもある石斧1点、原形を多くとどめ



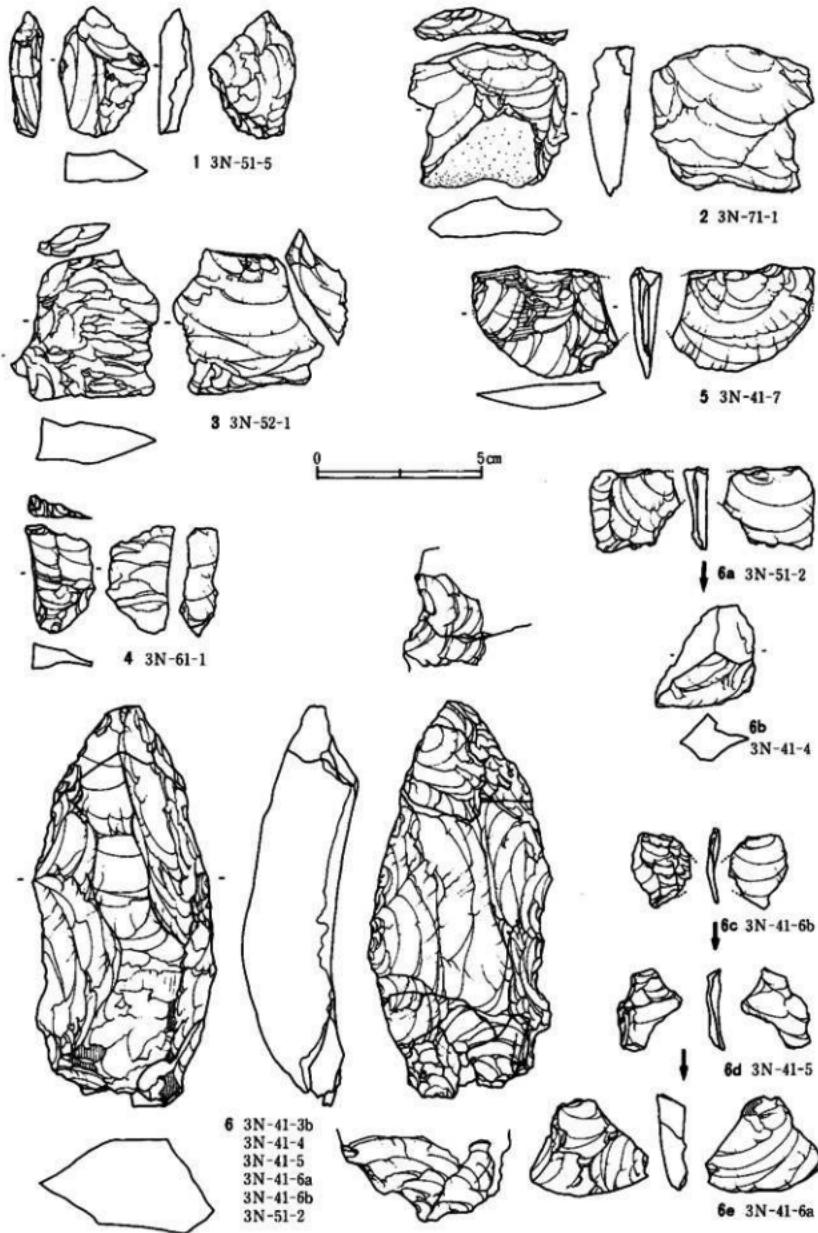
第25図 第9・第10ブロック基础土木配図



第26図 第9ブロック石器実測図

表8 第9ブロック石器計測表

番号	遺物 番号	分類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石 材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	3M-59	6 剥片(二次)	26.7	21.1	8.8	11.6		有	石英	
2	3M-59	5 石核	32.0	38.9	13.2	19.1	欠損	両面	安山岩	
3	3M-69	1 石核	27.9	29.5	29.4	10.5			石英	
	3M-59	4				16.5			石英	
4	3M-59	3 剥片(二次)	38.8	24.1	7.4	8.4	欠損	部分的	珪質頁岩	
5	3M-58	3 削器	32.6	40.9	12.6	16.3	原面	一側縁	安山岩	



第27図 第10ブロック石器実測図 1

5 cm  
0

7 3N-51-3

第28図 第10ブロック石器実測図 2

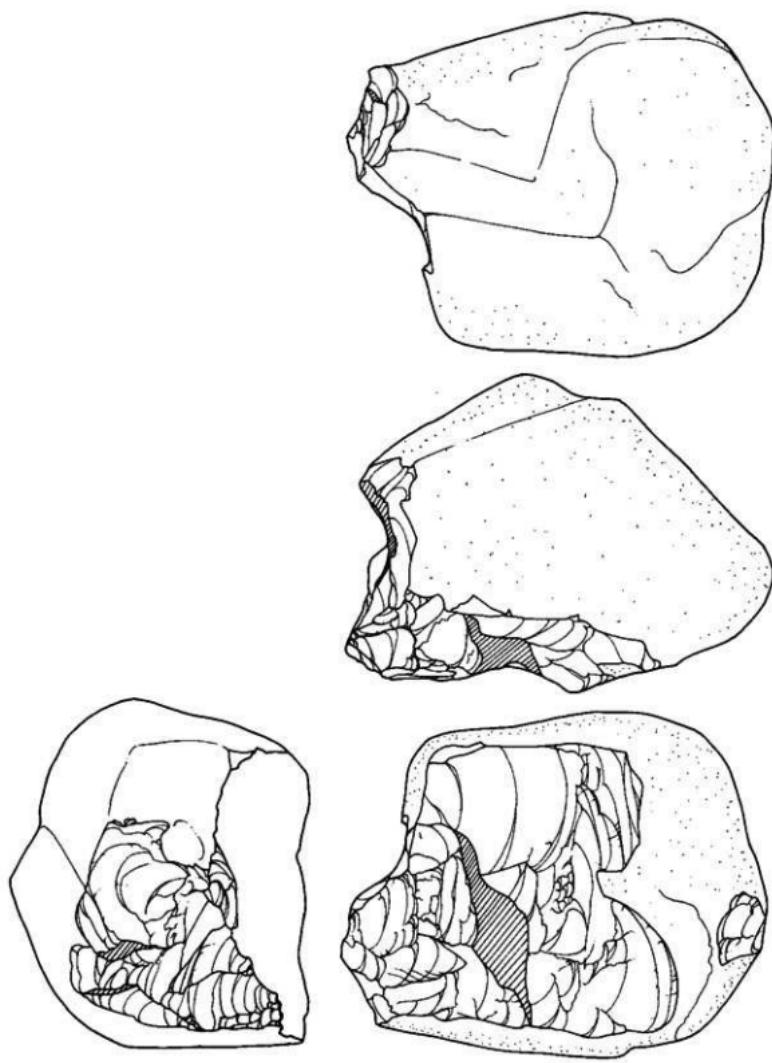


表9 第10ブロック石器計測表

挿図 番号	遺物 出土地点 番号	分類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	3N-51	5 ナイフ形石器	37.9	25.4	9.3	9.6		一側縁	石英	
2	3N-71	1 剥片	43.9	47.3	11.2	23.2	平坦		石英	
3	3N-52	1 剥片	42.5	44.4	12.7	22.3	平坦		石英	
4	3N-61	1 剥片	31.2	20.9	10.0	5.8	平坦	部分的	石英	
5	3N-41	7 剥片	30.6	42.4	8.0	12.4	平坦		凝灰岩	
6	3N-41	3 石斧	98.4	57.2	28.4	187.0		両面	凝灰岩	
a	3N-51	2 剥片	24.9	26.6	4.5	3.1	平坦		凝灰岩	
b	3N-41	4 剥片	27.5	32.1	16.4	11.5	欠損		凝灰岩	
c	3N-41	6 剥片	20.5	17.5	3.1	1.0	剝離		凝灰岩	
d	3N-41	5 剥片	28.4	34.6	7.9	1.2	平坦		凝灰岩	
e	3N-41	6 剥片	21.4	21.8	3.3	6.8	欠損		凝灰岩	
7	3N-51	3 石核	126.8	101.5	98.6	1455.0			凝灰岩	

る大形の石核1点、そして剥片が8点である。

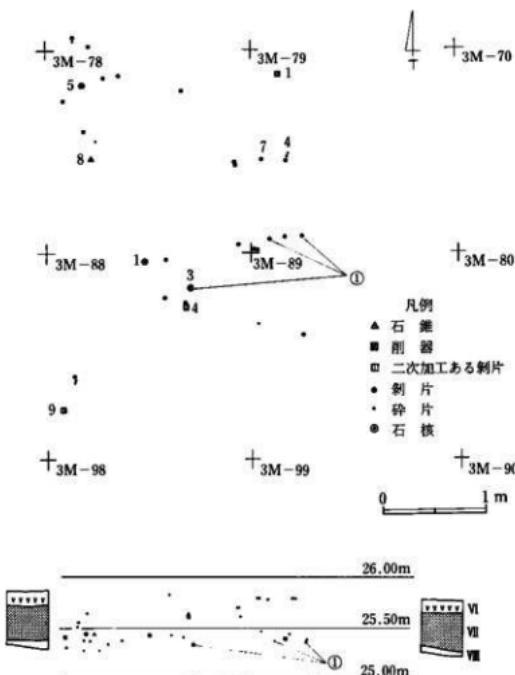
1はナイフ形石器である。石材は石英の横長剥片を素材にしている、基部付近一側縁の片面に刃溝しを行っている。2・3・5は剥片である。いずれも長さに対して幅の方が長い横長剥片で、厚みのある剥片である。石材は2・3が石英、5は凝灰岩である。4は二次加工のある剥片である。石材は石英。7は原石の大半を残す大形の石核である。石材は凝灰岩。打面を造り出し、剥片を剝離する作業が行われている。

#### 第11ブロック（第21・29・30図、図版6・12）

第10ブロックの西側と第9ブロックの南側に接するように検出された石器群である。グリッド3M-78・79を中心に半径2mの円を描く範囲に合計29点の石器が検出された。若干上位のVI層からの出土もみられるが、中心はVII層にあり、本石器ブロックの層産出層準はVII層としてよいであろう。

石器は石錐1点、石核2点、二次加工のある剥片2点、剥片3点である。石材は石英がほとんどを占めほかに安山岩が僅かに伴うのみである。

1は石錐である、石材は石英。背部側から先端近くを両側より調整し尖端を造り出している。また基部付近にも調整を加えている。2は石英の厚みのある剥片、5は安山岩の薄い横長な剥片に二次加工を加えている。4は石英の削器である。6は石核である。打面の転移を繰り返し行っている。7は

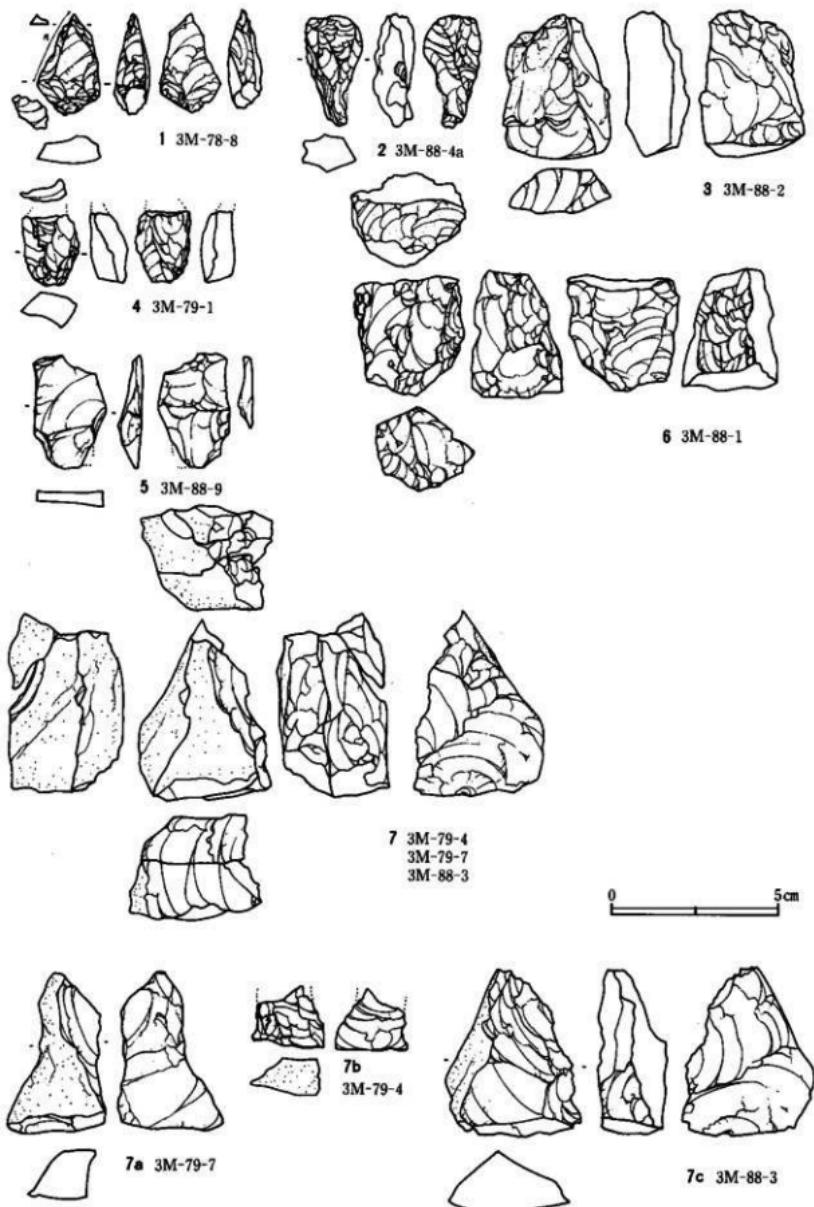


第29図 第11ブロック遺物出土状況図

7cの石核を中心とする接合資料である。接合するのは刻片のみである。石核・刻片共に原面を多く残す。

#### 第12ブロック (第31~33図、図版6・13)

調査区の東寄り、グリッド3K-79+89を中心に検出された石器群である。半径3mの円を描く範囲に合計96点の石器及び砾・砾破片が検出された。石器はIII層下部からIV層に渡って検出しているが、大半はIII層からの検出であり、本ブロックの产出層準はソフトローム (III層) 下部としてよいであろう。



第30図 第11ブロック石器実測図

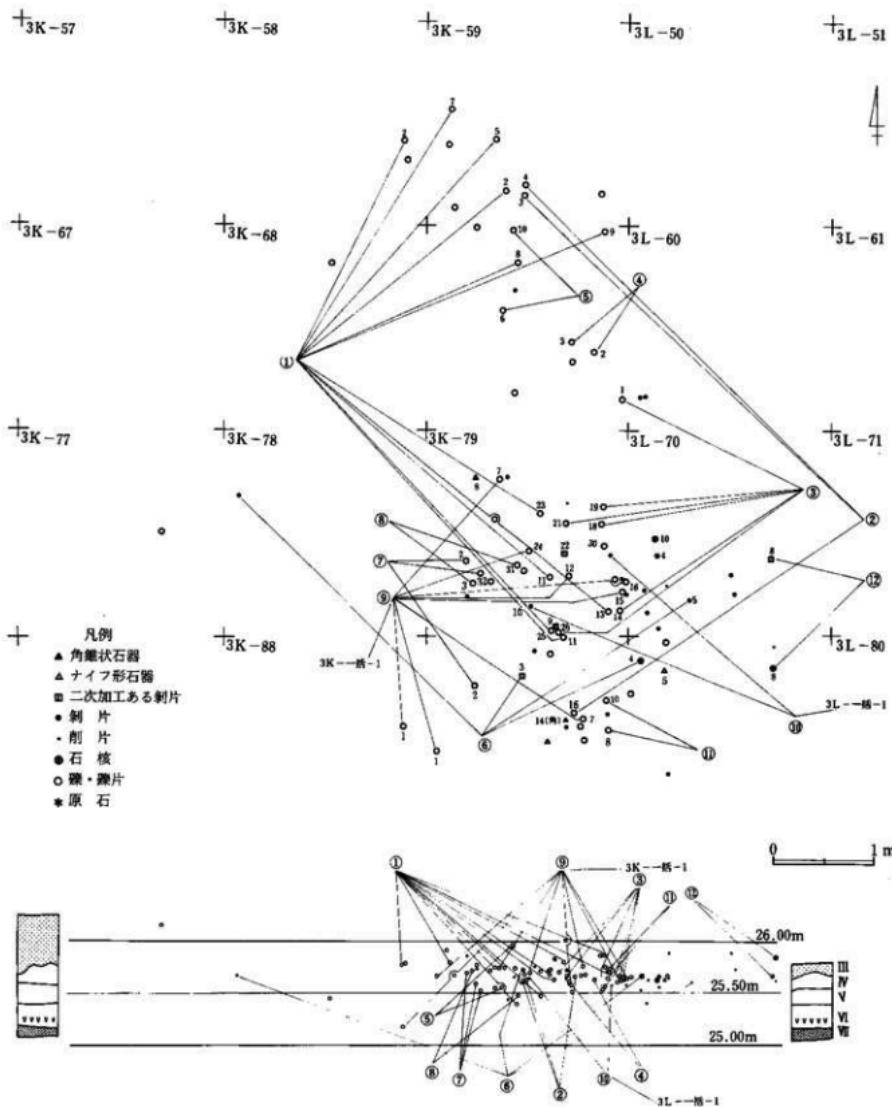
表10 第11ブロック石器計測表

擇番号	遺物		分類	計測値(mm)			重量(g)	打面	細部調整	石材	備考
	出土地点	番号		長さ	幅	厚さ					
1	3M-78	8	石錐	29.4	18.0	9.5	4.8		有	石英	
2	3M-88	4	剝片(二次)	32.9	17.6	11.4	5.9		有	石英	
3	3M-88	2	剝片	42.9	33.7	19.7	27.6			石英	
4	3M-79	1	削器	20.1	15.4	10.5	3.4		周辺	石英	
5	3M-88	9	剝片(二次)	32.4	21.3	6.2	4.6	欠損	部分的	安山岩	
6	3M-88	1	石核	39.8	34.5	24.4	32.6		有	石英	
7a	3M-79	7	剝片	45.9	29.8	14.6	19.7			石英	
b	3M-79	4	剝片	17.5	21.3	16.8	3.5			石英	
c	3M-88	3	石核	49.3	41.3	18.9	38.1		有	石英	

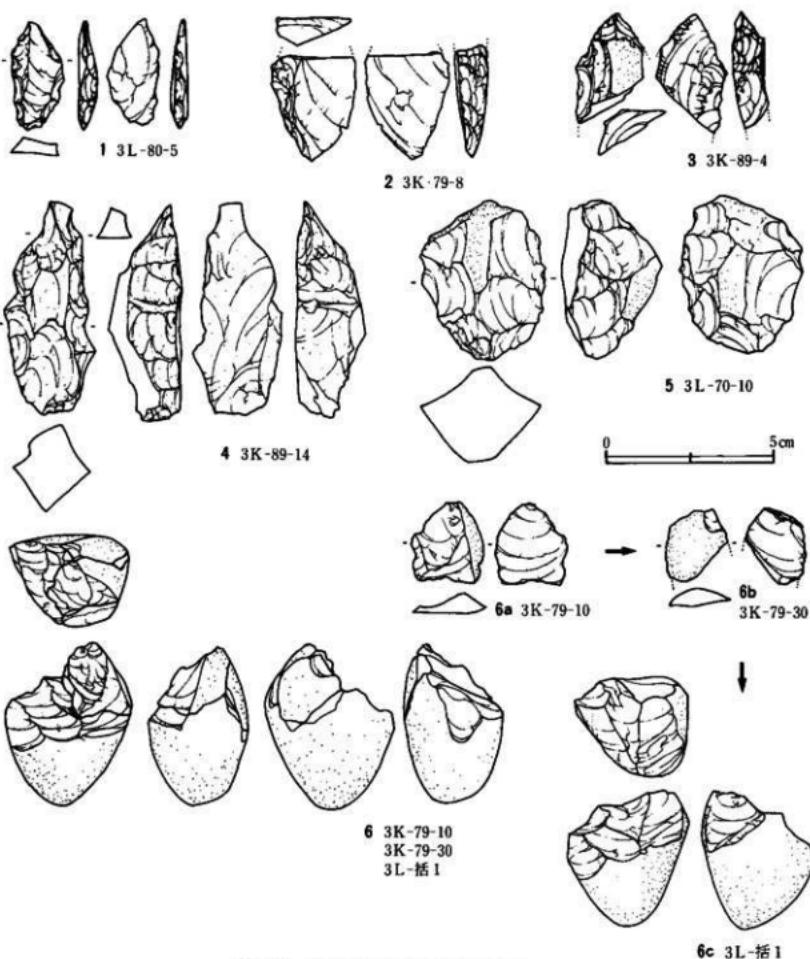
石器はナイフ形石器3点、角錐状石器1点、二次加工のある剝片2点、石核4点、剝片3点がおもな石器である。石材は安山岩が最も多く、黒曜石、凝灰岩が続く。

1は石材が安山岩のナイフ形石器である、横長の剝片を使用し片面、両側縁に調整を行っており、調整は基部付近まで至っている。2は石材が安山岩の横幅のある剝片を用いたナイフ形石器である。刃部付近は欠損しており全容を知り得ない。打面付近一側縁、片面に刃溝し加工を加えている。3は石材が黒曜石の横長剝片を用いたナイフ形石器である。基部付近を欠損しており、2同様全容を知り得ない。一側縁、片面に刃溝し加工を加えている。4は厚みのある錐状石器である。石材は凝灰岩。背部側の二側縁、片面に鋸歯状の粗めの調整を加えている。一部に原面を残す。5は安山岩の石核である。打面転移を繰り返している。原面を二面に残しており、素材の石材が小さな礫であることが分かる。6~8は石核を中心とした接合資料である。石材はいずれも安山岩である。素材である小さな礫から効率よく剝片(多くは寸づまりの横幅のある)を取り出そうと努力している様子が見て取れる。

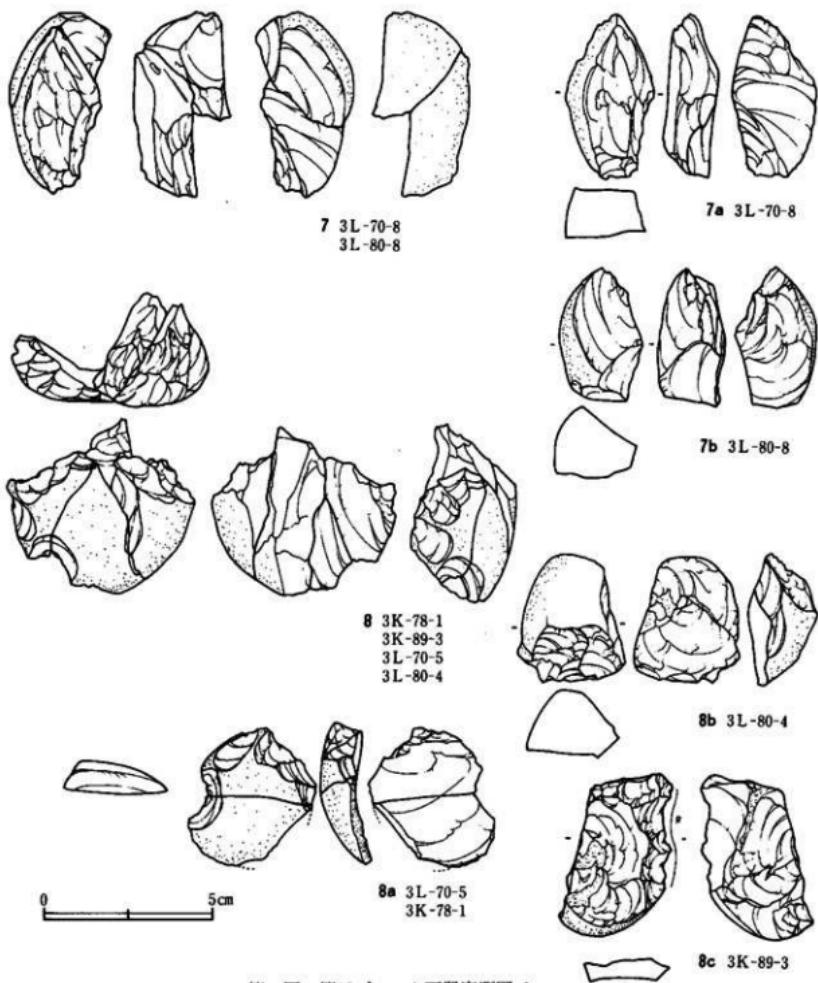
本ブロックを特徴づけるものは多くの礫・礫破片の出土であろう。礫は約1mほどの隔りをおいて2つのグループに大きく別れて検出されたが、接合はこの2つのグループ間で行われており、一つの礫群としてよいであろう。礫破片については46点について最低2点以上の接合がみられた。すべてが断片的な接合で、原形を知ることができるものはなかった。これら礫破片の多くは被熱により小破片に分割したと考えられる。



第31図 第12ブロック遺物出土状況図



第32図 第12ブロック石器実測図 1



第33図 第12ブロック石器実測図 2

表11 第12ブロック石器計測表

擲出番号	遺物番号	分類	計測値(mm)			重量(g)	打面	細部調整	石材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	3L-80	5	ナイフ形石器	31.9	15.6	5.2	3.0	欠損	二側縁	安山岩
2	3K-79	8	ナイフ形石器	31.9	24.9	9.1	7.1	欠損	一側縁	安山岩
3	3K-89	4	ナイフ形石器	34.1	20.8	9.2	4.8	欠損	一側縁	黒曜石
4	3K-89	14	角錐状石器	62.9	30.7	20.1	35.8	欠損	周辺	凝灰岩
5	3L-70	10	石核	46.8	36.7	29.7	45.8		有	安山岩
6 a	3K-79	10	剝片	24.9	22.0	6.3	2.7	原面		安山岩
b	3K-79	30	剝片	21.1	17.8	6.0	2.2	平坦	有	安山岩
c	3K-89	1	石核	41.9	37.2	28.1	43.1		有	安山岩
7 a	3L-70	8	剝片(二次)	48.2	25.4	14.3	20.4		部分的	安山岩
b	3L-70	8	石核	40.9	24.2	20.5	22.1			安山岩
8 a	3K-78	5	剝片	40.7	36.4	11.1	8.9	平坦		安山岩
	3K-78	1	剝片				6.5			安山岩
b	3L-80	4	石核	37.7	30.5	18.9	22.3		有	安山岩
c	3K-89	3	剝片(二次)	49.9	30.8	10.8	20.5		一側縁	安山岩

## 第13ブロック (第34・35図、図版6・13)

調査区の中央付近やや台地の奥まったグリッド3J-00・01に検出された石器群である。直径2mの円を描く範囲に合計が10点と小規模な石器群である。産出層準はV層としてよいであろう。石器はナイフ形石器1点、楔形石器1点である。石材はすべて黒曜石である。

1はナイフ形石器は基部付近は欠損しており全容を知り得ない。刃部付近に一側縁、片面に調整を加えている。石材は黒曜石である。2は楔形石器である。一对の階段状の刃部を持つ。

## 第14ブロック (第36・37図、図版6・13)

第13ブロックの北側に隣接してグリッド2J-80を中心に検出された石器群である。半径2mの円を描く範囲に点在して分布する合計9点の非常に小規模な石器群である。一部VI層からの出土もみられるが、産出層準はV層としてよいであろう。

石器はナイフ形石器1点、二次加工のある剝片3点である。石材はすべて黒曜石である。

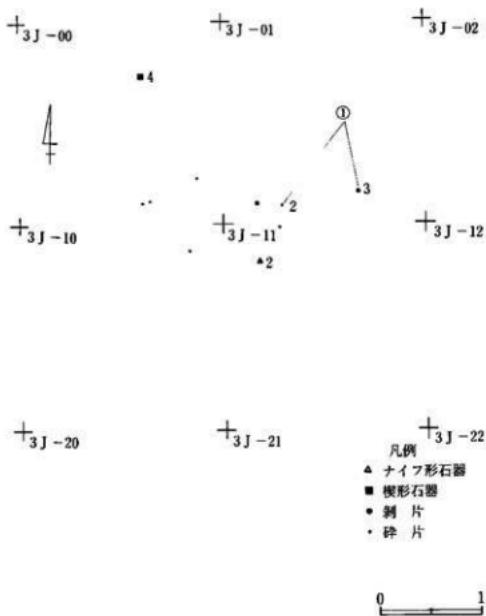
1は横長剝片に二次加工が加えられている。切断によるものなのか半分欠損している。2は一側縁の片側に二次加工を加えている。3はナイフ形石器である。基部付近を欠損している。二側縁、片面

表12 第12ブロック礫・礫破片接合表

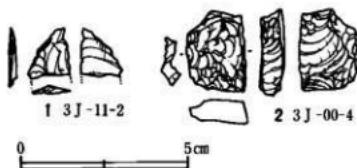
資料番号	石材	復原率(%) 総重量(g)	破片 数量	接合遺物番号	備考
1	流紋岩	断片 (116.0)	9	3K 79-7/12/15/16/24	
2	安山岩	断片 (129.5)	6	3K 69-1+3K 79-14/18/19/21/26	
4	チャート	断片 (114.8)	11	3K-58-2+3K59-2/5/7+3K69-8/9+3K79-13/23/25+3K89-11	
11	流紋岩	断片 (110.3)	2	3I17-1 [2]	
13	安山岩	断片 (25.2)	2	3K 69-2/3	
14	不明	断片 (77.7)	3	3K 59-3/4+3K 89-16	
15	砂岩	断片 (166.1)	2	3I05-1+3I06-5	
17	砂岩	断片 (5.7)	2	3M 28-2+3M 39-16	
18	砂岩	断片 (26.3)	2	3K 69-6/10	
19	砂岩	断片 (7.9)	2	3K 79-3/31	
20	砂岩	断片 (49.3)	3	3K 79-2/32+3K 89-2	
25	安山岩	断片 (47.7)	2	3K 89-8/10	

\* 資料番号は遺物接合図の接合資料番号と一致する。

\* 復元率で「断片」とした資料は接合資料自体が小さく、復元率を求めるのが困難な資料である。



第34図 第13ブロック遺物出土状況図



第35図 第13ブロック石器実測図

表13 第13ブロック石器計測表

捕団 番号	遺 物		分 類	計測値(mm)			重 量 (g)	打面	細部調整	石 材	備 考
	出土地点	番号		長さ	幅	厚さ					
1	3J-11	2	ナイフ形石器	13.9	12.0	2.7	0.4	欠損	有	黒曜石	
2	3J-00	4	横形石器	25.0	17.9	7.1	4.0	欠損	上下両端	黒曜石	

+<sub>2I</sub>-78

+<sub>2I</sub>-79

+<sub>2J</sub>-70

+<sub>2J</sub>-71

+<sub>2I</sub>-88

+<sub>2I</sub>-89

+<sub>2J</sub>-80

+<sub>2J</sub>-81

+<sub>2I</sub>-98

+<sub>2I</sub>-99

+<sub>2J</sub>-90

+<sub>2J</sub>-91

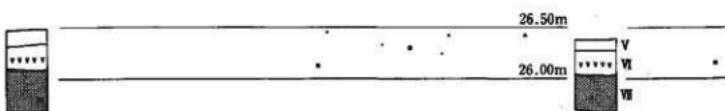
- 凡例
- △ ナイフ形石器
  - 刻 器
  - 二次加工ある剥片
  - 剥 片
  - 破 片
  - 磨・擦片

■ 2

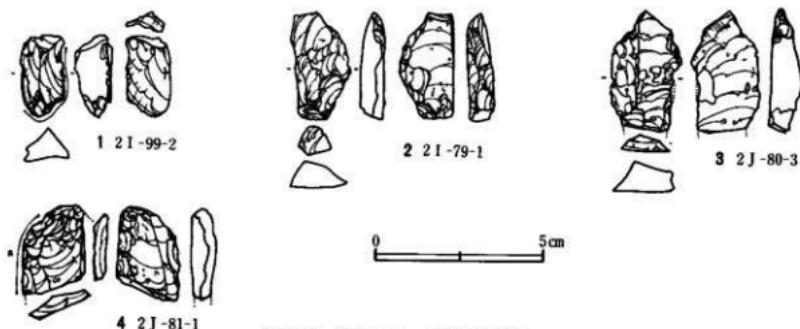
▲ 3

1

0 1m



第36図 第14ブロック遺物出土状況図



第37図 第14ブロック石器実測図

表14 第14ブロック石器計測表

捕図 番号	遺 物 番号	分 類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石 材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	2J-99	2 削片(二次)	24.0	12.6	10.3	2.5	欠損	周辺	黒曜石	
2	2J-79	1 削器	31.8	16.6	7.8	4.4	欠損	周辺	黒曜石	
3	2J-80	3 ナイフ形石器	36.3	20.1	9.0	5.6	欠損	二側縁	黒曜石	
4	2J-81	1 削片(二次)	27.8	18.5	6.9	3.8	原面	周辺	黒曜石	

に刃溝し加工の調整が加えられている。4は二次加工のある削片である。

#### 第15ブロック (第38図、図版7)

第13ブロックの西側に隣接するようにしてグリッド3I-06・16を中心に検出された石器群である。半径2mの円を描く範囲に点在して分布する合計14点の小規模な石器群である。産出層準はVII層上部としてよいであろう。石材は砂岩が最も多く、ほかに礫岩・チャートが見られる。石器は二次加工ある削片1点を含め5点で、ほかは礫破片である。

接合は礫破片にみられるだけであり、いずれも断片的に接合するのみで、図示できるほどの石器、礫の接合はなかった。

#### 第16ブロック (第39・40図、図版7・13)

調査区のほぼ中央、グリッド3H-08を中心に検出された石器群である。半径2mの円を描く範囲に点在して分布する合計13点の小規模な石器群である。遺物の出土はV層・VI層に多く、一部VII層から出土がみられるものの、産出層準はV層下部としてよいであろう。

石器は、ナイフ形石器2点、剥片が1点接合する石核が1点である。石材はチャートが最も多く、ほかに安山岩・珪質頁岩・黒曜石が見られる。

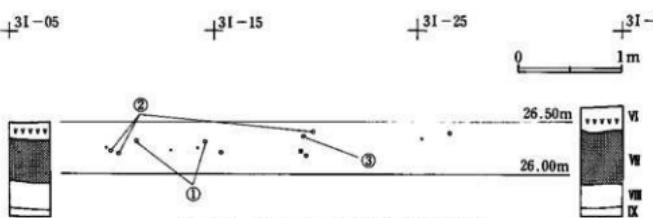
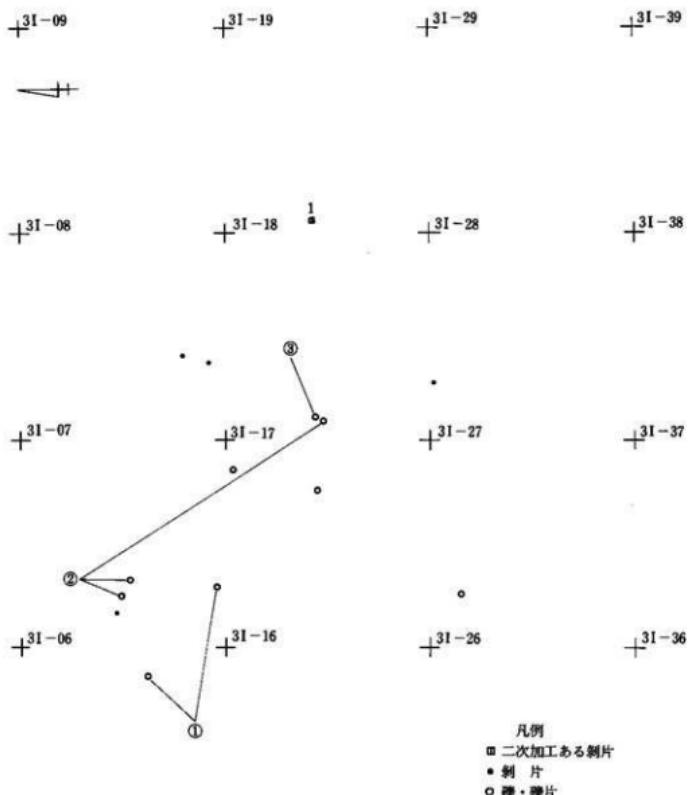
1は石材がチャートのナイフ形石器である。二側縁、片面に調整が加えられており、一方は基部まで加工が及んでいる。2は石材が珪質頁岩のナイフ形石器である。打面を大きく残す厚みのある剥片である。二側縁、片面に調整が行われている。3は石核に剥片が接合する接合資料である。石材は安山岩。石核は複数回打面を転移している。

#### 第17ブロック（第41・42図、図版7・14）

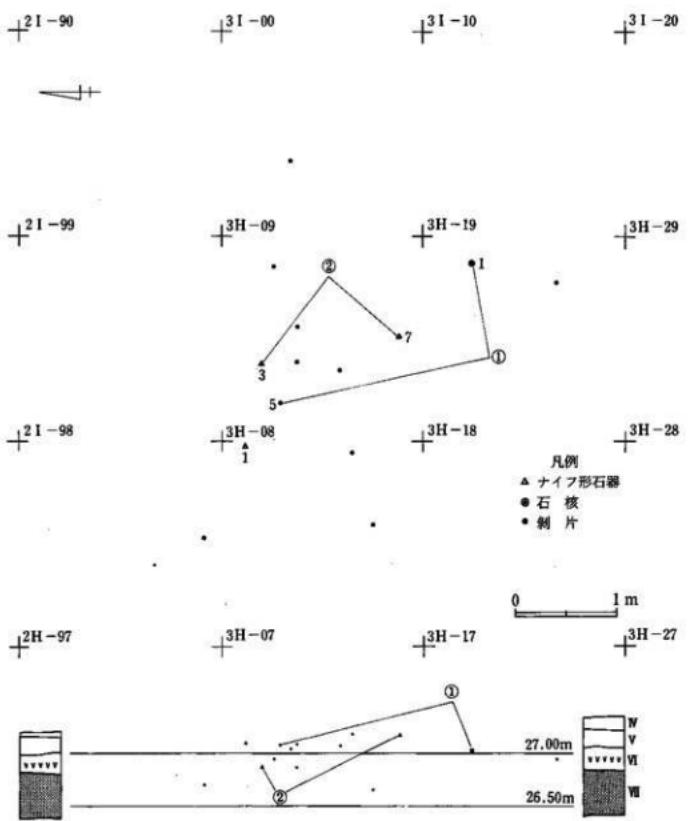
調査区の西寄り、61年度の調査で検出された石器群で、東の谷から約200m、最も台地の奥部のグリッド5D-04を中心にして検出されている。半径2.5mの円を描く範囲に極めて散漫に分布する合計9点の非常に小規模な石器群である。一部漸移層からの出土もみられるが、産出層準はソフトローム層(III層)としてよいであろう。

石器はナイフ形石器1点、二次加工のある剥片1点、そのほかは剥片4点である。石材は珪質頁岩・安山岩・砂岩が見られる。

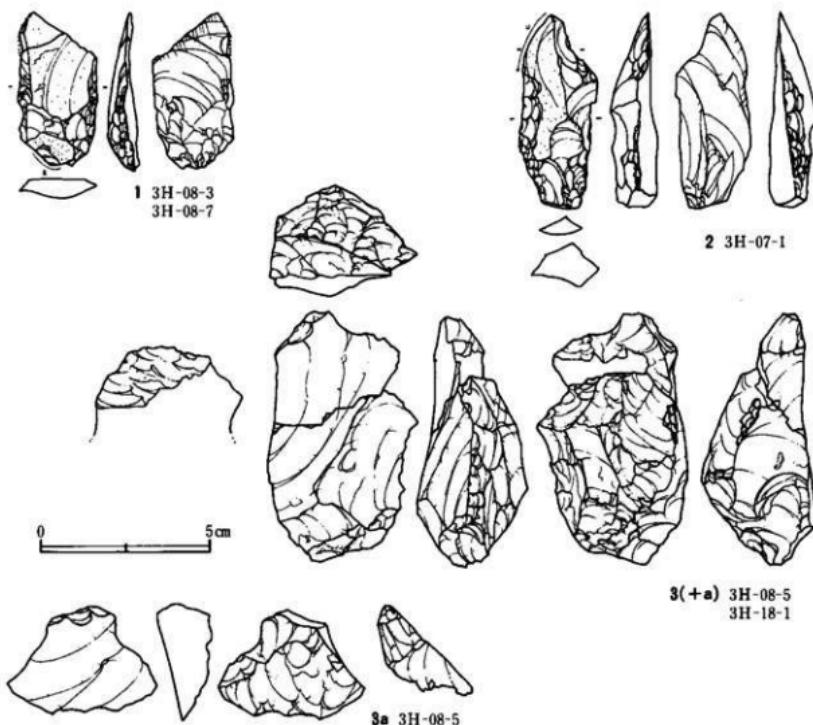
1は珪質頁岩のナイフ形石器である。原面を残す横長剥片を用い、二側縁、片面に基部に至まで調整を加えている。2は安山岩の横長剥片である、一部に原面を残す。3は珪質頁岩の剥片である。4は安山岩の横長剥片である。5・6は凝灰岩の剥片である。



第38図 第15ブロック遺物出土状況図



第39図 第16ブロック遺物出土状況図



第40図 第16ブロック石器実測図

表15 第16ブロック石器計測表

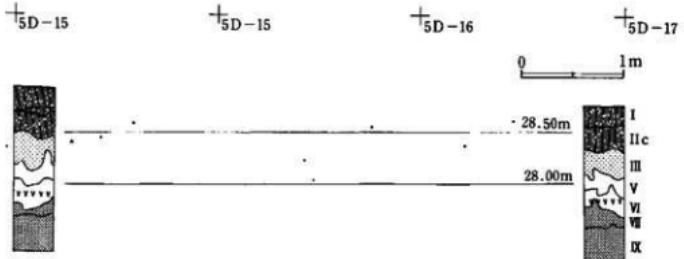
擲図 番号	遺物		分類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石 材	備考
	出土地点	番号		長さ	幅	厚さ					
1	3H-08	7	ナイフ形石器	45.8	23.9	9.0	7.9	点状	二側縁	チャート	
	3H-08	3					0.4				
2	3H-07	1	ナイフ形石器	56.7	21.3	14.1	13.9	平坦	二側縁	珪質頁岩	
3+a	3H-18	1	石核	55.9	45.3	31.2	72.2			安山岩	
a	3H-08	5	剥片	31.3	43.1	14.7	14.7	有		安山岩	

+<sub>4D-84</sub>                    +<sub>4D-85</sub>                    +<sub>4D-86</sub>                    +<sub>4D-87</sub>

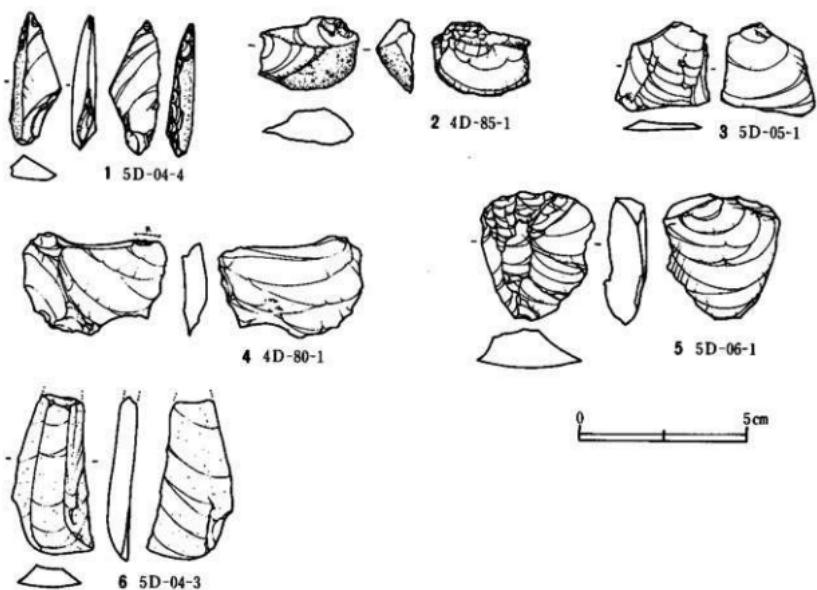
+<sub>4D-94</sub>                    +<sub>4D-95</sub>                    +<sub>4D-96</sub>                    +<sub>4D-97</sub>

凡例  
△ナイフ形石器  
●剥片  
・碎片

+<sub>5D-04</sub>                    +<sub>5D-05</sub>                    +<sub>5D-06</sub>                    +<sub>5D-07</sub>



第41図 第17ブロック遺物出土状況図



第42図 第17ブロック石器実測図

表16 第17ブロック石器計測表

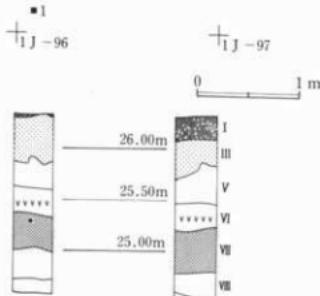
捕図 番号	遺物		分類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石材	備考
	出土地点	番号		長さ	幅	厚さ					
1	5D-04	4	ナイフ形石器	39.2	14.5	7.6	3.7	欠損	二側縁	珪質頁岩	
2	4D-85	1	剝片	22.2	29.4	10.8	6.4	欠損		安山岩	
3	5D-05	1	剝片	25.6	27.5	3.8	2.6	平坦		珪質頁岩	
4	4D-80	1	剝片	28.9	42.2	8.1	10.2	欠損		安山岩	
5	5D-06	1	剝片	37.3	33.7	11.3	15.1	平坦		凝灰岩	
6	5D-04	3	剝片	47.0	22.6	6.6	8.8	欠損		凝灰岩	

#### ブロック外出土石器（第43～51図、図版7～9・14・15）

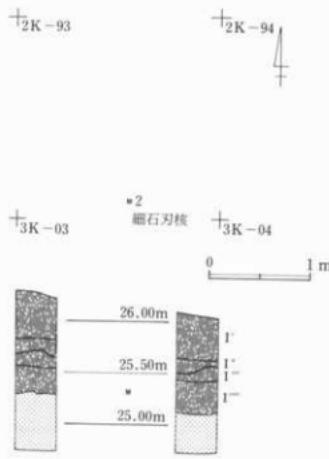
ここでは石器群としてまとまりをもたない、あるいは単独で検出された石器、あるいは表採などで出土したもので先土器時代の所産と思われる石器をまとめて示すことにする。第43図～48図はこれら石器の検出状況を示したものである。

第49図はグリッド3Eを中心に出土した石器をまとめたものである。出土状況は第47・48図に示したとおりである。1は珪質頁岩のナイフ形石器である。基部付近の一部を欠損している。二側縁、片面に刃潰し調整を加えている。2は黒曜石のナイフ形石器である。刃部・基部付近とともに欠損しており全容を知り得ない。現存部を見ると一側縁、片面に刃潰し調整を加えている。3は珪質頁岩の剝片である。横幅のある一部に原面を有する。4は使用痕のある剝片である、石材は凝灰岩。3同様横幅のある剝片である。5は原面を多く残す大型の石核である、石材は珪質頁岩。残念ながら接合する破片などは検出されていない。

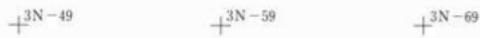
第50・51図は上記以外のグリッド及び表採で先土器時代の所産と考えられる石器をまとめたものである。出土状況は第43～46図に示すとおりである。6は粘板岩の尖頭器である。片面に原面を一部に残す横長剝片を用いて二側縁、両面に調整を加え、木葉状の尖頭器としている。7は楔形石器である、石材は黒曜石。一対の刃部を持つ。8は横幅のある寸ばかりの黒曜石の剝片に二次加工を片面に加えている。9は黒曜石の石核である。剝片または石刃をともなっていないが、残核の大きさ、剝片剝離などの状況を考え合わせると細石刃核としてよさそうである。10は安山岩の剝片である。片面に原面を多く残している。11は閃綠岩の礫を利用した敲石である。長軸の一方が使用による結果と思われるが欠損している。また、平坦面の一部にやはり敲打によると考えられるわずかな凹みが観察される。12は珪質頁岩の礫破片であるが、石核としてよいであろう。13は凝灰岩の尖頭器である。片面に原面を残し、腹面の二側縁片面に調整を加えている。しかし調整の状況などを見るとまだ完形品ではなく製作途上のものと考える。14は珪質頁岩のナイフ形石器である、一側縁、片面に調整を加えている。15・16・17は凝灰岩の剝片である。



第43図 ブロック外(1J)遺物出土状況図 1



第45図 ブロック外(2K)遺物出土状況図 3

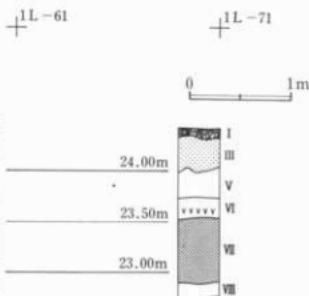


3N-59

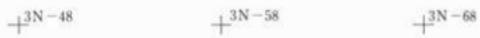
3N-69

凡例  
・剥片

凡例  
・剥片



第44図 ブロック外(1L)遺物出土状況図 2



3N-58

3N-68



3N-57

3N-67



第46図 ブロック外(3N)遺物出土状況図 4

+<sup>3</sup>L-77                    +<sup>3</sup>L-87                    +<sup>3</sup>L-97



+<sup>3</sup>L-76                    +<sup>3</sup>L-86                    +<sup>3</sup>L-96

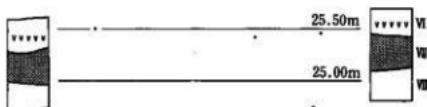


+<sup>3</sup>L-75                    +<sup>3</sup>L-85                    +<sup>3</sup>L-95

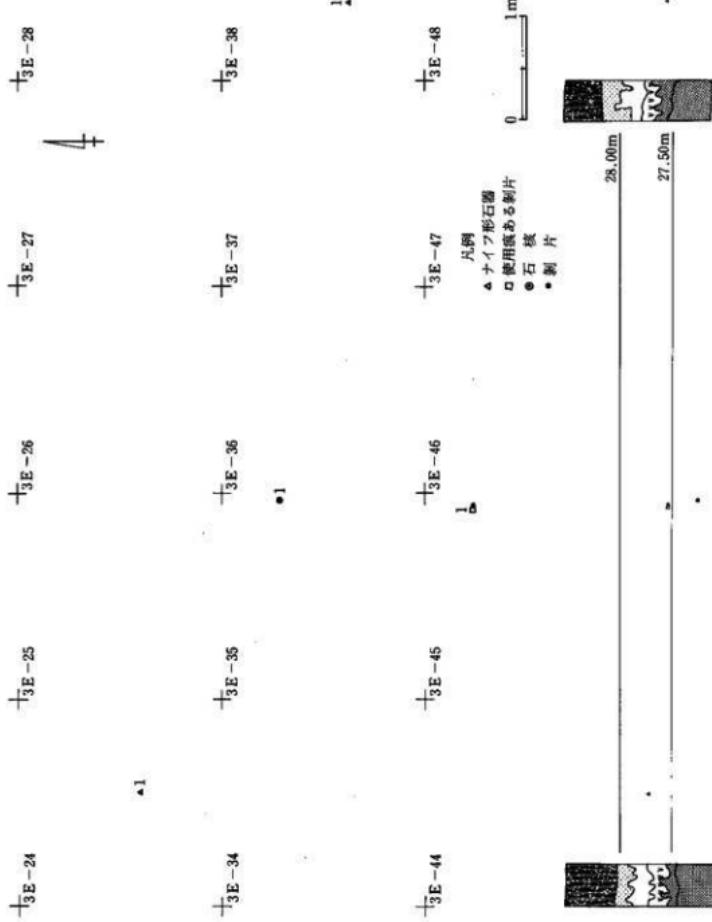
凡例  
● 刺 片  
○ 球・環片

+<sup>3</sup>L-74                    +<sup>3</sup>L-84                    +<sup>3</sup>L-94

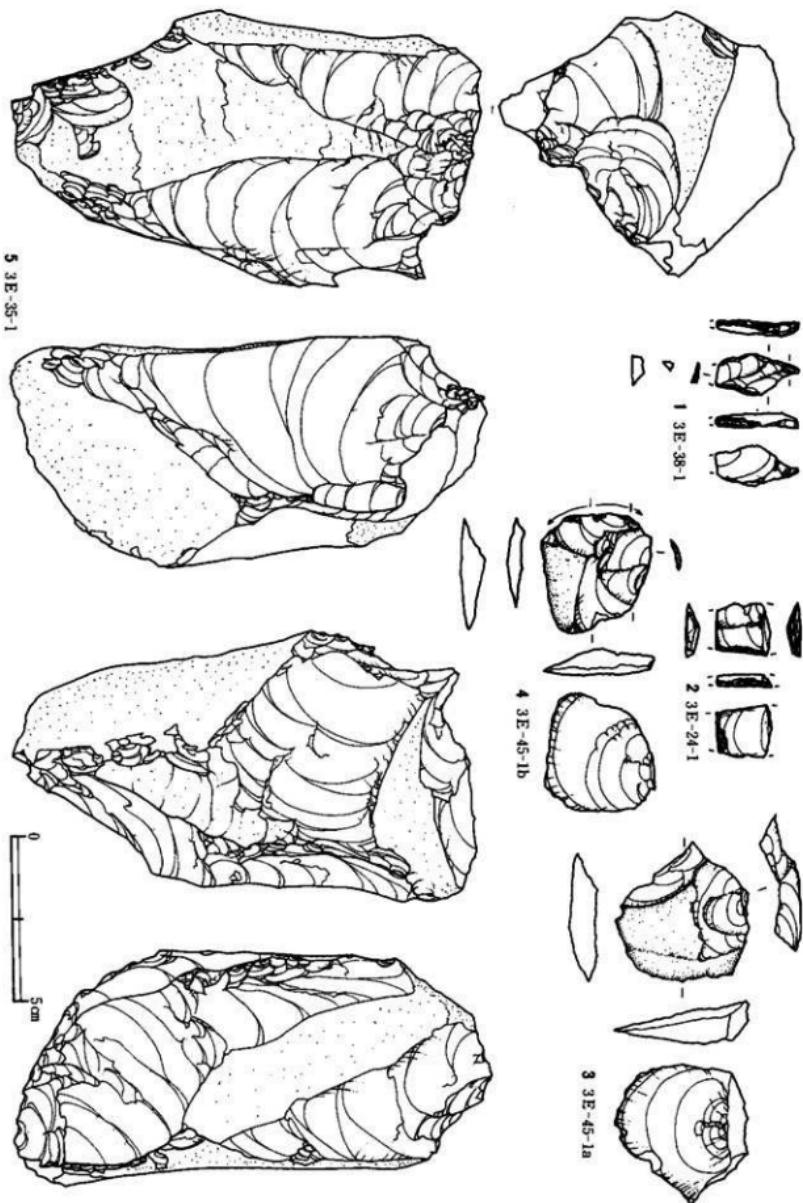
0                            1m



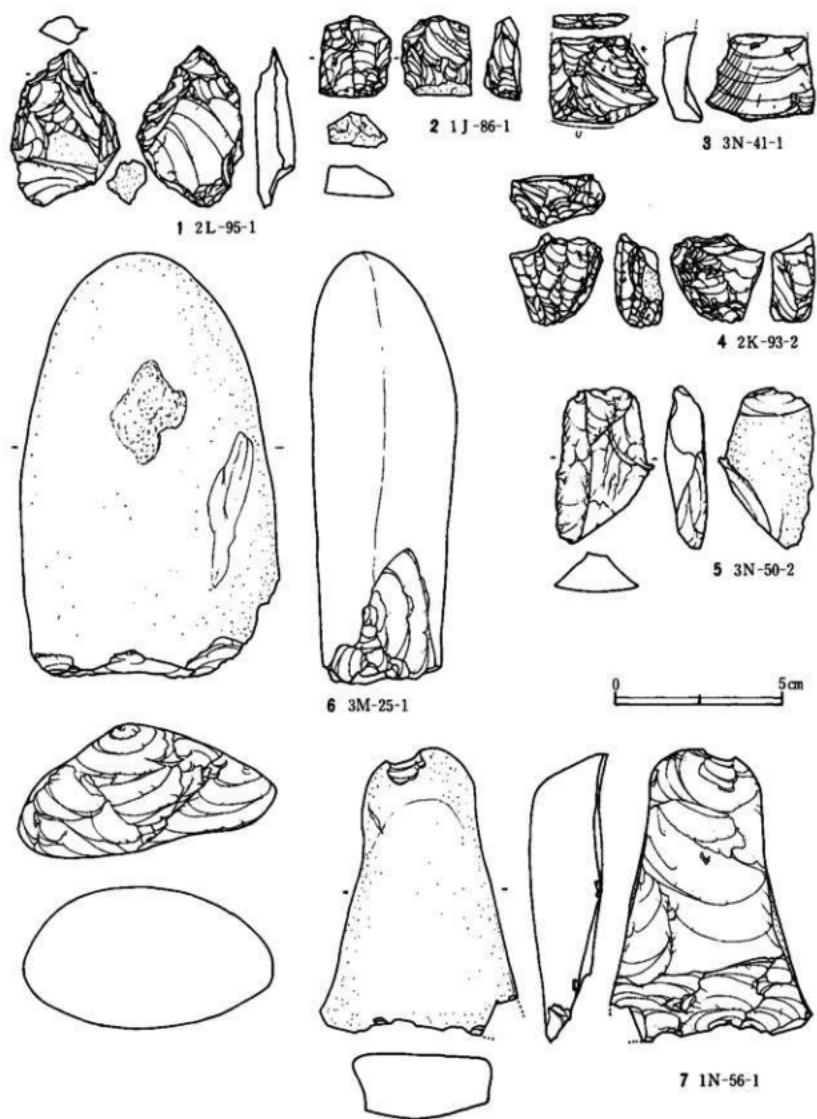
第47図 ブロック外(3 L)遺物出土状況図 5



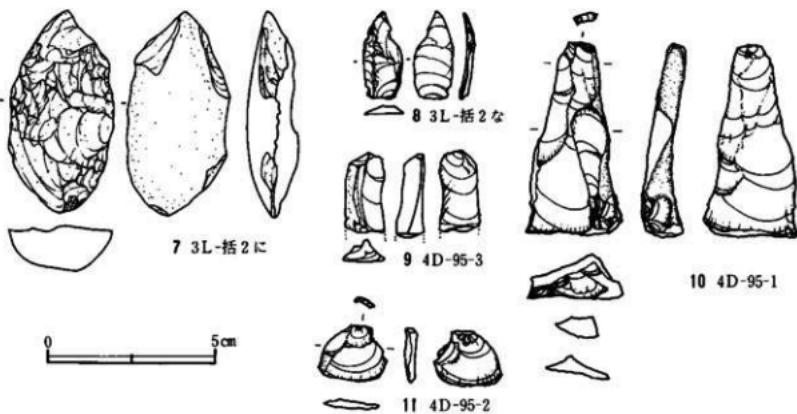
第48図 ブロック外(3E)遺物出土状況図 6



第49図 プロック外石器実測図 1



第50図 ブロック外石器実測図 2



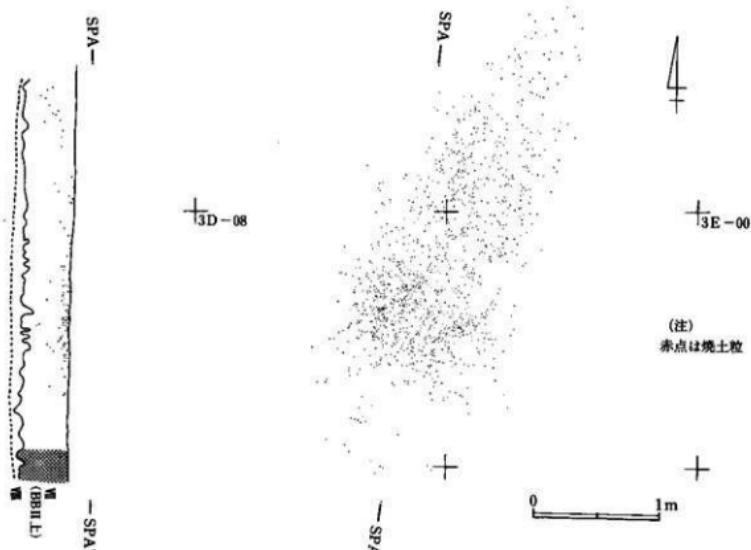
第51図 ブロック外石器実測図 3

表17 ブロック外・表探石器計測表

捕获番号	遺物番号	分類	計測値(mm)			重量(g)	打面	細部調整	石材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	3E-38	1 ナイフ形石器	25.5	12.0	4.7	1.3	欠損	二側縁	珪質頁岩	
2	3E-24	1 ナイフ形石器	16.9	15.8	3.8	1.2	欠損	一側縁	黒曜石	
3	3E-45	1 剝片	33.6	35.1	6.9	15.6	平坦		珪質頁岩	
4	3E-45	1 剝片	41.3	41.6	9.9	8.6	平坦		凝灰岩	
5	3E-35	1 石核	142.5	77.2	67.3	802.0		有	珪質頁岩	
6	2L-95	1 尖頭器未製品	46.5	31.5	11.0	15.1	原面	有	粘板岩	
7	1J-86	1 楔形石器	24.3	20.7	9.4	5.2	欠損	上下両端	黒曜石	
8	3N-41	1 剝片(二次)	26.5	31.2	9.9	5.9	欠損	部分的	黒曜石	
9	2K-93	2 細石刃核	26.6	27.0	13.5	10.3		有	黒曜石	
10	3N-50	2 剝片	45.2	28.7	11.7	16.0	片面		安山岩	
11	3M-25	1 敲石	120.2	70.7	40.2	659.0		一端	閃綠岩	
12	1N-56	1 石核	84.7	60.2	20.2	117.4		一端	珪質頁岩	
13	3L	表探 尖頭器未製品	60.8	29.7	14.7	29.5	片面		凝灰岩	
14	3L	表探 ナイフ形石器	26.1	11.9	2.5	0.7	欠損	二側縁	珪質頁岩	
15	4D(95)	3 剝片	24.2	12.1	9.8	2.2	平坦		凝灰岩	
16	4D(95)	1 剝片	58.0	28.4	11.8	12.8	平坦		凝灰岩	
17	4D(95)	2 剝片	16.4	20.3	3.3	1.0	平坦		凝灰岩	

### 炭化物の集中地点（第52図、図版9）

第3次の調査地区、グリッド2D-98・99、3D-08・09のローム層中に検出された。第17ブロックの北側に位置し、17地点もの石器群が検出された地域よりに西に寄った地点であり、台地の奥まった地点である。長径4m、短径2mの南北に長い橿円形を描く範囲から検出された。層準的にはVII層の上部にあたる。また、南側では径1mの範囲に焼土粒も混在して検出されている。炭化物・焼土粒の分布の密度を見てみると平面的にも垂直的にもそれ程の密度は持っていない状況にある。また、断面図に投影しても関係する遺構や何等かの凹みをも確認することは出来なかった。



第52図 先土器時代炭化物集中地点（2D-98・99、3D-08・09）

【註】 本書で報告した先土器時代のブロックの分類については、各調査次年度に付した地点名称が異なり、さらに整理で不都合を生じた。そのため本書ではブロックに新しく名称を付して報告している。そこで、改めて新旧の名称を示し今後の参考として頂きたい。

第1ブロック…第2地点

第2ブロック…第2地点

第3ブロック…第4地点

第4ブロック…No.1

第5ブロック…No.2

第6ブロック…No.3

第7ブロック…No.3

第8ブロック…No.5・No.6

第9ブロック…No.5・No.6

第10ブロック…No.5・No.6

第11ブロック…No.5・No.6

第12ブロック…No.10

第13ブロック…No.11

第14ブロック…No.11

第15ブロック…No.12

第16ブロック…No.13

第17ブロック…南側

ブロック外…第1地点、第3地点、第4地点、No.1

No.2、No.3、No.4、No.7、No.9、北側

◎年度別地点名

《昭和59年度》

第1地点、第2地点

第3地点、第4地点

《昭和60年度》

No.1、No.2、No.3

No.4、No.5、No.6

No.10、No.11、No.12

No.13

《昭和61年度》

北側、南側

## II. 縄文時代以降の調査

### 1. 遺構と遺物

縄文時代以降の遺構および遺物の検出はとともに非常に少なかった。遺構については調査区（台地）の東側の谷付近にまとまって検出された。1次・2次の調査区にわたって検出されている溝状遺構が1条、2次調査で土坑が2基、3次調査では陥穴1基のみである。遺物について、とくに土器については層序区分のI及びII層のいわば表土中から出土した土器破片が少量あるのみで、遺構に伴っての出土は極めて少量にとどまる。石器についてもまったく同様な状況にある。ただ、縄文時代に限っていえば2次調査地区の東南の端付近（グリッド4M）では石器などがまとまって出土している。

以下に遺構、そして遺物について述べることとする。

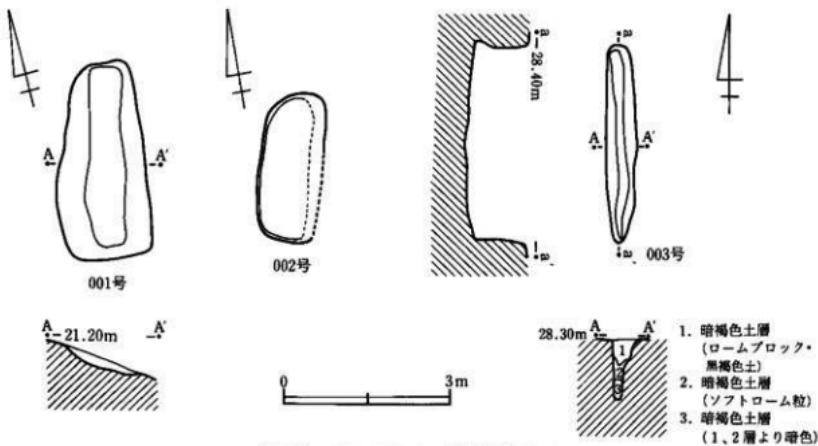
#### a. 土 坑

##### 001号土坑（第53図、図版18）

調査区の東端の斜面部（グリッド2O）に検出された。平面形は2.3m×1.6mの不整長方形を呈する。確認面からの深さは最大で19cmを計る。底部は一応平坦である。ただし、斜面部での検出であり、土坑本来の形状をとどめているかはさらに検討を要すると考える。遺物は覆土中より縄文土器破片が少量と、剝片が1点出土したにとどまる。本土坑の時期は縄文時代と考えられるが、性格など詳細は不明である。

##### 002号土坑（第53図、図版18）

調査区の東南の隅の斜面部（グリッド4O）に検出された。東側の壁は斜面にかかり検出できなかつたが、平面形は001号と同様に1.7m×0.7mの不整長方形を呈すると考えられる。確認面からの深さは最大で18cmを計る。本来の形状は不明である。底部は一部擾乱を受けていたり、全体に小さな凹凸がみられ、平坦ではない。覆土は一層で、黒色を呈し、堆積は疎である。出土遺物は平安時代またはそれ以降のものと考えられる土器破片が極少数出土したにとどまる。本土坑の性格および時期の詳細は不明である。



第53図 001・002・003号土坑実測図

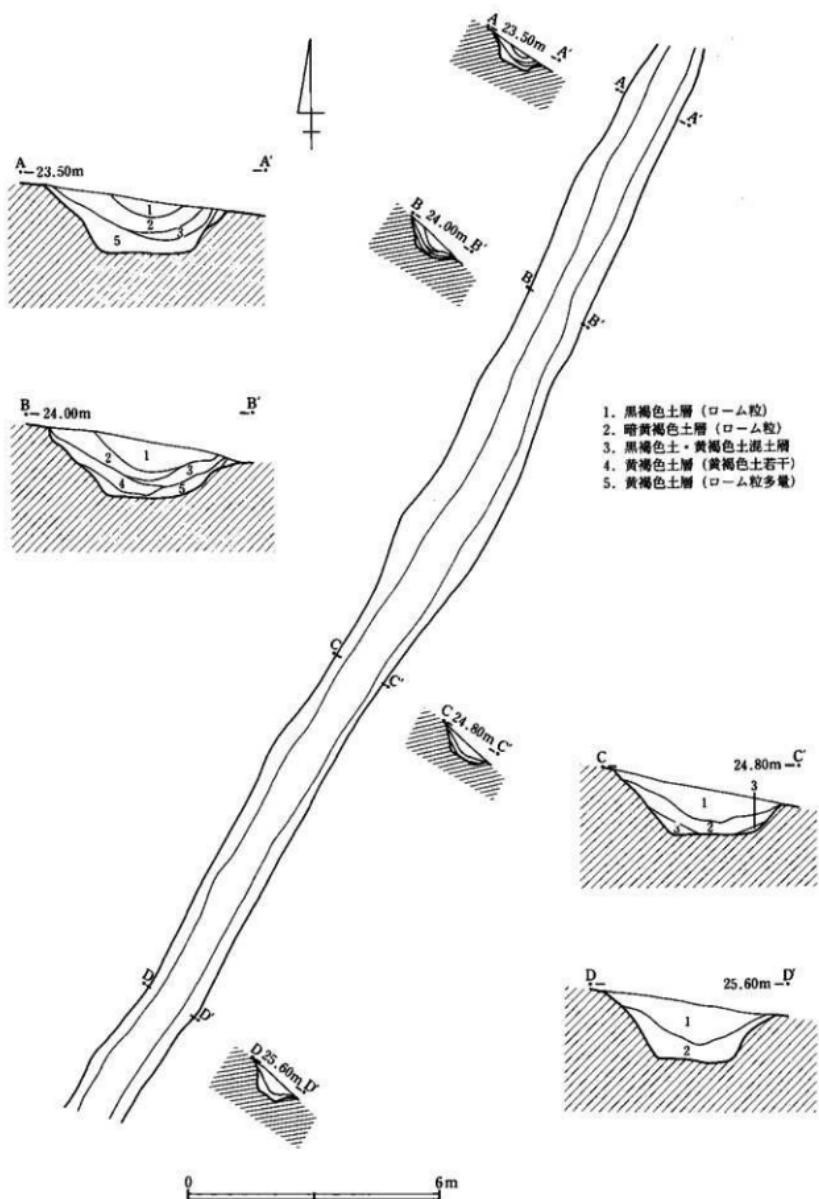
### b. 陥 穴

#### 003号土坑 (第53図、図版18)

調査区の西側、グリッド2E区に検出された。確認面での平面形は $2.3m \times 0.4m$ の非常に細長い超楕円形を呈する、深さは最大で70cmを計る。底部は多少の凹凸はあるものの平坦と言える。出土遺物はないが、形状等から縄文時代の所産と考えられる。

#### c. 溝状遺構 (第54図、図版19)

調査区の東の端、ちょうど谷に向かって台地が傾斜を増し始めた部分で、谷に沿って南北に走る、1次・2次調査とともに検出されている。断面は逆台形を呈している。確認面での溝の幅は最大で、4.5m、最小で2.7mを計る。深さは確認面からおおよそ1.5mのところで平坦な底面に達する。遺物の出土は極めて希で、本遺構の時期の決定には不十分であり、詳細は不明である。



第54図 004号溝状遺構実測図

## 2. グリッド出土遺物

3次にわたる調査をとおして出土した縄文時代以降の遺物は土器・石器とともに遺構と同様に非常に少ない量の検出であった。縄文時代所産の土器・石器が最も多く出土していることは言うまでもないが、その中でも注目されるのは本県でも発見例が少ない縄文草創期の隆起線文土器の出土および、縄文時代の石器製作跡と思われる石器の集中地点である。以下にグリッドから出土した遺物について代表的な遺物を取り上げて述べることとする。

### a. 土 器（第55～58図、図版16・17）

土器の出土は非常に少なかったことは先に述べたとおりである、縄文時代の土器が最も多いと言つても僅かである、しかし早期から後期までの土器が出土している。の中でもいわゆる草創期初頭に分類される土器群と繊維土器として分類される前期前半の土器群が目立つ。

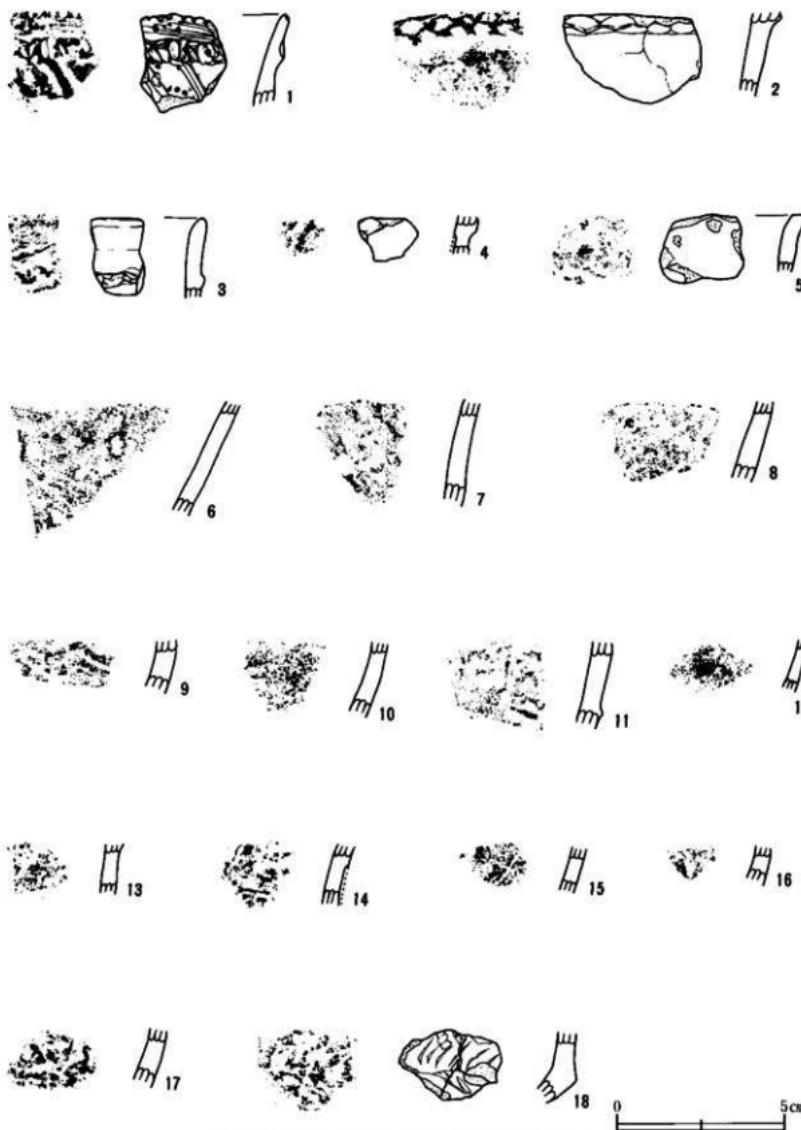
以下のように4類に分類して述べることとする。

- a) 隆起線文系土器群      b) 繊維土器群      c) 以外の縄文土器群      d) 平安時代以降の土器

#### a) 隆起線文系土器群（第55図、図版16）

第55図1～18の土器は早期初頭の撻糸文系土器群に先行するいわゆる草創期の隆起線文土器群である。出土した土器破片は非常に小さな破片のものが多く、特徴的な隆起線の文様を残すものはさらに希である。5点ほどがかろうじて隆起線の文様が確認できた土器破片であり、残りは出土地点および土器胎土・焼成・混入物などから本群の土器と確認できる土器破片である。

1～5は口縁部または付近の破片である。1は口唇部に先の丸い棒状工具の先端を押し当てて浅い刻目を加えている。直下には口縁部と平行に細い粘土紐を横走させ、上から先の丸い棒状工具の先端を粘土紐の両側に交互に押し当てて波形状にしている。また連続して下方に斜めに走る粘土紐を、ある程度の間隔を開けて付している。2は口縁部付近の破片と思われる。1と同様な粘土紐が横走するのが観察されるが、粘土紐の幅が極めて僅かであるが太い。また直下に斜めに走る粘土紐も見られない。3は口縁部の破片である、口唇部直下に幅は狭いものの無文帯を持ち、その下に粘土紐を貼り付けている。4は口縁部付近の破片と考えられる。斜めに走る粘土紐が観察される。1で見られるものと同様なものと考えられる。5は口縁部の破片である。6～18は隆起線文そのものあるいは痕跡も観察されないが、胎土および焼成などから1～5と同一土器と考えられる土器あるいは、本群に分類される土器破片と考えられる。18は土器底部付近の破片である。若干平底に近い丸底を呈すると思われ、本土器群の形状を示している。



第55図 グリッド出土土器実測図及び拓影図 1

#### b) 繩文土器群（第56・57図、図版16・17）

第56図19～21は条痕文系土器である。いずれも小破片であり詳細は不明だが、土器の表裏器面に条痕文を残していることを考えると、早期末期の茅山上層式に比定できるだろう。22～57は前期初頭の花穂下層式に大半が比定される。全体的に土器の胎土には多くの植物性の纖維が含まれ、土器外面には地文として羽状縄文が一般的に施されている。まれにループ文や結節文も見られる。22・23は器面に粘土紐による隆帯を2本平行に貼り付け文様としている。24・25は口縁部の破片である。3本の撚糸を一単位にして圧痕し、口縁部の文様帯を区画・構成し、できた無文の地区には半截竹管による円形の押形文が加えられている。30・31は底部である。ともに外面には縄文が施されている。30は上げ底を呈している。32・37は粘土紐を貼り付け、上にヘラ状工具で連続的に刻みを加えている。33～36はヘラ状工具の先端を連続して刺突し文様を描いている。41・55・56は地文の縄文の上から櫛歯状工具の押し引きによる波形文が描かれている。

#### c) 以外の縄文土器群（第57図、図版16・17）

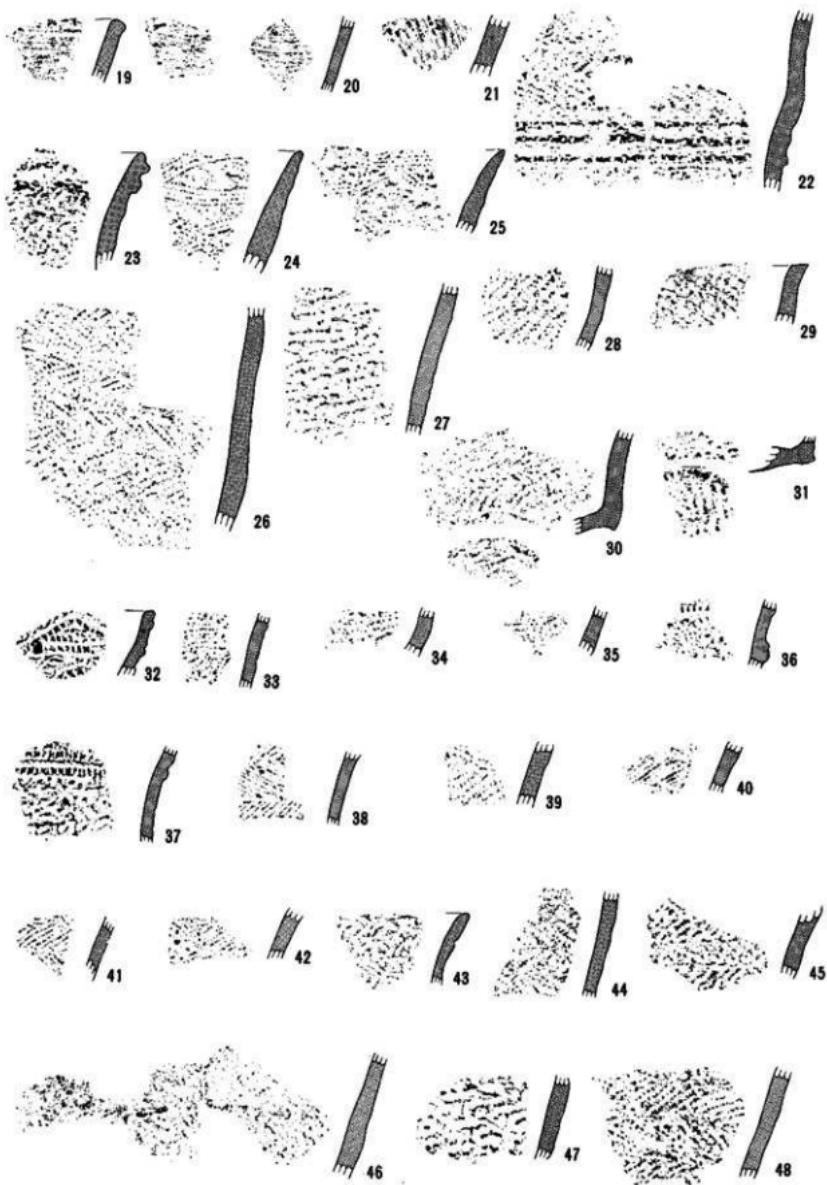
第57図58～77の土器は纖維を含まない土器で、縄文前期以降のものを一括した。58～63は前期後半の浮島式土器に分類できる。貝殻の腹縁による波形文(58)、棒状工具による口縁部または胸部への連続的に短沈線の刺突が行われている(59・60・63)。またヘラ状工具による三角文が見られる(59・62)。64～67は胸部の破片で、斜縄文のみが施されている。中期の土器であると思われる。68・69は斜縄文の地文の上に半截竹管状工具による平行沈線を縦位に複数加えている。後期堀之内式土器と思われる。70は口縁部の土器で、磨り消しと、口縁に平行して2条の沈線による区画がみられ安行式土器と思われる。72は無文の土器である。73～77は細い棒状工具の先端による沈線を、複数条を単位として交差させて文様を描いている。中期の土器とも考えられる。

#### d) 平安時代以降の土器（第58図）

3次にわたる調査で器形が分かる程度に復元できる土器が出土したのは第58図に示す杯のみであった。残念ながら遺構からの出土ではない。法量は口径12cm、底径6.7cm、器高3.8cmを計る。ロクロを用い右回転で成形しており、底部は回転糸切りの未調整である。焼成はよい。色調は内外とも茶褐色を呈する。9世紀後半ごろの製品と考えられる。

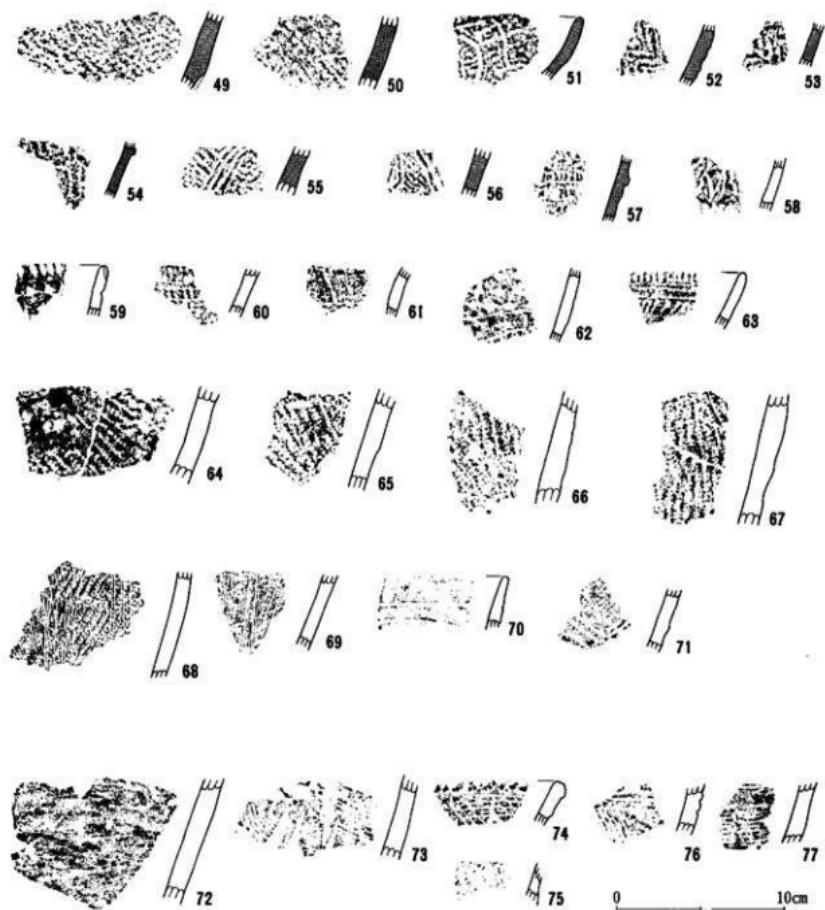
#### b. 石 器（第60・61図、図版9・15）

縄文時代所産の石器も土器群と同様に、出土した量は表土層からの出土を含めてもそれほど多くはない。ただし、調査区の南東端付近（グリッド4M）では縄文時代の石器製作跡と考えられる石器が集中して検出された箇所がある。ここではa) 石器集中地点出土石器と、b) グリッド出土石器に分

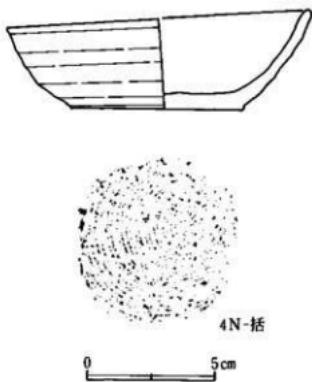


第56図 グリッド出土土器拓影図 2

0 10cm



第57図 グリッド出土土器拓影図 3



第58図 歴史時代土器実測図

けて述べることとする。

#### a) 石器集中地点出土石器 (第60図、図版9・15)

調査区の南東端付近の台地が傾斜し始める地域グリッド4M-27を中心に半径約1mの範囲から出土した。石器は剝片・碎片を含め合計52点を数える。産出層準は漸移層からソフトローム(III層)にかけて出土している。

1~3は石鏃である、石材はチャートである。残念ながら2だけが完形品である。大きさは揃っていないが、いずれも形状は二等辺三角形を基本形にして底辺部が腹折し、脚を有する凹基無茎鏃といわれるものである。4は二次加工が行われている剝片である、石鏃の未成品とも考えられるが詳細は分からぬ。5は接合資料で、完形にはならなかったが、石皿と考える。6は剝片で、二次加工が加えられている。7~9は楔形石器である。大きさから判断するといずれも石材はチャートの小砾である。上下に一対の階段状の刃部を持つ。8は一部に原面を残している。9は一方が尖っており、はつきりと階段状の刃部を有していないが、楔形石器としてよいであろう。

以上、グリッド4M-27から検出された石器について述べたが、これら石器の石材は5の砂岩を除いてすべてチャートである。このほかに図示していないが一緒に出土している剝片・碎片の多くもチャートである。ほとんどの石器が直径が2.5mの範囲に集中していること、石材がほぼチャートに限られ

+

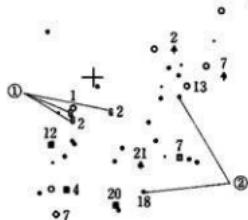
+

+

—+—

+ 4M-19 + 4M-29 +

+ 4M-18



+ 4M-17

+ 4M-27

+

#### 凡例

- ◆ 石 鋸
- 模形石器
- 二次加工ある剥片

- ◇ 刮 片
- 剥 片

- 破 片

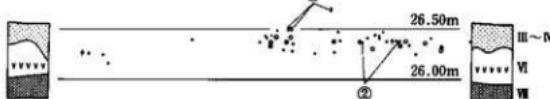
- 石 皿

0 1m

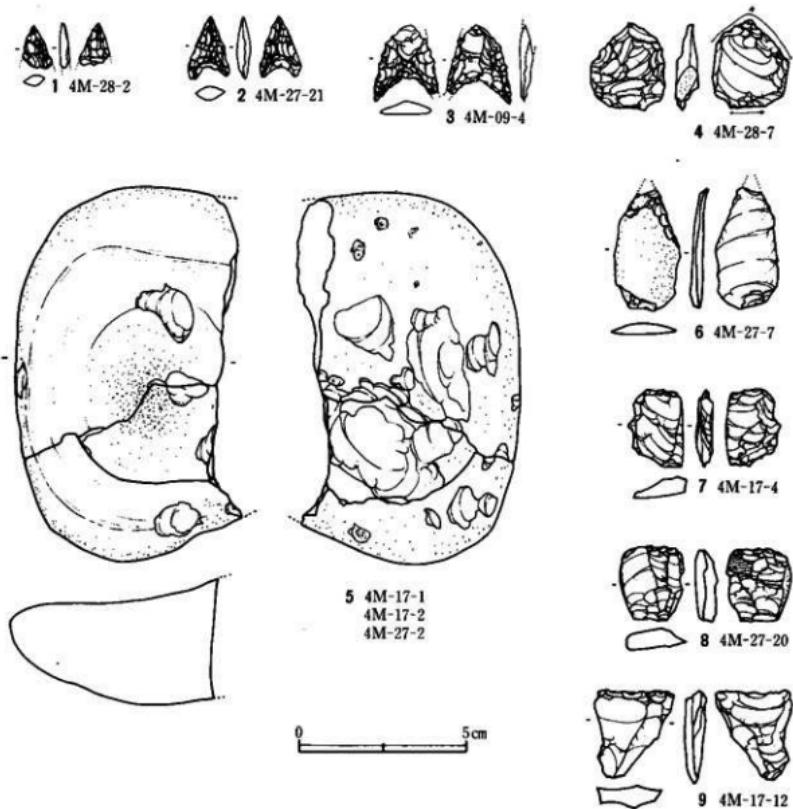
+ 4M-16

+ 4M-26

+



第59図 繩文時代石器製作跡遺物出土状況図



第60図 繩文時代石器製作跡出土遺物実測図

ていること、石鎚がグリッド出土のものも含めると多数出土していることなどを考え合わせると、本地点が縄文時代の石器、石鎚を中心とした石器の製作跡としてもよいのではないかと考える。

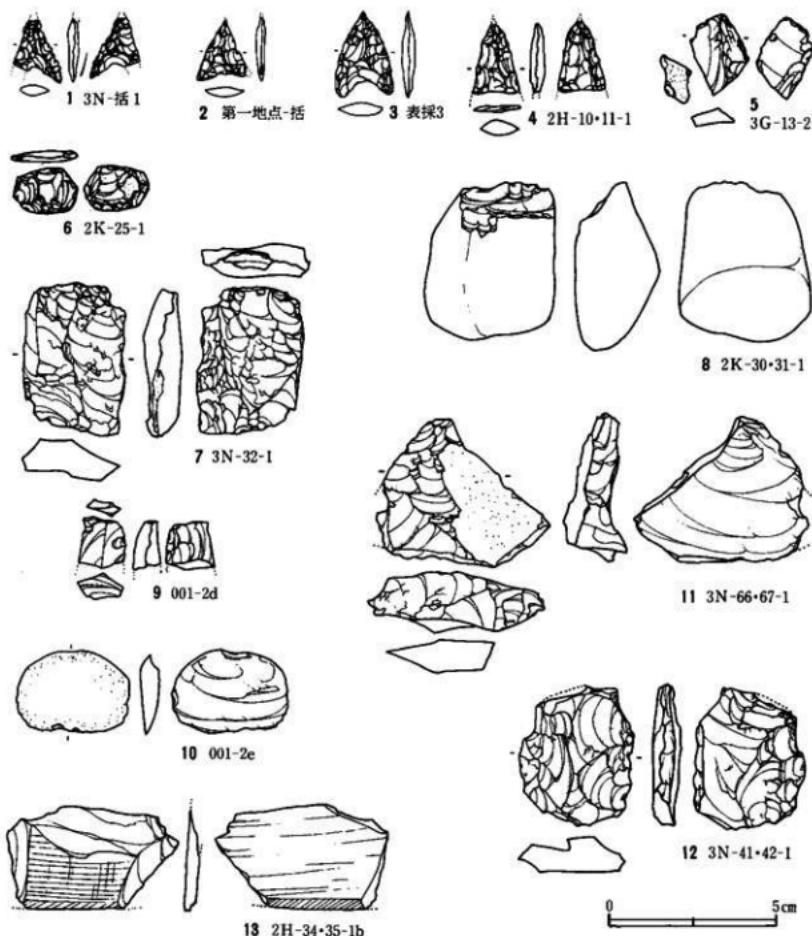
表18 縄文時代石器製作跡(4M)出土石器計測表

捕図番号	遺物	分類	計測値(mm)			重量(g)	打面	細部調整	石材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	4M-28	2 石鎚	13.2	9.0	3.0	0.3		両面	チャート	
2	4M-27	21 石鎚	18.2	12.5	4.0	0.6		両面	チャート	
3	4M-09	4 石鎚	22.8	19.1	4.2	1.2		両面	チャート	
4	4M-28	7 石鎚未成品	30.0	22.5	7.1	3.5		半両面	チャート	
5	4M-27 4M-17 4M-17	1 石皿	110.6	66.9	35.7	373.0		有	砂岩	
6	4M-27	7 剣片(二次)	35.2	18.9	3.5	2.4	原面	部分的	チャート	
7	4M-17	4 横形石器	23.3	16.0	5.1	2.0		上下両端	チャート	
8	4M-27	20 横形石器	22.0	19.1	5.8	2.8		上下両端	チャート	
9	4M-17	12 横形石器	25.7	22.3	6.1	3.3		上下両端	チャート	

### b) グリッド出土石器 (第61図、図版15)

ここではグリッド出土および表採で得られた、縄文時代の所産と思われる石器について一括して述べることとする。

1～4は石鎚である、石材は2の黒曜石をのぞきほか1・3・4はチャートである。1・4は脚部が欠損しており、完形品は2・3の2点である。大きさは揃っていないが、いずれも石鎚の形状は二等辺三角形を基本形にして底辺部が腹挿し、脚を有する凹基無茎鎚といわれるものである。5は二次加工が行われている剣片であるが、石鎚の未成品とも考えられるが詳細は分からぬ。6・7・10は横形石器である、7はほかのと比べてやや大きい。6は上下に一对の刃部を持つが、7・10は上下、両端に二対の刃部を持つ。10は片面の原面を多く残している。いずれも石材はチャートである。8は礫器である。一端に加工の跡が観察される。9はチャートの二次加工のある剣片である。両端が欠損または折れしており、寸詰まりの剣片である。11は珪質頁岩の剣片である。12はチャートの削器と考えられる。13は粘板岩の板状の石器であるが、なにに使われたのかはまったく不明である。縄文時代の所産とも考えられない。



第61図 グリッド出土石器実測図

表19 縄文時代石器計測表

挿図 番号	遺物 出土地点・番号	分類	計測値(mm)			重量 (g)	打面	細部調整	石材	備考
			長さ	幅	厚さ					
1	3N	1 石鏃	18.6	9.5	3.9	0.6		両面	チャート	
2	表探	石鏃	16.8	14.5	2.9	0.5		両面	黒曜石	
3	表探	3 石鏃	25.1	17.1	4.3	1.4		両面	チャート	
4	2H-10・11	1 石鏃	20.5	14.0	4.9	1.3		両面	チャート	
5	3G-13	2 剥片(二次)	23.9	17.4	8.9	2.3		周辺	チャート	
6	2K-25	1 梗形石器	13.6	19.1	3.3			上下	チャート	
7	3N-32	1 梗形石器	43.2	30.4	10.5	17.5		上下左右両端	チャート	
8	2K-30・31	1 磨器	46.8	39.2	24.6	52.3		一端	チャート	
9	001	剥片(二次)	12.5	13.7	8.0	1.4		有	チャート	
10	001	梗形石器	24.2	23.6	5.1	5.4		左右両端	チャート	
11	3M-66・67	1 剥片	44.5	51.8	16.3	27.9	平坦		珪質頁岩	
12	3N-40・41	1 削器	40.8	33.7	9.3	15.0		周辺	チャート	
13	2H-34・35	16 不明	30.2	50.2	2.5	8.3			粘板岩	

## 第3章 まとめ

### I. 先土器時代

3次にわたる調査で、調査区の東側地区、台地が谷に向かって緩やかに傾斜しようかと言う地域を中心として、合計17のブロックとその周囲に散在して遺物が検出されブロック外として扱った5つの地点から石器が検出された。これら石器群について、まとめてみたいと思う。

まず最初に、本遺跡でのブロックが検出された地域を見てみる。第6図の先土器時代遺構及び遺物出土状況図からも分かるように、多くのブロック及びブロック外の遺物が現標高の等高線25mから26mの間に沿って分布していることが分かる。台地が谷に向かって傾斜しようとする地点のいわば台地の縁辺部に生活を展開していたようだ。

今回の調査で検出された先土器時代の遺物の数量は、ブロックの数から考えると少ないようである。そして石器についてみるとこれらもそれほど多くはない。検出された遺物から石核・剝片及び碎片などを除いたおもな石器を第62図に、器種別、検出された層準別に一覧できるようにした。

石器が検出された層準はソフトローム層（III層）から第2黒色帯下部（VIIc層）にわたっている。礫群を伴って検出された第1・2、12ブロック及び第17ブロックがソフトローム層（III層）からの検出であり、そのほかはV層（第1黒色帯）以下からの検出であり、大半がVII層からの検出である。

石器の素材である石材について見ると、砂岩・凝灰岩・安山岩・珪質頁岩・石英・黒曜石・流紋岩・花崗班岩そしてチャートの9種類がおもなものである。これらの中でも、凝灰岩・安山岩・石英の3種が際立って検出されている。また検出された多くの剝片の一部には原面が残され、横長に近い寸詰まりの剝片が多い、これら石材を見てみるとその多くは拳大の礫を素材（原石）として用いていたと推測される。

石器について見ると、検出遺物の総数697点を数えるが、接合資料・礫・礫破片・碎片を除くと僅かな数量であると言える。石器をまとめると、ナイフ形石器9点、角錐状石器2点、削器5点、楔形石器1点、敲石（ハンマー）3点、石斧1点、石錐1点、二次加工ある剝片16点、使用痕ある剝片2点が主な石器であり、ほかに、石核とそれに接合する剝片が多数検出されている。

本遺跡の立地する下総台地での石器文化相（層）との比定を考えてみる。第1・2、5、7、12、17の6地点のブロックはソフトローム層（III層）からの出土であるが、第1・2、5、7の各ブロックは下総文化層IIIに、III層下部から出土の12、17ブロックは、立川ローム層IV層から出土する石器文化相に比定でき、下総文化層IIcとしてよいであろう。13、14、16の各ブロックは下総文化層IIにしてよいであろう。残る3、4、6、8～11、15の8地点のブロックは下総文化層IIaとしてよいであ

文化層	ナイフ形石器	角錐状石器	削器	二次加工ある剝片	使用痕ある剝片	層位
III						III / IVc
IIb						V
V						VII
VI						VIa / VIb
I						IV

凡例

石材名

- 砂岩
- 鹿床岩
- 文山岩
- 佐賀瓦野岩
- 黒曜石
- 石英
- 石英岩
- 滑石
- 花崗岩

ブロック名

第62図 先土器時代石器一覧

ろう。

本遺跡の先土器時代の遺物の分布を考えると、今回調査した地区の南北に充分広がる様相を示しており、今後、隣接地を含めた周辺地域の調査が待たれるところである。

## II. 縄文時代以降

3次にわたる調査で、上層の遺構および遺物は余り多くは検出されなかった。土坑は縄文時代の陥穴を含め2基、歴史時代の土坑1基の合計3基、溝状遺構は調査区の東端に南北に縱走する1条のみと非常に少なかった。ここで改めて述べる必要もないと考える。一方遺物は遺構からの極めて少ない土器片以外に出土はほとんど無く、多くが包含層からの出土であった。それでも相対的に出土量は少ない。時代的には縄文時代早期から歴史時代まで非常に長い時代の遺物が認められる。本文中で、まとめて述べているとおりである。その中にあって、出土量は少いにもかかわらず、注目したい土器が出土しているので、ここで若干触れることにする。

### a) 隆起線文土器について

今回の調査では、合計18点の隆起線文土器（破片）が確認されている。文様が確認できるものは3点のみで、そのほかは無文の土器破片である。これらの土器群は本県でもその出土は希である。本遺跡に関連しては、本遺跡の隣接地からやはり隆起線文土器の出土が見られ、田村隆・金子博英（1982）の両氏が詳しく報告しており、その土器の一部は「県立中央博物館」に展示され、見ることができる。また、本遺跡の近隣である千葉ニュータウンに関係する埋蔵文化財調査では「瀬戸蓮蓬遺跡」・「地区穴台遺跡」から若干の出土がみられることがすでに報告されている。

今回出土した隆起線文土器は第55図に示したとおりである。このうち隆起線文が貼付けられたとおもわれるものは1～5の5点のみである。1～3が隆起線文を器面に残している。これらの土器を、その特徴から、先に報告されている本遺跡出土の隆起線文土器と比較する。隆起線文の分類となる基準は田村隆・金子博英（1982）\*を参考にすることにする。

第55図1はI類4種に文様の構成、方法が類似する。2はI類1種に類似する。3は器形、文様についてみると、I類4種に類似する。そのほかは無文である。また色調・焼成・胎土についてみてみると、色調・焼成は近いものがある、そして胎土については長石粒の混入は認められるが、先に報告されている土器群とはどうも別個体のようである。

今回出土した隆起線文土器はほぼ草創期の（微）隆起線文土器群に比定してもよいであろう。

\* 田村隆・金子博英（1982）「鎌ヶ谷市林跡遺跡採集の隆起線文土器」 奈和、20、P 5～11

報告文では隆起線文土器について、以下の I ~ III類に分類している。

I類 粘土紐をゆうする細隆線文土器である。細隆線は技法的に2種認められる。今、便宜的にそれらをA、Bの2種に分けおく。

細隆線A 粘土紐圧着の過程で、円棒状工具を用いて粘土紐の上下を押し潰すことによって小波状を呈するもの。

細隆線B 押し潰しのないもの。

さらに細隆線文の組み合わせにより、さらに暫定的に4種に分けている。

1種 細隆線Aを横位平行に貼付するもの。

2種 細隆線Bを横位平行に貼付するもの。

3種 縦位平行に細隆線Bが貼付されるもの。

4種 細隆線A、Bを用いて一種の幾何学的文様構成をとるもの。

II類 幅の広い粘土紐を貼付するもの。

III類 横曳き手法による微隆起線文に最も類似している土器。

### III 鉱物分析について（報告）

昭和59年度の第1次調査では、グリッド1J-85の北壁で試料の採取を行い、立川ローム層の土壤分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し実施した。以下にその報告文を掲載し、結果について報告するものです。ただし、本文中の表現を統一するため、誤記と思われるところは一部訂正させていただいた。

#### 1. 分析の目的及び試料

林跡遺跡は、下総台地西部に位置している。遺跡付近の台地は、下末吉面相当の下総上位面に対比されている。（杉原、1970）

本分析は林跡遺跡において台地上に堆積する褐色風火山灰（いわゆるローム）層の堆積年代の推定と他地域との層序の対比を目的とする。その手段として示標テフラの検出と、重鉱物組成変化を用いた。また、テフラ同定の精度向上のため、屈折率の測定も行った。さらに、今回は分析方法の層序対比における有効性の検証をするため、同一試料について2回分析を行い、2つの分析結果を出した。

試料は林跡遺跡1J-85北壁より約10cm間隔で連続採取された13点である。試料番号・採取層位を図63に示す。

#### 2. 分析方法

##### 1) 分析手順

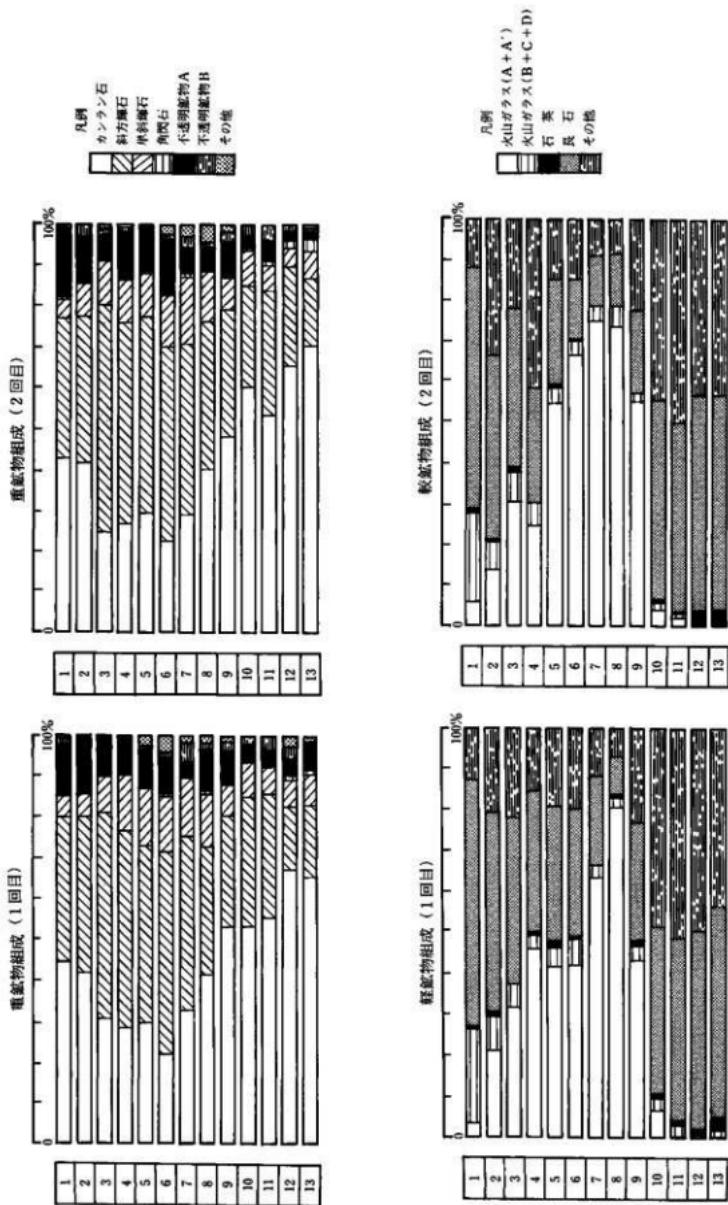
試料約40gを超音波洗浄装置により分散、分析薬を用いて水洗し径1/16mm以下の泥分を除去する。乾燥の後、砂分を径1/4mm<・1/4~1/8mm・1/8mm>の3段階に選別、1/4~1/8mmの砂分をテトラブモエタン（比重約2.96）により重液分離、重・軽鉱物を偏光顕微鏡下で同定した。重鉱物では不透明鉱物について、斜め上から落斜光下で黒色金属光沢を呈するものをAとし、それ以外をBとした。軽鉱物では、火山ガラスを便宜的に軽鉱物に入れ、軽鉱物中のその変化からガラス質指標テフラの降灰層準を考察する。ガラスの形態分類は、遠藤・鈴木（1972）に従った。重軽鉱物とも「その他」は、風化変質等で同定不可能な粒子である。

屈折率の測定は、新井（1972）の方法に従った。

##### 2) 分析方法の検証

上記の方法で算出した鉱物組成は、実際にはその垂直的な量比変化を対比の指標として使用する。具体的に言えば、ある鉱物の量比がどの層位で増加・減少しているか、どの層位で増加から減少、あるいは減少から増加に転ずる（極大・極少）かが目安になるのである。したがって個々の試料の鉱物組成の数値そのものは、対比において特に重要視する必要はない。むしろ、粒数比を組成比とするこ

第62図 グリッド1 J-85北壁試料鉱物組成



の様な分析においては、鉱物の粒径・形により作業上の様々な段階において必然的に淘汰選別が伴なうため、同一試料でも数値がある程度異なることは避けられない。

今回の分析結果では、やはり重鉱物とともに同一試料において組成比の値に差が認められた（第62図、表21～24）。個々でその層序対比に与える影響について検討してみる。

重鉱物組成では、同一試料において1回目の分析と2回目の分析で、各鉱物粒%の値の差が認められる。しかし、垂直的な変化傾向は、ほぼ一致する。たとえばカンラン石では、両者とも下位よりみて試料No.13～6では減少、No.6で極小とするNo.5でやや増加、No.2でさらに増加という傾向が読み取れる。したがって、どちらの結果を用いても対比が異なることはない。軽鉱物では、火山ガラスのA・A'型に同一試料間に量比に比較的大きな差が認められる。A・A'型は、薄い平板状のいわゆるバブル型に相当し、他の鉱物粒とは形態の違いが比較的大きいため、分析段階でより淘汰が起こりやすかったと考えられる。垂直的な変化傾向も、1回目ではNo.8が明瞭な極大となるが2回目ではNo.8～7が極大となり若干の違いが認められる。しかし、細粒ガラス質テフラの降灰層準に洩つとも近いと考えられる下位からみた急増部は、No.9に認められること、また、後述のATのような千葉県付近でも保存状態の良い所では10cm以上の層厚を持つ（第64図）ガラス質テフラの場合は、降灰層準にある程度の幅を持たせることができることがむしろ自然であることなどから、A・A'型火山ガラスにおいても層序対比に影響が出るほど差は生じないと考えられる。B・C型ガラスについては、1回目・2回目とも量比変化傾向はほぼ同じである。

上記結果より、2回繰り返しただけではあるが分析方法の再現性については、層序対比に影響を与えるほどの問題にはならないと考えられる。したがって、本分析方法は南関東ローレー層の層序対比及び同一時間面を捉える手段としては十分に有効である。

### 3) 分析結果

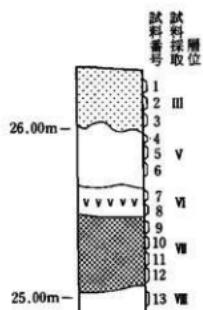
前項より、1回目、2回目とも結果は同じと考えてよく、以下のようにまとめられる。

#### 1) 重鉱物組成

試料中に含まれる主な重鉱物は、カンラン石・斜方輝石・単斜輝石・不透明鉱物（ほとんどが磁鉄鉱である）であり、他に少量の角閃石を含む。カンラン石は下位より見てVII層上部からVI層では減少、V層下部（No.6から5にかけて）で増加、III層下部（No.3から2にかけて）でさらに増加傾向を示す。斜方輝石・単斜輝石の変化傾向は、カンラン石とほぼ逆を示す。

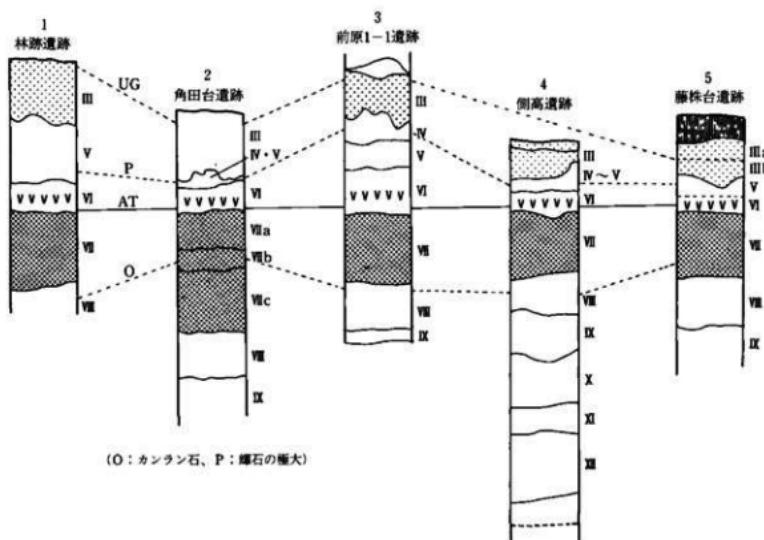
#### 2) 軽鉱物中のガラス量比

下位より見てVII層上部（No.9）よりA・A'型火山ガラスが急増し、VI層で極大、V層・III層では減少する。またIII層上部（No.1）では屋根瓦状・カマボコ状と小気泡の集った塊状のB・C型ガラスが増加する。さらに試料No.8のA・A'型火山ガラスの屈折率は、n1.498～1.501(model.500)、試料No.1



■No 4は5cm(厚)で採取され  
他のは10cm(厚)で採取されている。

1) 1 J - 85北壁鉱物分析試料採取地点土層柱状図



2) -2 下総台地上の各遺跡対比図

第64図 鉱物分析試料採取地点土層柱状図及び下総台地各遺跡との土層対比図

表20 重鉱物組成一覧（1回目）

試料番号	重鉱物組成							同定鉱物粒数
	カ ン ラン 石	斜 方 輝 石	両輝石平行連晶	単 斜 輝 石	角 閃 石	不透明鉱物	そ の 他	
					緑色	褐色	A	B
1	115	92		13		33	4	2 259
2	106	97		14		35		2 254
3	80	129		23		24	2	258
4	74	123		35	1	21		3 257
5	76	108	1	35	1	22	3	7 253
6	57	124		34	2	21	4	11 253
7	83	106	1	36	1	8	12	5 252
8	104	79		32	2	25	4	5 251
9	133	68		19		20	6	4 250
10	1341	79		22	1	9	5	1 251
11	141	77		17	1	8	9	1 254
12	172	39		16	1	2	10	8 255
13	167	44		19	3		16	1 4 254

\* 数値は粒数

表21 重鉱物組成一覧（2回目）

試料番号	重鉱物組成							同定鉱物粒数
	カ ン ラン 石	斜 方 輝 石	両輝石平行連晶	単 斜 輝 石	角 閃 石	不透明鉱物	そ の 他	
						A	B	
1	108	85		11	2	42	3	251
2	106	89		20	1	27	9	252
3	63	140		27	1	16	4	2 253
4	68	124		26		29	4	2 253
5	75	120		27	1	25	1	3 252
6	57	118	1	32	1	33	3	7 252
7	74	104		42	2	15	7	8 251
8	102	88	1	31		14	4	11 253
9	123	77		20	1	20	8	4 253
10	151	62		20	2	6	7	1 251
11	137	77		16	3	12	9	2 256
12	164	60		12	4	5	4	1 250
13	176	41		17	7	4	3	2 250

\* 数値は粒数

表22 軽鉱物組成一覧（1回目）

試料番号	軽 鉱 物 組 成					同定鉱物粒数			
	火 山 ガ ラ ス								
	A	A'	B	C	D				
	無色	無色	無色	無色	無色				
1	5	4	26	27	5	2	151	33	254
2	16	37	12	9		3	120	53	250
3	22	59	10	4			102	57	254
4	38	77	4	4		2	86	39	250
5	36	71	7	3	2	4	84	50	257
6	35	70	10	5	1	1	78	50	250
7	56	109		7	1		56	31	260
8	73	129		6		2	23	18	251
9	33	76	4	5		3	73	59	253
10	3	14	4	3		3	102	122	251
11		1	3	4		3	112	130	253
12				2		4	124	127	257
13		1	2	2		8	129	109	251

\* 数値は粒数

表23 軽鉱物組成一覧（2回目）

試料番号	軽 鉱 物 組 成					同定鉱物粒数			
	火 山 ガ ラ ス								
	A	A'	B	C	D				
	無色	無色	無色	無色	無色				
1	1	14	34	21		2	147	30	249
2	2	32	8	8	2	1	113	85	251
3	15	64	8	11		3	99	57	257
4	17	46	6	8			70	105	252
5	51	85	3	7		2	65	37	250
6	70	102	4	5		1	38	39	259
7	84	108	1	8			32	23	256
8	63	121	3	8	1		32	22	250
9	38	104	2	3			53	58	258
10	2	8	4	1		2	123	113	253
11	2	3	2	1		1	118	128	255
12			1			9	137	104	251
13			1			9	131	109	250

\* 数値は粒数

のB・C型ガラスの屈折率は、n1.501～1.503であった。

#### 4. 考 索

##### 1) 示標テフラの層位

上記のVII層上部で急増する火山ガラスは、量比の変化から見て一次堆積のテフラと考えられる。ガラスの形態と屈折率の値から、このテフラは、今から約2.1～2.2万年前に九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰（AT：町田・新井、1976）である。降灰層準は、量比変化からVII層とVI層の境界付近に考えられる。

資料No 1で増加するB・C型火山ガラスは、その層位と形態・屈折率から、立川ローム最上部ガラス質火山灰（UG：山崎、1978）であると考えられる。UGの降灰年代は、約1.3～1.4万年前とされている。（町田ほか、1984）。本遺跡における降灰層準は、No 1より上位のガラス量比が不明なため決定することができない。しかし、他地域における重鉱物組成変化とUG層準の関係を考慮すると、降灰層準は、No 1よりもやや上位であることが推測される。

##### 2) 層序の対比

上記AT層準から、VII層は武藏野台地の立川ローム層第2暗色帶(BBII)にほぼ対比される。また、V層下部（試料No 6）ではカンラン石に対する斜方輝石・単斜輝石の割合が最も大きい。層位から、これは小林ほか（1971）の中で羽鳥のいう第1暗色帶(BBI)直上にみられる輝石の極大にそうとうすると考えられる。このことからV層最下部は、武藏野台地立川ローム層の第1暗色帶に相当すると考えられる。III層は、その上部にUG層準があると考えられることから、武藏野台地立川ローム層の最上部いわゆるソフトローム層とよばれる文化のIII層のほぼ対比される。

同じ千葉県内の他の遺跡との対比について以下に述べる。例として角田台・前原I-1・藤株台の各遺跡を取り上げる。以下の対比の順番もこの通りとする。本遺跡VII層上部はカンラン石の量比の変化より各々VIIb層下部-VIII層上部-VIII層-VII層下部に対比される。次ぎにAT層準より本遺跡VIIは、VIIa層-VII層-VII層-VI層に対比される。その上位の輝石の極大層準から、本遺跡V層最下部は、IV・V層-IV層-IV層-V層-V層に対比される。さらにUG層準より本遺跡III層は、III層-III層-分析なし-IIIa層に対比される。このように、下総台地の立川ローム層もAT・UGの各示標テフラ層準と重鉱物組成変化によって各地の対比が比較的容易にできる。

## 引用文献

- 新井房夫(1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクノロジーの基礎的研究—  
第四紀研究、11、p.254～269.
- 遠藤邦彦・鈴木正章(1980) 立川・武藏野ローム層の層序と火山ガラス濃集層。  
考古学と自然科学、13、p.19～30
- 小林達雄・小田静雄・羽鳥謙三・鈴木正明(1971) 野川先土器時代遺跡の研究。  
第四紀研究、10、p.231～252.
- 町田 洋・新井房夫(1976) 広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—  
科学、46、p.339～347
- 町田 洋・新井房夫・遠藤邦彦・小田静雄・杉原重夫(1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関  
係するテフラのカタログ—  
渡辺直経 編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」、p.865～928
- 杉原重夫(1970) 下総台地西部における地形の発達。 地理学評論、43、p.703～718
- 山崎春雄(1978) 立川断層とその第四紀後期の運動。 第四紀研究、16、p.231～246

## ＜分析結果を見て＞

下総台地における立川ローム層の堆積は東京湾の右岸地域で、その供給原である富士山に近い相模の台地や武藏野台地と比較すると供給源からの距離をも考慮してもテフラの粒子もより細かくなり、その堆積の量も相対的に少なくなっている。それはローム層の断面を観察しても充分認識できることである。したがって、立川ロームの分層を実施するにあたっても東京湾の右岸地域とまったく同様に分層できる地域が非常に少ないのである。とくに立川ローム層中に存在する上下2枚の黒色帯のうち上位に位置する第一黒色帯(V層)の認識が非常に困難な状況下にある地域が多い。また、鍵層となるべき始良Tn火山灰層を包含する(VI層)の堆積の厚さや位置が曖昧で、なかなか特定が難しい。

そこで、これらの鍵層となる層準の特定をより正確に、確実にするために鉱物分析を行い肉眼観察による分層の間違いを軽減し、より正確な分層を目指すことになる。

今回、本遺跡で実施した鉱物分析は肉眼観察で分層した立川ローム層のグリッド1J-85の北壁の試料について行ったものである。試料は分層した各層ごとに採集し分析しており、立川ローム層の全体に、連続して試料採集を実施していないのが残念である。

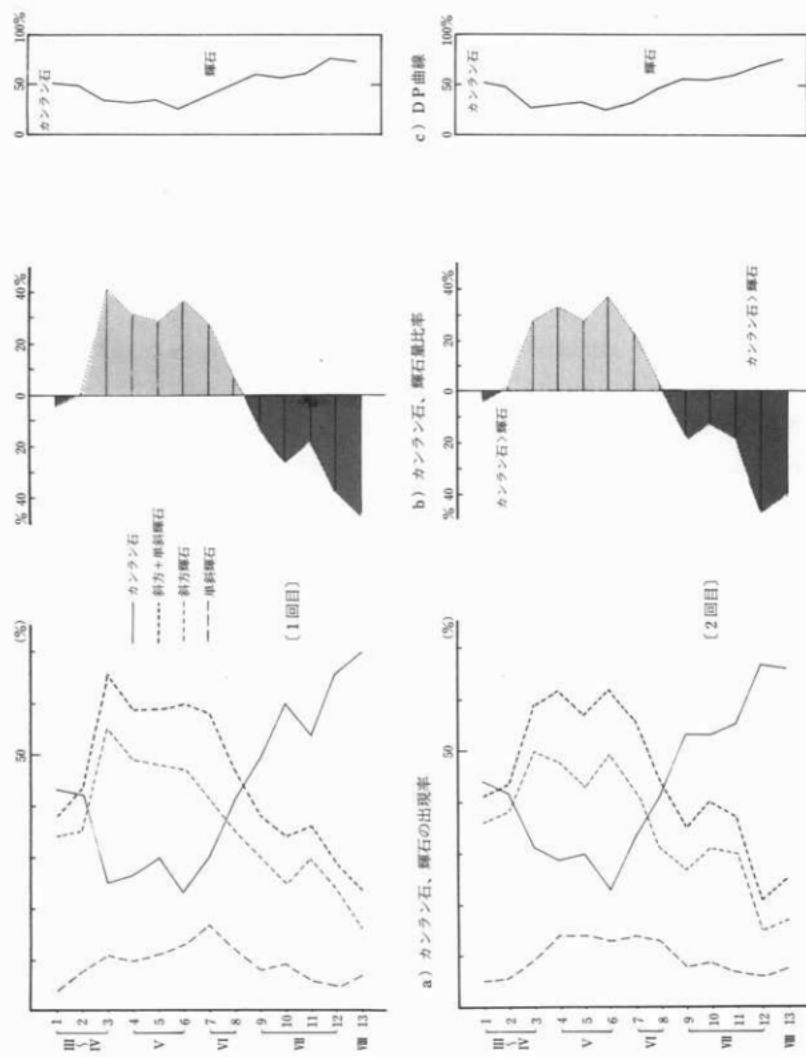
鉱物分析の指標となる鉱物（以下、本文では便宜的に指標物と呼ぶ）は、重鉱物の中ではカンラン石と輝石、軽鉱物の中では特に火山ガラスである。カンラン石と輝石はその出現する層準に大きな特徴があり、まったく相反する出現の在り方をする。この特徴をとらえることにより、後者は第一黒色

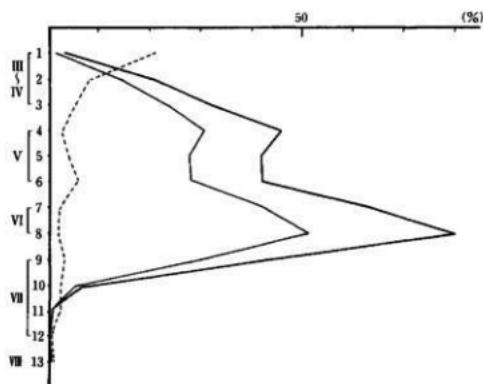
帶で極大を迎える。前者は第二黒色帶でその極大を迎える。一方、火山ガラスはさらにその形状により細分され、その特徴から、大きく A・A' と B・C 群の二つに分類され、前者は始良 Tn 火山灰（VI 層）に多く包含され、後者はソフトローム層（III 層）の上部に包含される。これら指標物の出現する極大を示す位置を発見することにより、それぞれの層準を特定できることになる。

そして、この指標物を特別に取上げてグラフにしたもののが、第 65・66 図に示したものである。これらのグラフを見ると、先に述べた特徴がはっきりと見てとれる。分層には多いに役立つようと思われる。しかし、今回は同一試料を同じ方法で、2 回分析しており、その結果、これらの特徴は傾向としてとらえることができるが、詳細にみると、結果に若干の違いがみられる。しかし、この違いは指標物の傾向を覆すまでには至らず、許容範囲内にとどまるものであり分層の指標とする程度であれば充分な結果であるといえよう。鍵層を特定するには充分である。

以上、今回の立川ローム層の鉱物分析の結果について述べたが、近年、下総台地でも層準をより細分化していく傾向にあり、それに見合った試料の採集と分析が行われ、より正確な層準が細分化されることを望むものである。ただ、こうした科学的分析はその方法や分析者により若干の違いが結果に現れてくるものである。出来るかぎり複数の試料について、複数の分析者で分析を実施し、その結果を検証してより正確な結果を導きたいものである。

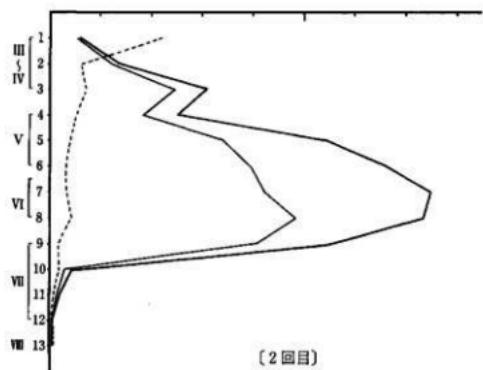
第65図 カンラン石と輝石との量比変化





〔1回目〕

—— 火山ガラス A + A'      —— 火山ガラス A'      ······ 火山ガラス B + C



〔2回目〕

第66図 火山ガラスの量比変化

## IV 先土器時代遺物資料集（年度別）

\*参考資料として本遺跡出土の先土器時代遺物について全遺物の計測値を掲載する。

\*本文中に報告されている遺物についても再掲載したが、備考欄に所属するブロック名を示した。

\*礫破片については重量のみの計測にとどめた。

＜昭和59年度＞

遺 物 グリッド	番 号	分 類	計 測 値(mm)			重 量 (g)	標高 (m)	石 材	備 考
			長 さ	幅	厚 き				
1 J-86	1	楔形石器	24.3	20.7	9.4	5.2		黒曜石	ブロック外、表採
I-61	1	剝片	33.0	25.0	6.3	4.1		黒曜石	
一括	1 a	礫片				27.5		チャート	
	1 c	礫片				3.4		不明	
1 K-52	1	礫片						砂岩	
	2	礫片						安山岩	
	3	礫片						砂岩	
	4	礫片						砂岩	
	5	礫片						砂岩	
	6	礫片						砂岩	
	7	礫片				1.1		安山岩	
	8	礫片						砂岩	
1 K-53	1	剝片	19.0	28.0	4.0	1.9		凝灰岩	
	2	碎片	16.0	11.0	4.2	0.6		凝灰岩	
	3	礫片						花崗岩	
	4	礫片						花崗岩	
	5	剝片	40.0	28.5	8.9	6.9		凝灰岩	
	6	碎片	17.0	11.0	2.5	0.4		安山岩	
	7	軽石				2.1		軽石	
	8	碎片	9.0	9.0	2.3	0.2		凝灰岩	
	9	碎片	13.0	10.0	2.9	0.4		凝灰岩	
1 K-54	1	削器				4.9		チャート	第1、2ブロック
	2	剝片	43.0	34.0	6.5	11.4		安山岩	

3	礫片			2.7		安山岩	
4	礫片			17.9		安山岩	
5	礫片			1.4		安山岩	
6	礫片			0.5		砂岩	
7	剝片	49.7	34.6	10.7	18.1	凝灰岩	第1, 2 ブロック
8	礫片			0.2		砂岩	
9	礫片			0.5		安山岩	
10	礫片					チャート	
11	礫片			2.7		安山岩	
12	礫片					チャート	
13	剝片	19.0	24.0	6.1	3.2	安山岩	
14	剝器	53.8	34.3	11.6	10.3	チャート	第1, 2 ブロック
15	礫片					チャート	
16	礫片			2.4		花崗岩	
17	礫片					花崗岩	
18	剝片	32.9	28.6	10.4	9.5	凝灰岩	第1, 2 ブロック
19	石核			88.4		砂岩	
20	碎片	8.0	10.0	1.2	0.1	凝灰岩	
21	剝片	27.0	27.0	9.0	7.6	安山岩	
22	礫片					不明	
23	剝片	31.0	29.0	10.8	11.0	凝灰岩	
24	剝片(二次)	41.9	24.9	8.3	8.3	安山岩	第1, 2 ブロック
25	剝片(使用)	56.9	39.0	10.4	22.4	凝灰岩	第1, 2 ブロック
26	剝片	21.0	21.0	6.5	2.0	凝灰岩	
27	礫片					安山岩	
28	礫片					花崗岩	
29	礫片					不明	
30	礫片			0.4		安山岩	
31	礫片					安山岩	
32	剝片	30.0	30.0	9.1	7.0	凝灰岩	
33	剝片(二次)	29.5	25.7	28.1	7.8	安山岩	第1, 2 ブロック

	34	剥片	15.0	10.0	2.5	0.4		安山岩	
	35	碎片	8.0	8.0	1.7	0.1		安山岩	
	36	碎片	15.0	16.0	4.8	0.9		安山岩	
	37	砾片				3.0		チャート	
	38	碎片				0.01		凝灰岩	
	39	砾片				0.6		不明	
1 K-54	39	砾片				1.1		安山岩	
	40	砾片						チャート	
	39	砾片				1.1		安山岩	
	40	砾片						チャート	
	41	砾片				1.6		安山岩	
	42	剥片(二次)	33.8	14.4	6.9	3.6		凝灰岩	第1, 2 ブロック
	43	砾片				0.8		チャート	
	44	碎片	10.0	25.0	3.9	0.7		凝灰岩	
	45	碎片	10.0	13.0	1.3	0.2		凝灰岩	
	46	砾片				0.01		チャート	
	47	剥片	11.4	8.1	4.0	0.3		凝灰岩	第1, 2 ブロック
	48	砾片				0.9		不明	
	49	砾片				0.1		安山岩	
	50	砾片						花崗岩	
	51	砾片				2.2		花崗岩	
	52	砾片				2.6		花崗岩	
	53	砾片				0.1		安山岩	
	54	砾片				0.01		不明	
	55 a	砾片				7.1		安山岩	
	55 b	剥片	15.0	13.0	4.0	0.4		凝灰岩	
	56	砾片						花崗岩	
	57	砾片						チャート	
	58	砾片						花崗岩	
	59	砾片				4.4		花崗岩	
	60	剥片	14.0	11.0	2.0	0.2		安山岩	

	61	砾片			0.7		安山岩	
	62	砾片			0.3		花崗岩	
1 K-54	63	剝片	29.0	21.0	5.6	1.9	凝灰岩	
	64	砾片				1.1	砂岩	
	65	砾片				5.5	安山岩	
	66	砾片					花崗岩	
	67	砾片				1.0	安山岩	
	68	砾片				84.8	安山岩	
	69	砾片				28.7	安山岩	
	70	砾片					安山岩	
	71	砾片				0.3	チャート	
	72	砾片					花崗岩	
	73	砾片				49.2	砂岩	
	74	砾片				3.3	花崗岩	
	74	砾片				3.5	花崗岩	
	75	砾片					花崗岩	
	76	砾片					チャート	
	77	碎片				0.01	チャート	
	78	剝片	40.0	37.0	12.3	8.9	珪質頁岩	
	79	砾片				3.3	安山岩	
	80	砾片				1.1	チャート	
	81	砾片				0.2	不明	
	82	砾片				0.2	安山岩	
	83	砾片				7.0	安山岩	
	84	砾片				9.0	安山岩	
	85	砾片				0.1	安山岩	
	86	砾片				0.3	安山岩	
	87	碎片	8.0	5.5	2.4	0.1	珪質頁岩	
	88	砾片					チャート	
	89	砾片				4.8	花崗岩	
	90	砾片				3.3	不明	

	91	礫片				0.01		安山岩	
	92	碎片	10.5	8.0	2.3	0.2		安山岩	
	93	礫片				0.01		安山岩	
	94	碎片	12.0	7.0	2.2	0.2		石英	
	95	剥片	23.0	50.0	13.5	13.8		安山岩	
	96	礫片				0.01		安山岩	
	97	礫片				0.1		不明	
	97	礫片				13.0		砂岩	
	98	礫片				0.2		安山岩	
	99	剥片	27.0	26.0	15.4	11.6		安山岩	
	100	碎片	13.0	8.5	1.3	0.2		安山岩	
	101	礫片						チャート	
	102	碎片	14.0	11.0	3.7	0.5		石英	
	103	礫片						花崗岩	
	104	碎片				0.01		凝灰岩	
	105	剥片	10.0	20.5	4.1	1.1		凝灰岩	
	106	剥片	46.2	34.4	13.5	18.4		凝灰岩	第1, 2 ブロック
1 K-55	1	礫片				1.6		花崗岩	
	2	剥片	17.0	12.0	4.1	1.0		安山岩	
	3	使用痕ある剥片	32.9	32.5	15.7	14.9		チャート	第1, 2 ブロック
	4	礫片				2.0		花崗岩	
	5	礫片						不明	
	6	礫片				1.0		安山岩	
	7	碎片	9.0	12.0	1.4	0.2		凝灰岩	
1 K-62	1	礫片						砂岩	
	2	礫片						砂岩	
	3	礫片						安山岩	
	4	礫片						砂岩	
	5	礫片						砂岩	
	6	礫片						砂岩	

	7	礫片			0.1		安山岩	
	8	礫片					安山岩	
	9	剝片	24.1	29.4	6.1	2.6	砂岩	第1、2ブロック
	10	礫片				1.8	不明	
	11	碎片	11.0	9.5	3.2	0.4	砂岩	
	12	石核	52.8	52.4	24.2	79.2	砂岩	第1、2ブロック
	13	礫片				1.1	砂岩	
	14	礫片				12.9	不明	
	15	二次加工ある 剝片	65.2	40.5	12.1	38.6	安山岩	第1、2ブロック
	16 a	礫片					安山岩	
	16 b	礫片					安山岩	
	16 c	礫片					安山岩	
	16 d	礫片					安山岩	
	16 e	礫片					安山岩	
	17	礫片					砂岩	
	18	礫片					砂岩	
1 K-63	1	礫片			2.6		安山岩	
	2	礫片					砂岩	
	3	礫片			2.6		安山岩	
	5	礫			6.4		砂岩	
	6	礫片					不明	
	7	礫片					安山岩	
	8	礫片					不明	
	9	礫片					安山岩	
	10	礫			32.4		チャート	
1 K-64	1	剝片	15.0	30.0	4.6	1.7	チャート	
	2	礫片				2.4	安山岩	
	3	礫片					安山岩	
	4	礫片					安山岩	
	5	剝片	27.5	27.0	5.8	3.8	砂岩	第1、2ブロック

	7	礫片					安山岩	
	8	礫片					安山岩	
	9	礫片					安山岩	
	10	礫片					安山岩	
	11	剝片	24.0	33.5	6.5	2.9		凝灰岩
	12	剝片	17.0	27.0	3.8	2.1		チャート
	13	碎片	12.0	15.0	5.2	1.0		珪質頁岩
	14	礫片						花崗岩
	15	剝片	22.7	21.0	5.7	1.7		凝灰岩
	16	礫片				7.1		花崗岩
1 K-64	17							
	18	礫				16.6		チャート
	19	礫片				7.0		安山岩
	20	礫片				0.9		安山岩
	21	礫片						砂岩
1 K-71	1	礫片				11.6		不明
	1					0.3		
	2	剝片	49.7	57.1	10.7	7.0		凝灰岩
	3	剝片	25.0	14.0	7.6	2.0		安山岩
	4	碎片	13.0	13.0	4.2	0.6		珪質頁岩
	5	剝片	20.5	19.0	7.8	2.0		珪質頁岩
	6	碎片	10.5	18.4	5.6	1.0		珪質頁岩
	7	礫片				0.3		安山岩
	8	礫片						安山岩
1 K-72	1	礫片						砂岩
	2	剝片	24.0	25.0	5.4	3.4		安山岩
	3	礫片						砂岩
	4	剝片(二次)	26.7	21.7	6.9	2.9		凝灰岩
	5	角錐状石器	27.8	16.6	10.6	3.8		珪質頁岩
	6	礫片						砂岩
	7	礫片						砂岩

	8	砂片	14.0	16.0	3.8	0.6		珪質頁岩	
	9	剝片	22.8	18.6	5.0	1.9		安山岩	第1, 2 ブロック
	10	礫片						砂岩	
1 K-72	11	礫片						砂岩	
	12	剝片	29.0	25.0	5.7	3.8		安山岩	
	13	剝片				1.6		砂岩	第1, 2 ブロック
	14	礫片				0.5		安山岩	
	14	礫片				0.4		安山岩	
	14	礫片				1.1		安山岩	
	15	礫片	22.0	24.0	6.4	3.1		砂岩	
	16	礫片						砂岩	
	17	礫片						砂岩	
1 K-73	1	礫				13.2		砂岩	
	1					2.0		チャート	
	2	剝片				1.5		花崗岩	
	2	礫片				4.6		花崗岩	
1 K-74	1	礫片				6.9		花崗岩	
	2	礫片				10.6		安山岩	
	3	礫片						不明	
	4	礫片						花崗岩	
	5	礫片				2.3		安山岩	
	6	礫片				9.1		花崗岩	
	7	礫片						花崗岩	
	8	礫片						花崗岩	
	9	礫片						花崗岩	
	10	礫片						砂岩	
	13	礫片						砂岩	
	14	礫片						砂岩	
	15	礫片						砂岩	
	16	礫片						花崗岩	
	17	礫片				4.4		不明	

1 K-84	2	碎片	9.0	8.0	3.1	0.3		珪質頁岩	
一括	1 a	剝片	2.0	17.0	3.5	1.1		メノウ	
1 L-52	1	剝片	32.0	32.0	10.4	9.1		安山岩	
1 N-44	1	剝片(二次)	16.0	12.0	6.9	1.1		不明	
1 N-51	1	礫				3.0		不明	
1 N-53	1	剝片	37.0	68.0	18.6	40.4		砂岩	
1 N-56	1	石核	84.7	60.2	20.2	117.4		珪質頁岩	ブロック外、表探
1 N-73	1	剝片	24.0	17.0	4.9	2.0		チャート	
	2	剝片	17.0	16.0	5.0	1.0		黒曜石	
1 N-74	1	碎片	7.0	10.0	1.6	0.1		黒曜石	
	2	剝片	23.0	34.0	9.0	5.9		珪質頁岩	
1 N-93	2	剝片	15.5	17.0	4.8	0.9		チャート	
	3	剝片	29.0	20.0	5.5	4.1		チャート	
1 N-96	1								
2 N-03	1	礫				14.9		チャート	
2 N-05	1	楔形石器				1.0		チャート	
	2	礫片				5.4		不明	
2 N-06	1	石核	57.0	63.1	34.3	104.8		砂岩	第3ブロック
	2	剝片	31.0	35.0	12.0	10.8		珪質頁岩	
2 N-15	2	剝片	35.5	32.0	11.7	10.4		珪質頁岩	
	3	礫片				2.9		チャート	
	4	碎片	8	9	1.8	0.1		チャート	
	5	礫片				0.5		砂岩	
	6	碎片	8.0	6.0	1.6	0.1		珪質頁岩	
	7	剝片	38.0	31.0	13.1	12.6		珪質頁岩	
	9	碎片	6.0	8.0	1.0	0.01		黒曜石	
	10	礫片						砂岩	
	11	礫片						砂岩	
	12	礫片						砂岩	
	13 a	礫片						砂岩	
	13 b	礫片				4.7		砂岩	

	13 c	砾片			3.5		砂岩	
	13 d	砾片			0.5		砂岩	
	13 e	砾片			1.1		砂岩	
	13 f	砾片			0.5		砂岩	
	14 a	砾片					砂岩	
	14 b	砾片					砂岩	
	14 c	砾片					砂岩	
	14 d	砾片					砂岩	
	15							
2 N-16	1	碎片	11.0	13.0	1.9	0.2	珪質頁岩	
	2	砾片				0.9	不明	
2 N-25	1	砾片				16.0	砂岩	
	2	剥片	38.0	27.0	10.5	8.7	チャート	
	3	碎片	7.0	8.0	2.0	0.1	チャート	
	4	砾片				0.9	砂岩	
2 N-96	1	剥片	13.0	8.0	1.9	0.2	チャート	
	13					0.7		
	13 g	砾片				2.9	不明	
	13 h	砾片					砂岩	
2 O-31	1	砾				37.8	砂岩	

## 《昭和60年度》

グリッド	番号	分類	計測値(mm)			重量 (g)	標高 (m)	石材	備考
			長さ	幅	厚さ				
1 H-84	1	剥片	33.5	33.0	7.8	6.5		砂岩	
	2	礫片				23.3		チャート	
1 H-94	1	剥片	37.0	42.5	13.9	17.7		安山岩	
	2	敲石	73.0	42.0	32.0	165.1		凝灰岩	第4ブロック
1 H-95	1	敲石	20.0	12.5	6.2	1.0		珪質頁岩	
	2	剥片	17.0	17.0	6.9	1.7		砂岩	
2 H-04	1	剥片	62.0	39.0	27.0	88.3		安山岩	第4ブロック
2 H-97	1	碎片	8.0	6.0	1.0	0.01		黒曜石	
	2	剥片	16.0	10.0	7.0	1.3		黒曜石	
	1 c	不明				2.7		不明	
2 G-63	1 b	剥片	20.0	16.0	6.6	1.9		砂岩	
2 J-79	1	削器	31.8	16.6	7.8	4.4		黒曜石	第14ブロック
2 J-80	1	剥片	22.0	15.0	4.2	1.1		黒曜石	
	2	碎片	36.3	20.1	9.0	5.6		黒曜石	第14ブロック
2 J-81	1	剥片(二次)	13.0	11.0	4.2	0.6		黒曜石	第14ブロック
2 J-99	1	碎片	27.8	18.5	6.9	3.8		黒曜石	
	2	剥片(二次)	24.0	12.6	10.3	2.5		黒曜石	第14ブロック
	3	礫片				0.7		不明	
	5	剥片	18.0	14.5	4.9	1.2		黒曜石	
2 K-42	1	碎片	18.0	13.5	1.9	0.2		安山岩	
2 K-51	2	剥片(二次)	19.0	18.5	19.9	32.0		凝灰岩	第5ブロック
2 K-52	1	碎片	12.5	10.0	2.7	0.7		安山岩	
	2	碎片	20.0	12.0	18.0	0.5		珪質頁岩	
2 K-53	1	碎片	18.5	13.0	2.0	0.4		凝灰岩	
	2	碎片	11.0	10.0	1.5	0.1		安山岩	
2 K-61	1	剥片	50.0	28.1	14.7	19.3		凝灰岩	

	2	砾片			22.7		不明	
	3	碎片	13.0	17.0	3.6	0.6	安山岩	
	4	剥片	19.5	9.0	4.4	0.7	凝灰岩	
	5	碎片	13.0	20.0	3.0	0.8	安山岩	
	6	碎片	9.0	17.5	3.9	0.5	凝灰岩	
	7	碎片	23.0	19.0	3.8	1.0	安山岩	
	8	剥片	11.5	34.0	2.8	1.1	安山岩	
	9	碎片	21.5	28.0	3.0	1.9	安山岩	
	10	碎片	11.0	11.0	2.4	0.2	凝灰岩	第5ブロック
	11	碎片	21.0	16.0	3.5	1.0	安山岩	
	12	碎片	13.0	10.0	2.5	0.2	凝灰岩	
	13	碎片	14.0	14.0	33.0	0.6	安山岩	
2 K - 86.87	1							
93	1	砾片			12.2		凝灰岩	
	2	細石刃核	26.6	27.0	13.5	10.3	黒曜石	ブロック外
2 K-62	1 b	剥片			6.7		凝灰岩	
	1 c	剥片	16.0	22.0	2.4	0.8	凝灰岩	
	1 d	剥片	25.0	31.0	3.8	3.4	安山岩	
	1 e	碎片	15.0	17.0	2.4	0.7	安山岩	
	1 f	碎片	14.0	10.0	1.4	0.2	安山岩	
2 L - 34.35	1 c	碎片	16.0	9.0	1.4	0.2	黒曜石	
	1 d	剥片(使用)	22.0	15.0	3.0	0.9	黒曜石	
	1 e	碎片	20.0	18.0	2.0	0.6	黒曜石	
2 L-75	1	砾片	22.0	15.0	6.0	3.7	砂岩	
2 L-76	1	剥片	8.0	16.0	2.1	0.2	珪質頁岩	
2 L-84	1	剥片	29.5	20.0	4.6	2.1	砂岩	
	1 b	剥片			3.8		珪質頁岩	
	1 c	剥片			1.8		凝灰岩	
2 L-85	1	剥片	30.0	22.0	5.2	3.4	砂岩	
2 L-95	1	剥片	46.5	31.5	11.0	15.1	メノウ	ブロック外

	2	剥片	22.0	24.0	2.8	1.2		凝灰岩	
	3	剥片	19.0	25.5	4.2	1.9		メノウ	
2 M - 66,67	1 b	碎片	13.0	13.0	2.4	0.4		凝灰岩	
2 M-82	1	剥片	40.5	27.0	6.6	8.2		安山岩	
2 N - 40,41	1 c	剥片	12.0	18.0	6.4	0.9		安山岩	
2O-52	1 a	剥片				5.8		凝灰岩	
	1 b	碎片				1.0		黒曜石	
3 G-13	1	砾片				8.8		不明	
	2	剥片(二次)	23.9	17.4	8.9	2.3		チャート	縄文時代
3 G-27	1	砾片				0.5		チャート	
3 H-07	1	ナイフ形石器	56.7	21.3	14.1	13.9		珪質頁岩	第16ブロック
	2	剥片	38.0	39.0	13.9	14.6		安山岩	
	3	剥片	29.5	12.5	3.9	1.1		チャート	
3 H-08	1	剥片	24.5	26.0	6.0	4.2		チャート	
	2	剥片	32.0	21.5	4.5	2.2		チャート	
	3	ナイフ形石器				0.4		チャート	第16ブロック
	4	剥片	15.0	10.0	1.0	0.1		黒曜石	
	5	剥片	31.3	43.1	14.7	14.7		安山岩	第16ブロック
	6	剥片	63.0	25.0	9.8	13.2		安山岩	
	7	ナイフ形石器	45.8	23.9	9.0	7.9		チャート	第16ブロック
3 H-09	1	剥片	24.0	18.0	6.2	2.4		チャート	
3 H-18	1	石核	55.9	45.3	31.2	72.2		安山岩	第16ブロック
	2	剥片	26.0	18.0	3.0	1.4		チャート	
3 I-05	1	砾片						砂岩	
3 I-06	1	剥片	43.5	31.0	10.2	10.5		砂岩	
	2	砾片						礫岩	
	3	砾片						礫岩	
	5	砾片						礫岩	
3 I-07	1	剥片	18.0	15.0	3.3	0.7		砂岩	
	2	剥片	10.0	9.0	3.5	0.4		砂岩	

3 I -16	4	礫片			0.3		砂岩	
	5	礫片			8.1		砂岩	
3 I -17	1	礫					流紋岩	
	2	礫片					礫岩	
3 I -18	1	剝片(二次)	10.5	10.5	3.6	0.4	チャート	
3 I -26	3	礫片			3.1		砂岩	
3 I -27	1	剝片	37.0	35.0	7.7	9.0	砂岩	
3 J -00	1	碎片	9.0	16.0	5.8	0.6	黒曜石	
	2	碎片	7.0	12.0	1.8	0.2	黒曜石	
	3	碎片	5.0	7.0	1.8	0.1	黒曜石	
	4	楔形石器	25.0	17.9	7.1	4.0	黒曜石	第13ブロック
3 J -01	1	剝片	12.0	16.5	6.5	0.9	黒曜石	
	2	碎片	9.0	6.0	0.8	0.1	黒曜石	
	2	碎片	32.0	16.0	11.0	4.3	黒曜石	
	3	剝片	26.0	16.0	13.3	5.2	黒曜石	
3 J -10	1	碎片	6.0	5.0	0.7	0.01	黒曜石	
3 J -11	1	碎片	16.0	14.0	6.0	0.8	黒曜石	
	2	ナイフ形石器	13.9	12.0	2.7	0.4	黒曜石	第13ブロック
3 K -58	1	礫片			3.2			
	2	礫片					チャート	
3 J -59	1	礫片			4.0		安山岩	
	2	礫片					チャート	
	3	礫片					不明	
	4	礫片					不明	
	5	礫片					チャート	
	6	礫片			4.5		安山岩	
3 K -59	7	礫片					チャート	
	8	礫片			47.7		安山岩	
3 K -68	1	礫片			15.6		砂岩	
3 K -69	1	礫片					安山岩	
	2	礫片					安山岩	

	3	礫片					安山岩	
	4	礫片			6.0		砂岩	
	5	礫片			3.6			
	6	礫片					砂岩	
	7	剝片	35.0	43.0	16.5	19.3	凝灰岩	
	8	礫片					チャート	
	9	礫片					チャート	
	10	礫片					砂岩	
	11	礫片			2.8		安山岩	
3 K-77	1	礫片			2.2		砂岩	
3 K-78	1	剝片			6.5		安山岩	第12ブロック
3 K-79	1	剝片	31.0	24.0	9.2	5.5	安山岩	
	2	礫片			1.9		砂岩	
	3	礫片					砂岩	
	4	礫片			38.4		不明	
	5	礫片			15.2		安山岩	
	6	礫片			1.3		砂岩	
	7	礫片					流紋岩	
	8	ナイフ形石器	31.9	24.9	9.1	7.1	安山岩	第12ブロック
	9	剝片(二次)	23.0	27.0	13.8	7.9	凝灰岩	
	10	剝片	24.9	22.0	6.3	2.7	安山岩	第12ブロック
	11	礫片					チャート	
	12	礫片			2.3		流紋岩	
	13	礫片					チャート	
	14	礫片					安山岩	
	15	礫片			4.6		流紋岩	
	16	礫片					流紋岩	
	17	礫片			3.4			
	18	礫片					安山岩	
	19	礫片					安山岩	
	20	碎片	12.0	9.0	2.5	0.2	珪質頁岩	

	21	砾片					安山岩	
	22	剥片(二次)	33.0	47.0	12.0	17.8		安山岩
	23	砾片					チャート	
	24	砾片					流紋岩	
	25	砾片					チャート	
	26	砾片					安山岩	
	27	剥片	11.0	10.0	2.5	0.3		チャート
	28	剥片	16.0	18.0	6.0	1.3		黒曜石
	29	砾片				5.7		
	30	剥片	21.1	17.8	6.0	2.2		安山岩 第12ブロック
	31	砾片					砂岩	
	32	砾片					砂岩	
	33	剥片	27.0	31.0	6.3	5.4		チャート
3 K-88	1	砾片					流紋岩	
3 K-89	1	砾片					流紋岩	
	2	砾片					砂岩	
	3	剥片(二次)	49.9	30.8	10.8	20.5		安山岩 第12ブロック
	4	ナイフ形石器	34.1	20.8	9.2	4.8		黒曜石 第12ブロック
	5	剥片	52.0	24.0	68.0	5.8		珪質頁岩
	6	砾片				54.3		安山岩
	7	砾片				2.7		流紋岩
	8	砾片				39.2		安山岩
	9	剥片	31.0	28.0	14.4	9.0		黒曜石
	10	砾片				8.5		安山岩
	11	砾片					チャート	
	12	砾片				4.7		安山岩
	13	剥片	30.5	23.0	7.0	4.9		安山岩
	14	角錐状石器	62.9	30.7	20.1	35.8		凝灰岩 第12ブロック
	15	砾片				0.6		安山岩
	16	砾片					不明	
3 L-03	1	剥片	23.0	16.5	4.1	1.4		砂岩

	2	碎片	21.0	11.0	3.3	0.4		凝灰岩	
3 L-04	1	剥片	12.0	19.5	7.4	1.6		凝灰岩	
	2	碎片	13.5	17.0	1.8	0.4		安山岩	
	3	剥片	37.0	14.0	3.8	1.3		凝灰岩	
3 L-05	1	碎片	20.0	20.5	2.4	0.8		珪質頁岩	
3 L-07	1	砾片				24.8		砂岩	
3 L-14	2	碎片	18.0	17.0	3.3	0.9		安山岩	
3 L-15	2	碎片	17.5	17.5	2.3	0.6		安山岩	
	3	剥片	9.0	14.5	3.3	0.4		不明	
	4	碎片	10.0	14.5	2.6	0.4		頁岩	
3 K-16	1	剥片	39.0	40.0	10.2	12.0		砂岩	
	2	碎片	13.5	15.0	2.4	0.5		砂岩	
	3	剥片	27.0	27.0	5.3	4.0		砂岩	
	6	剥片	18.0	23.0	5.2	1.6		凝灰岩	
	7	不明				0.2		凝灰岩	
	8	碎片	14.5	18.0	3.7	0.8		安山岩	
	9	碎片	15.0	21.0	3.6	1.2		砂岩	
3 L-17	1	碎片	13.5	12.0	2.0	0.3		チャート	
	2	砾				16.1		チャート	
	3	剥片	10.0	13.0	2.5	0.3		安山岩	
	4	碎片	14.0	13.5	1.8	0.3		安山岩	
	5	砾片				0.5		不明	
	8	剥片	11.5	8.5	2.5	0.3		安山岩	
3 L-24	1	剥片	48.0	36.5	7.9	13.5		砂岩	
3 L-27	1	剥片	24.0	17.0	2.8	1.2		砂岩	
3 L-28	1	剥片	27.0	22.0	7.3	3.6		凝灰岩	
3 L-36	1	剥片	19.0	24.0	4.5	1.9		凝灰岩	
	2	碎片	14.5	14.5	2	0.6		砂岩	
3 L-37	1	碎片	15.0	12.5	2.5	0.6		安山岩	
	2	剥片	25.0	20.0	4.2	2.0		安山岩	
	3	剥片	20.0	17.0	3.3	0.8		砂岩	

	4	剥片	17.0	18.0	3.1	1.0		砂岩	
	5	剥片	18.0	18.5	4.7	1.0		凝灰岩	
	6	剥片	24.0	18.5	3.7	1.1		凝灰岩	
	7	剥片	11.0	7.5	3.6	0.3		不明	
	8	礫片				3.5		凝灰岩	
3 L-38	1	剥片	15.5	18.5	3.3	1.0		珪質頁岩	
	2	礫片				0.7		チャート	
3 L-45	1	剥片	16.0	15.5	3.2	0.7		安山岩	
	2	剥片	27.0	22.0	6.7	3.5		砂岩	
	3	剥片	25.0	22.0	4.2	2.1		安山岩	
3 L-46	1	剥片(二次)	26.0	26.0	7.2	5.2		砂岩	
	2	剥片	19.0	20.5	2.6	1.2		砂岩	
	3	剥片	28.0	33.0	4.2	4.1		砂岩	
	4	剥片	55.0	24.0	7.7	8.2		安山岩	
	5	剥片(使用)	19.0	15.5	4.9	1.1		チャート	第6ブロック
3 L-56	1	剥片	17.0	13.0	2.9	0.6		頁岩	
3 L-60	1	礫片				2.9			
	2	礫片				3.7		安山岩	
3 L-70	1	剥片	24.5	24.5	7.6	3.0		珪質頁岩	
	2	剥片	17.0	24.0	3.3	1.4		安山岩	
	3	碎片	20.5	13.5	5.0	1.0		安山岩	
	4	原石	49.0	40.0	25.0	73.6		安山岩	
	5	剥片				8.9		安山岩	
	6	剥片	37.0	54.0	10.3	27.8		安山岩	
	7	剥片	20.0	22.0	4.5	2.1		安山岩	
	8	剥片(二次)				20.4		安山岩	第12ブロック
	9	剥片	17.0	17.0	4.5	1.6		安山岩	
	10	石核	46.8	36.7	29.7	45.8		安山岩	第12ブロック
3 L-74	1	剥片	19.0	27.0	2.7	1.5		砂岩	
3 L-80	1	剥片	22.0	30.5	3.4	1.7		珪質頁岩	
	3	礫片				11.8		安山岩	

	4	石核	37.7	30.5	18.9	22.3		安山岩	第12ブロック
	5	剥片	31.9	15.6	5.2	3.0		安山岩	
	6	礫片				26.9		安山岩	
	7	碎片	20.0	19.0	2.2	0.5		凝灰岩	
	8	石核				22.1		安山岩	第12ブロック
3 L-81	1	礫片				18.9		凝灰岩	
3 L-85	1	剥片	28.0	31.0	3.1	2.4		安山岩	
	2	剥片	25.0	25.0	4.3	2.5		凝灰岩	
	3	礫	37.0	33.0	20.0	27.2		チャート	
3 L-86	1	剥片	21.0	34.0	9.6	7.8		凝灰岩	
3 M-25	1	礫石	122.0	77.0	42.0	659.0		閃綠岩	ブロック外
3 M-28	1	剥片	23.0	25.0	7.3	3.1		安山岩	
	2	礫片						砂岩	
3 M-29	1	剥片	19.0	19.0	11.6	3.6		石英	
	2	剥片	10.0	12.0	6.7	0.9		石英	
	3	石核	24.9	25.6	16.4	8.7		石英	第8ブロック
	4	碎片	12.0	9.0	3.3	0.4		石英	
	5	剥片	13.0	20.0	5.5	1.6		石英	
	6	剥片	21.0	17.0	9.6	2.9		石英	
	7	剥片(二次)	23.0	17.0	8.0	4.8		石英	
	8	石核	31.6	27.3	20.8	23.2		石英	第8ブロック
	9	碎片	15.0	12.0	5.3	0.6		石英	
	10	礫	102.0	59.0	52.0	500.0		チャート	
	11	礫				54.1		凝灰岩	
3 M-39	1	碎片	15.0	14.0	5.7	0.9		安山岩	
	2	剥片	16.0	17.0	6.3	1.3		石英	
	3 a	削器	31.0	19.0	13.3	16.2		石英	第8ブロック
	3 b	剥片				8.4		石英	
	4	礫片				0.9		砂岩	
	5	剥片	7.0	7.0	1.2	0.1		安山岩	
	6 a	剥片	18.0	23.0	6.2	2.2		石英	

	6 b	剥片	16.0	17.0	7.5	1.5		石英	
	7	碎片	17.0	13.0	4.3	1.0		石英	
	8	剥片	20.0	23.0	7.9	3.2		石英	
	9	剥片(二次)	15.0	18.0	12.2	2.5		石英	
	10	剥片	16.0	14.5	9.4	1.6		石英	
	11	碎片	4.0	8.5	2.6	0.1		石英	
	12 a	剥片	16.0	20.0	7.4	2.1		石英	
	12 b	碎片	14.0	15.0	5.5	0.5		石英	
	13	碎片	17	16	4.6	0.9		石英	
	14	碎片	10.5	9.0	2.9	0.3		石英	
	15	碎片	15.0	13.0	5.4	0.7		石英	
	16	砾片						砂岩	
	17	碎片	15.0	9.0	5.9	0.8		安山岩	
	18	剥片	28.0	19.0	7.1	3.6		石英	
	19	剥片	12.0	13.0	3.9	0.7		石英	
	20	碎片	13.5	16.5	3.4	0.7		安山岩	
	21	剥片	10.0	13.0	3.4	0.5		石英	
	22	剥片	17.0	11.0	8.0	1.1		石英	
	23								
	24	剥片(二次)	28.9	23.3	15.6	8.0		石英	第8ブロック
	25	碎片	10.5	8.0	3.5	0.2		石英	
	26								
	27	碎片	8.0	10.0	4.9	0.3		安山岩	
	28	碎片	14.0	9.0	0.9	0.2		石英	
	29	剥片	27.0	25.0	10.0	5.4		石英	
	30	碎片	12.0	12.0	4.5	0.6		石英	
	31	剥片	29.0	16.5	7.5	3.5		石英	
	32	剥片	25.0	19.0	9.8	3.9		石英	
	33	剥片	38.0	40.1	17.3	24.2		石英	第8ブロック
	34	ナイフ形石器	30.8	22.2	10.8	5.7		石英	第8ブロック
	35	剥片	31.0	22.0	11.1	7.4		石英	

	36	剥片	27.0	18.0	6.3	3.3		石英	
	37	剥片	21.0	20.0	10.0	3.5		石英	
	38	碎片	12.0	10.0	3.0	0.3		安山岩	
3 M-49		碎片				0.9		安山岩	
	2	石核	28.0	22.0	17.4	12.8		石英	
	3 a	剥片	17.0	8.0	6.0	0.8		石英	
	3 b	剥片	14.5	7.0	4.9	0.5		石英	
	3 c	碎片	17.0	12.0	5.6	1.0		石英	
3 M-58	2	碎片	11.0	15.0	3.9	0.5		石英	
	3	削器	32.6	40.9	12.6	16.3		安山岩	第9ブロック
3 M-59	1	礫片				14.1		不明	
	2 a	礫	59.0	37.0	26.0	76.8		チャート	
	2 b	礫	54.0	44.0	18.0	59.9		砂岩	
	3	碎片(二次)	38.8	24.1	7.4	8.4		珪質頁岩	第9ブロック
	4	石核				16.5		石英	第9ブロック
	5	石核	32.0	38.9	13.2	19.1		安山岩	第9ブロック
	6	剥片(二次)	26.7	21.1	8.8	11.6		石英	第9ブロック
	7	剥片	16.0	19.5	3.4	0.8		安山岩	
3 M-68	1	剥片	9.0	18.0	3.6	0.5		石英	
	2	剥片	13.0	12.0	5.9	0.7		石英	
	3	碎片	14.0	15.5	2.8	0.6		石英	
3 M-69	1	石核	27.9	29.5	29.4	10.5		石英	第9ブロック
	2	剥片	28.0	19.0	7.8	3.2		石英	
	3	碎片	14.0	17.0	3.0	0.6		不明	
	4	剥片	25.0	32.0	5.9	5.1		石英	
	5	剥片	19.0	20.5	5.2	2.2		石英	
3 M-78	1	剥片	29.0	15.0	7.1	3.4		石英	
	2 a	剥片	14.0	9.0	4.5	0.7		石英	
	2 b	剥片				0.8		石英	
	3	剥片	30.0	16.0	6.2	2.5		石英	
	4	剥片	16.0	19.0	6.3	1.8		石英	

	5	石核	31.0	24.0	15.6	9.5		石英	
	6	剥片	21.0	12.5	6.7	2.0		石英	
	7	剥片	19.0	27.0	12.2	6.0		石英	
	8	石錐	29.4	18.0	9.5	4.8		石英	第11ブロック
	9	剥片	17.0	9.0	5.8	0.8		石英	
	10	碎片	13.0	12.0	3.9	0.4		石英	
3 M-79	1	削器	20.1	15.4	10.5	3.4		石英	第11ブロック
	2 a	碎片	11.5	19.0	3.9	0.5		石英	
	2 b	碎片	19.0	10.0	4.3	0.8		石英	
	2 c	剥片	12.0	17.0	3.0	0.5		石英	
	3	剥片	19.0	16.0	7.9	2.0		石英	
	4	剥片	17.5	21.3	16.8	3.5		石英	第11ブロック
	5	剥片	21.0	24.0	7.8	4.6		石英	
	6 a	剥片	21.0	15.0	11.4	3.2		石英	
	6 b	剥片	12.0	9.0	6.0	0.6		石英	
	7	剥片	45.9	29.8	14.6	19.7		石英	第11ブロック
3 M-88	1	石核	39.8	34.5	24.4	32.6		石英	第11ブロック
	2	剥片	42.9	33.7	19.7	27.6		石英	第11ブロック
	3	石核	49.3	41.3	18.9	38.1		石英	第11ブロック
	4 a	剥片(二次)	32.9	17.6	11.4	5.9		石英	第11ブロック
	4 b	剥片	15.0	13.0	4.8	1.1		石英	
	5	剥片	15.5	10.0	4.0	0.7		石英	
	7	碎片	10.0	11.0	3.6	0.6		石英	
	8		17.0	9.0	3.5	0.6		石英	
	9	剥片(二次)	32.4	21.3	6.2	4.6		安山岩	第11ブロック
	10	剥片	30.0	26.0	8.8	5.7		石英	
3 M-89	1	碎片	16.0	11.0	2.3	0.4		石英	
	2	剥片	26.0	13.0	13.0	3.8		石英	
3 M-66,67	1 a	剥片	44.5	51.8	16.3	27.9		珪質頁岩	繩文時代
	1 b	剥片	18.0	18.0	3.4	1.1		凝灰岩	
	1 c	剥片	29.0	38.0	8.0	6.8		凝灰岩	

3 M-82,83	1	礫片			8.3		砂岩	
3 N-20	1	礫片			29.2		砂岩	
	2	剥片			13.2		凝灰岩	第8ブロック
	3	碎片	9.0	10.0	1.8	0.2		安山岩
	4	剥片	39.7	54.6	14.4	28.4		凝灰岩
	5	剥片	18.0	26.0	5.0	1.9		安山岩
	6	剥片	11.5	11.5	3.0	0.5		安山岩
	7	剥片	43.5	57.5	9.9	11.0		凝灰岩
	8	剥片	13.0	7.0	3.7	0.3		安山岩
	9	剥片	32.7	25.1	8.0	8.7		凝灰岩
3 N-22	1	礫片			13.1		チャート	
3 N-23	1	剥片	11.0	12.0	1.9	0.2		黒曜石
	2	碎片	17.0	10.0	1.4	0.2		チャート
3 N-30	1	碎片	11.0	9.0	2.2	0.2		安山岩
	2	礫片			15.7		砂岩	
	3	剥片	26.7	41.0	9.2	11.0		凝灰岩
	4	剥片	13.0	10.0	5.9	0.7		石英
	4	剥片	36.0	28.0	16.0	17.8		石英
	5	剥片	19.0	18.0	3.9	1.2		凝灰岩
	6	剥片	24.0	35.0	12.0	9.5		石英
	7	剥片	34.0	40.0	17.7	16.2		凝灰岩
	9	敲石					砂岩	第8ブロック
	10	碎片	18.5	14.0	5.0	1.0		安山岩
3 N-31	1	敲石	156.3	57.1	31.3		砂岩	第8ブロック
3 N-32	1	楔形石器	43.2	30.4	10.5	17.5	チャート	縄文時代
3 N-34	1	礫片			6.8		砂岩	
3 N-40	1	剥片	25.0	29.0	20.0	11.9		石英
	2	剥片	18.5	28.0	10.2	4.4		石英
3 N-41	1	剥片(二次)	26.5	31.2	9.9	5.9		黒曜石
	2	礫片			2.2		チャート	
	3 a	礫片			1.6		チャート	

	3 b	石斧	96.4	57.2	28.4	187.0		凝灰岩	第10ブロック
	4	剥片	27.5	32.1	16.4	11.5		凝灰岩	第10ブロック
	5	剥片	28.4	34.6	7.9	1.2		凝灰岩	第10ブロック
	6 a	剥片	21.4	21.8	3.3	6.8		凝灰岩	第10ブロック
	6 b	剥片	20.5	17.5	3.1	1.0		凝灰岩	第10ブロック
	7	剥片	30.6	42.4	8.0	12.4		凝灰岩	第10ブロック
3 N-42	1	剥片	22.0	9.0	5.2	0.9		チャート	
	2	剥片	27.0	16.0	4.1	1.6		砂岩	
3 N-47	1	剥片	19.0	13.5	3.5	0.8		チャート	
3 N-50	1	碎片	15.0	17.5	2.9	0.8		安山岩	
	2	石核	45.2	28.7	11.7	16.0		安山岩	ブロック外
	3	剥片	48.0	22.0	16.2	17.6		石英	
	4	碎片	13.0	11.0	12.5	0.4		安山岩	
3 N-51	1	剥片	28.0	31.0	6.9	6.9		安山岩	
	2	剥片	24.9	26.6	4.5	3.1		凝灰岩	第10ブロック
	3	石核	126.8	101.5	98.6	1,455.0		凝灰岩	第10ブロック
	4	剥片	24.0	28.0	8.4	5.6		珪質頁岩	
	5	ナイフ形石器	37.9	25.4	9.3	9.6		石英	第10ブロック
3 N-52	1	剥片	42.5	44.4	12.7	22.3		石英	第10ブロック
3 N-57	1	剥片	19.0	22.0	5.2	1.3		黒曜石	
3 N-61	1	剥片(二次)	31.2	20.9	10.0	5.8		石英	第10ブロック
	2	剥片	10.0	9.0	2.5	0.2		凝灰岩	
	3	剥片	37.0	37.0	17.3	16.1		石英	
3 N-71	1	剥片	43.9	47.3	11.2	23.2		石英	第10ブロック
	2	剥片(二次)	36.0	41.0	11.3	15.0		石英	
	3	剥片	31.0	32.0	12.7	9.7		石英	
3 N-72	1	剥片	18.0	30.0	5.6	2.0		凝灰岩	
3 N-82	1	剥片	43.0	32.0	9.6	11.1		流紋岩	
3 N-47, 48,57,58	1 a	碎片	16.0	13.0	2.9	0.6		黒曜石	
	1 b	碎片	21.0	12.0	4.3	0.9		黒曜石	

＜昭和61年度＞

遺物 グリッド	番号	分類	計測値(mm)			重量 (g)	標高 (m)	石材	備考
			長さ	幅	厚さ				
3 E-24	1	ナイフ形石器	16.9	15.8	3.8	1.2		黒曜石	ブロック外、表探
3 E-35	1	石核	142.5	77.2	67.3	8.02		珪質頁岩	ブロック外、表探
3 E-38	1	ナイフ形石器	25.5	12.0	4.7	1.3		珪質頁岩	ブロック外、表探
3 E-45	1	剥片(使用)				15.6		珪質頁岩	
3 E-45	1	剥片(使用)	41.3	41.6	9.9	8.6		砂岩	
4 D-80	1	剥片	28.9	42.2	8.1	10.2		安山岩	第17ブロック
4 D-85	1	剥片	22.4	29.4	10.8	6.4		安山岩	第17ブロック
4 D-95	1	剥片	58.0	28.4	11.8	12.8		凝灰岩	ブロック外、表探
	2	碎片	16.4	20.3	3.3	1.0		凝灰岩	ブロック外、表探
	3	剥片	24.2	12.1	9.8	2.2		凝灰岩	ブロック外、表探
5 D-03	1	碎片	5.5	9.5	1.9	0.1		凝灰岩	
5 D-04	1	剥片	11.0	11.0	3.4	0.4		砂岩	
	2	剥片	31.0	17.0	5.0	2.5		凝灰岩	
	3	剥片	47.0	22.6	6.6	8.8		凝灰岩	第17ブロック
	4	ナイフ形石器	39.2	14.5	7.6	3.7		珪質頁岩	第17ブロック
5 D-05	1	剥片	25.6	27.5	3.8	2.6		珪質頁岩	第17ブロック
5 D-06	1	剥片	37.3	33.7	11.3	15.1		凝灰岩	第17ブロック
	2	剥片	13.0	10.0	3.4	0.4		砂岩	
3 M-29	8	石核	31.6	27.3	20.8	23.2		石英	第8ブロック
3 M-39	3	削器	33.1	27.5	25.3	16.2		石英	第8ブロック
	34	ナイフ形石器	30.8	22.2	10.8	5.7		石英	第8ブロック
3 M-29	3	石核	24.9	25.6	16.4	8.7		石英	第8ブロック
3 M-59	6	剥片(二次)	26.7	21.1	8.8	11.6		石英	第9ブロック
3 M-78	4								
	8	石錐	29.4	18.0	9.5	4.8		石英	第11ブロック
3 M-79	1	削器	20.1	15.4	10.5	3.4		石英	第11ブロック
3 M-88	1								
	2	剥片	42.9	33.7	19.7	27.6		石英	第11ブロック
	4	剥片(二次)	32.9	17.6	11.4	5.9		石英	第11ブロック

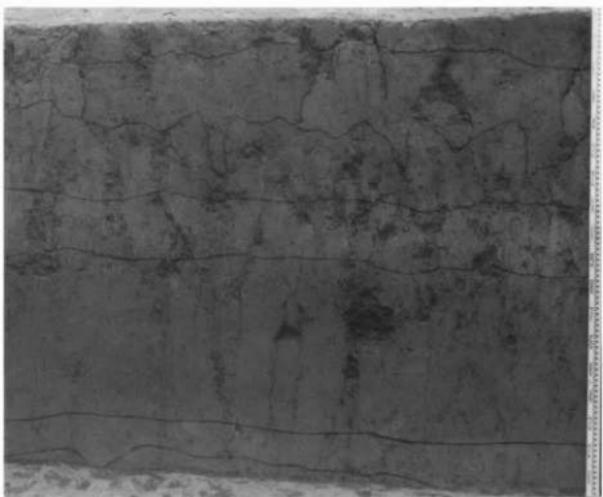
3 M-89	3							
3 N-30	4							
3 N-51	5	ナイフ形石器	37.9	25.4	9.3	9.6	石英	第10ブロック
3 N-52	1	剥片	42.5	44.4	12.7	22.3	石英	第10ブロック
3 N-61	1	剥片	31.2	20.9	10.0	5.8	石英	第10ブロック
3 N-71	1	剥片	43.9	47.3	11.2	23.2	石英	第10ブロック

# 写 真 図 版





遺跡近景



土層断面 (1L-60-70西壁)



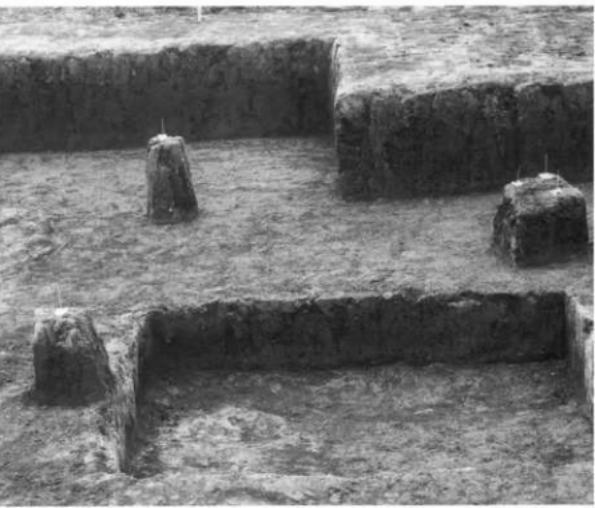
土層断面 (2E-51北壁)



第1・第2 ブロック遺物分布状況



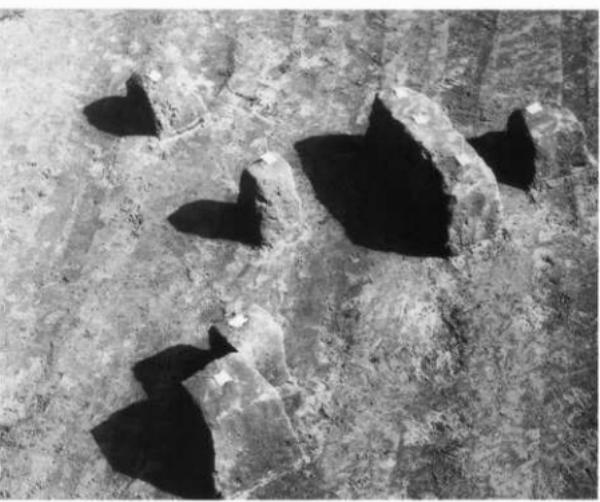
第3 ブロック遺物分布状況



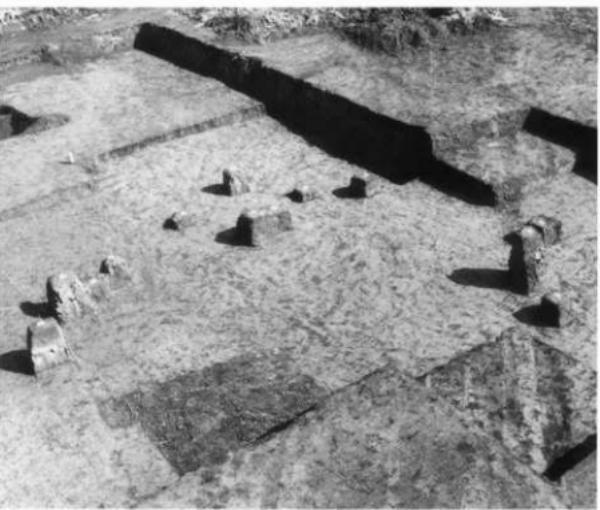
第4 ブロック遺物分布状況



第5 ブロック遺物分布状況



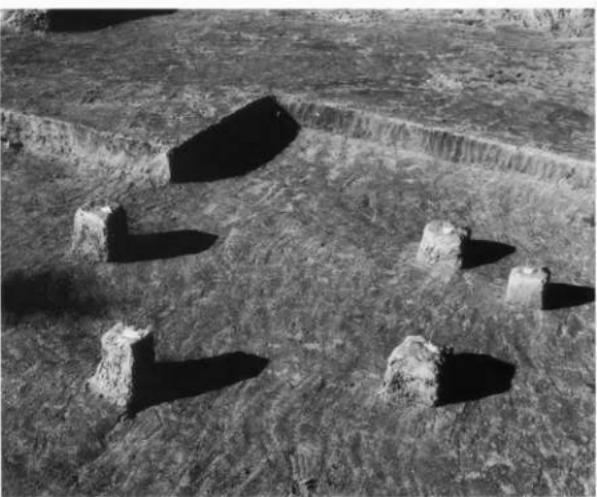
第6 ブロック遺物分布状況



第6・第7 ブロック遺物分布状況



第7ブロック・ブロック外 遺物分布状況



第8ブロック 遺物分布状況



第9ブロック 遺物分布状況



第8・第9・第10・第11ブロック遺物分布状況



第12ブロック遺物分布状況



第13・第14ブロック遺物分布状況



第15ブロック遺物分布状況



第16ブロック遺物分布状況



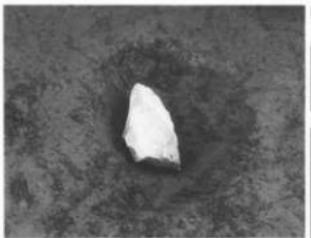
ブロック外(3N)遺物出土状況



ブロック外 (3L-84) 遺物出土状況



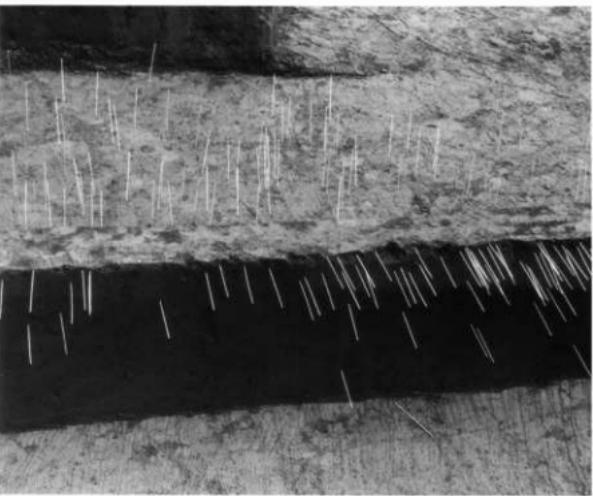
ブロック外 (2E-51) 遺物出土状況



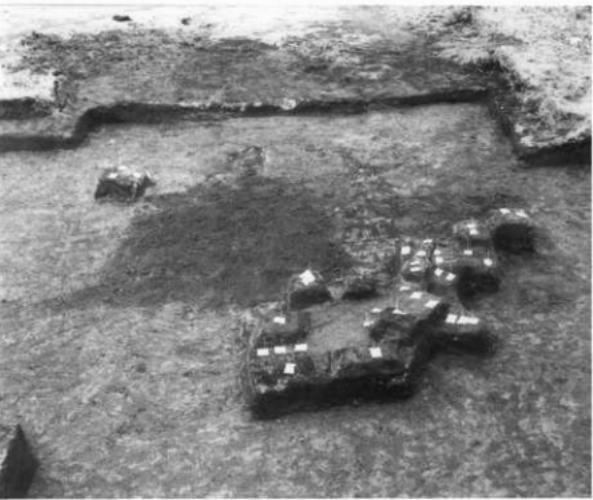
ブロック外 (3E-36) 遺物出土状況



プロック外(4D)遺物分布状況



グリッド2D・3D炭化物分布状況

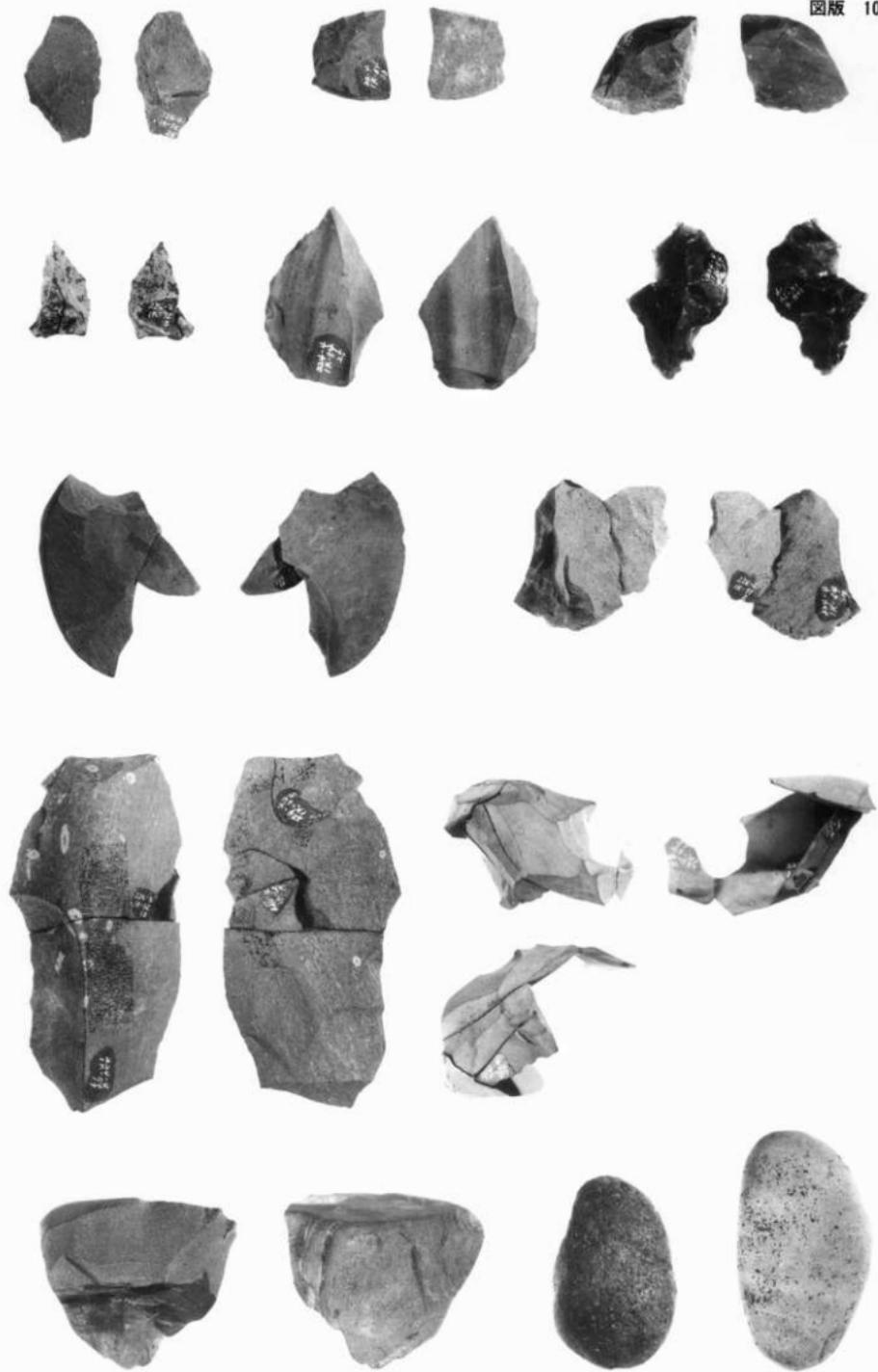


縄文時代石器製作跡遺物分布状況

第1・第2ブロック

第3ブロック

第4ブロック



第1・第2・第3・第4 ブロック出土石器

第5 ブロック

第6  
ブロック

第8 ブロック

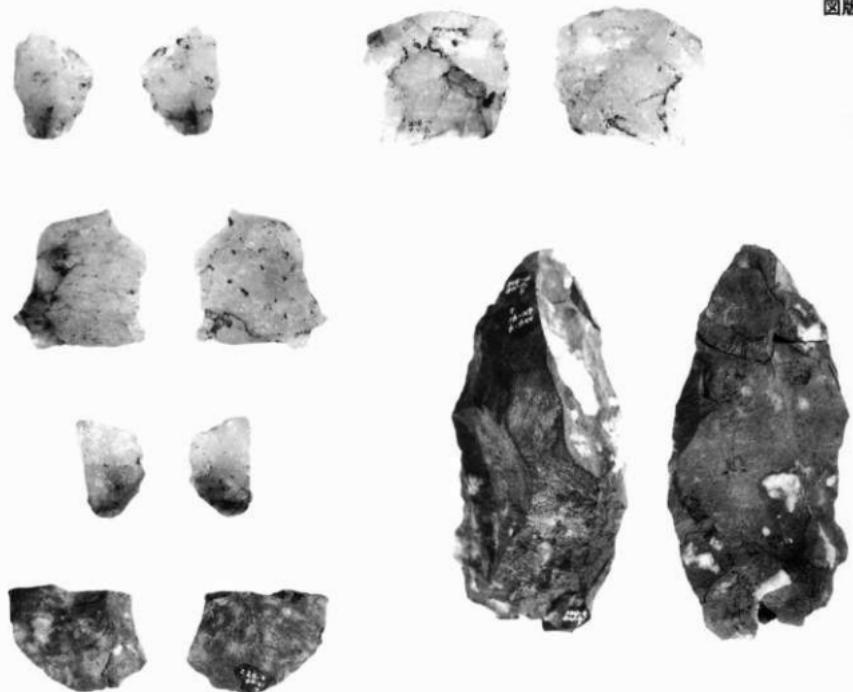
第9 ブロック



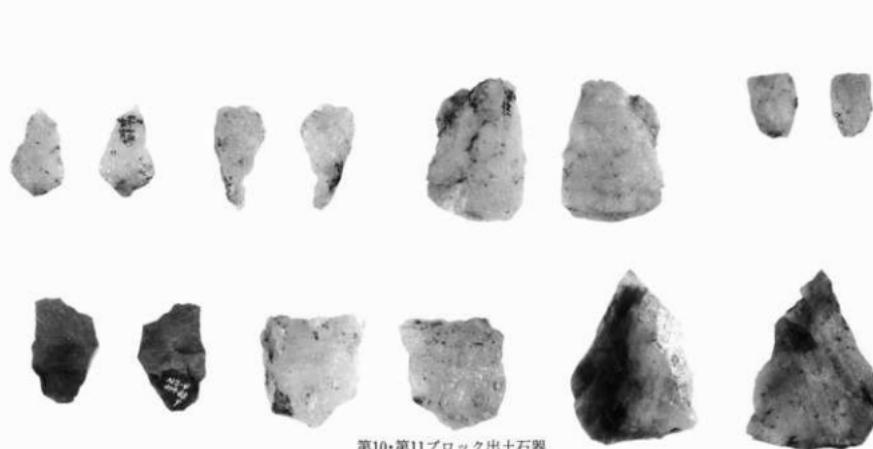
第5・第6・第8・第9 ブロック出土石器

第10ブロック

第11ブロック



(1/3)



第10・第11ブロック出土石器

第12ブロック

第13ブロック

第14ブロック

第16ブロック



第12・第13・第14・第16ブロック出土石器

第17ブロック

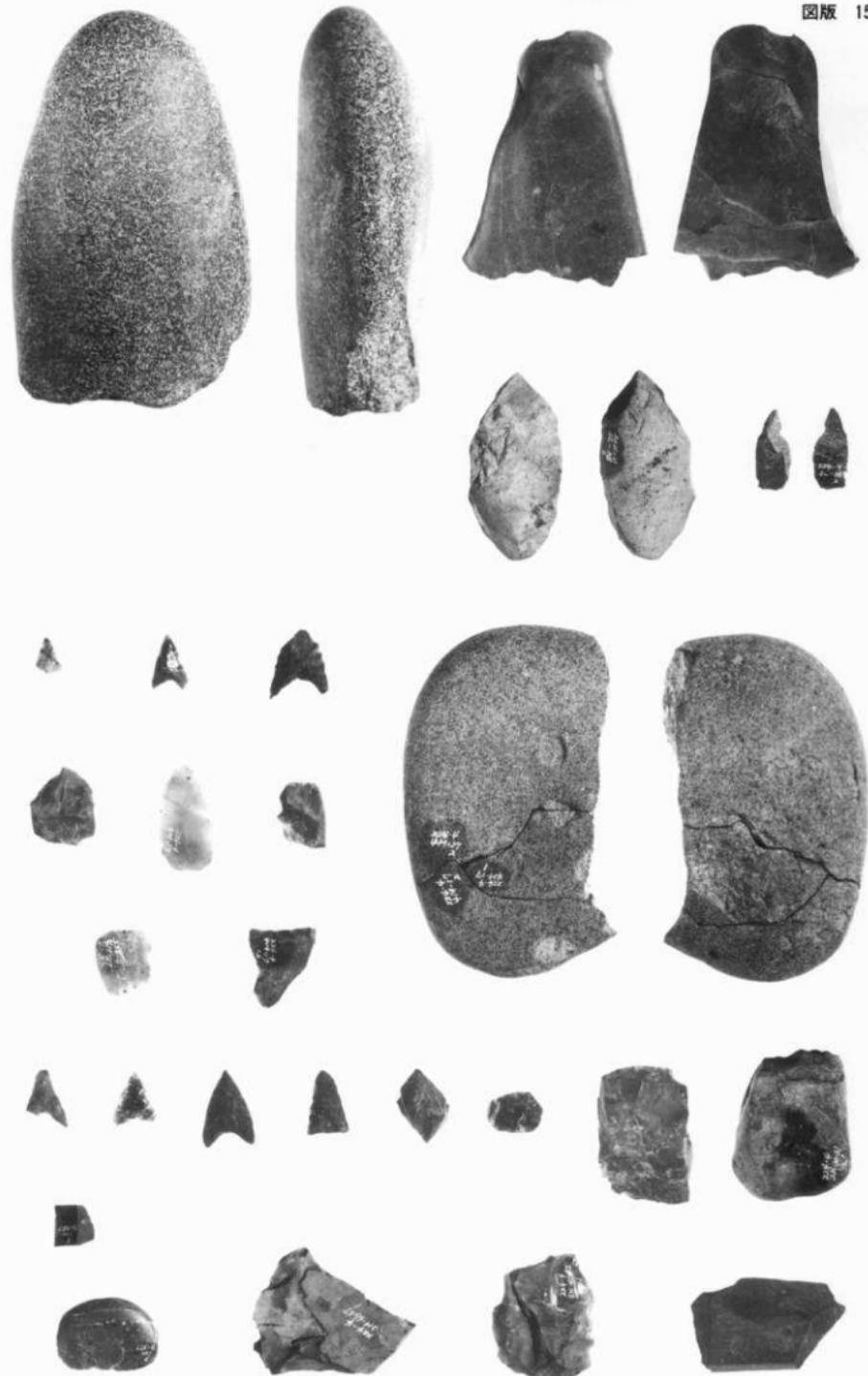
ブロック外



第17ブロック・ブロック外出土石器

ブロック外

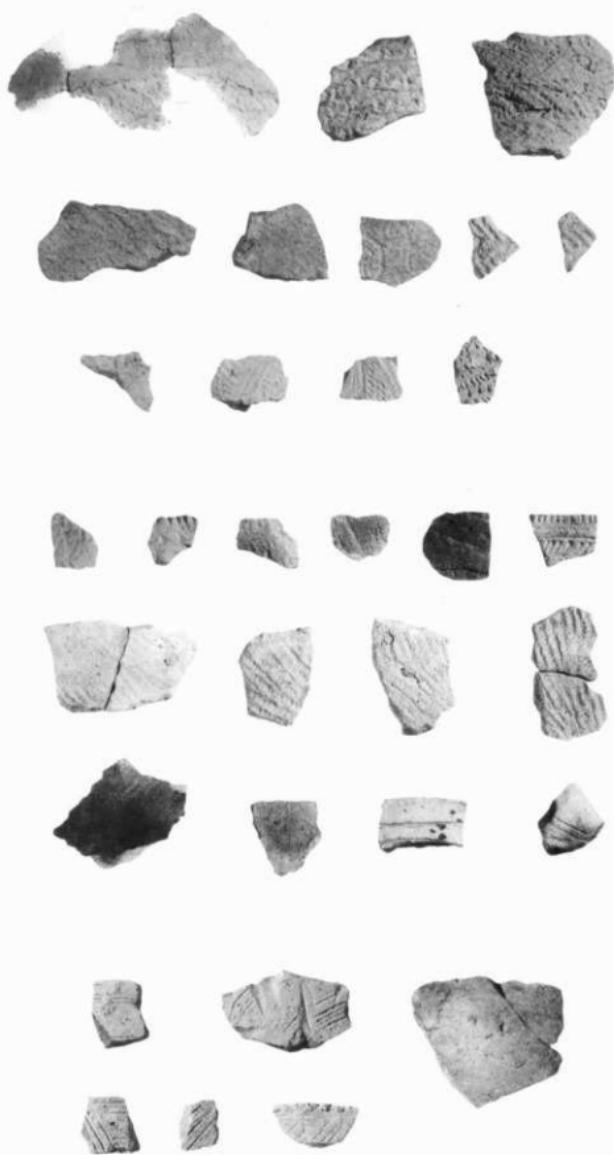
縄文時代



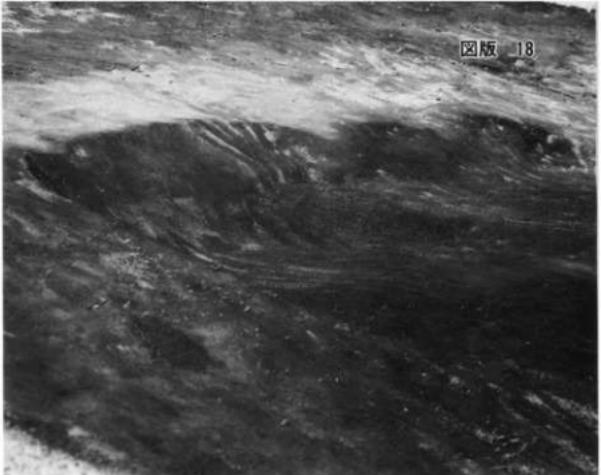
ブロック出土石器・縄文時代石器



グリッド出土土器 1



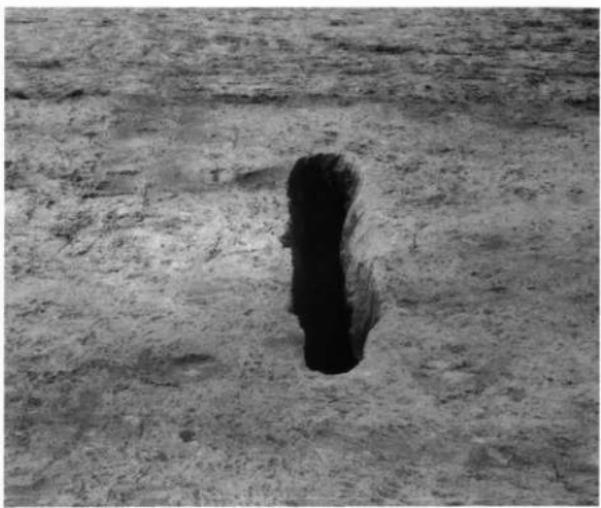
グリッド出土土器 2



001号土坑全景



002号土坑全景



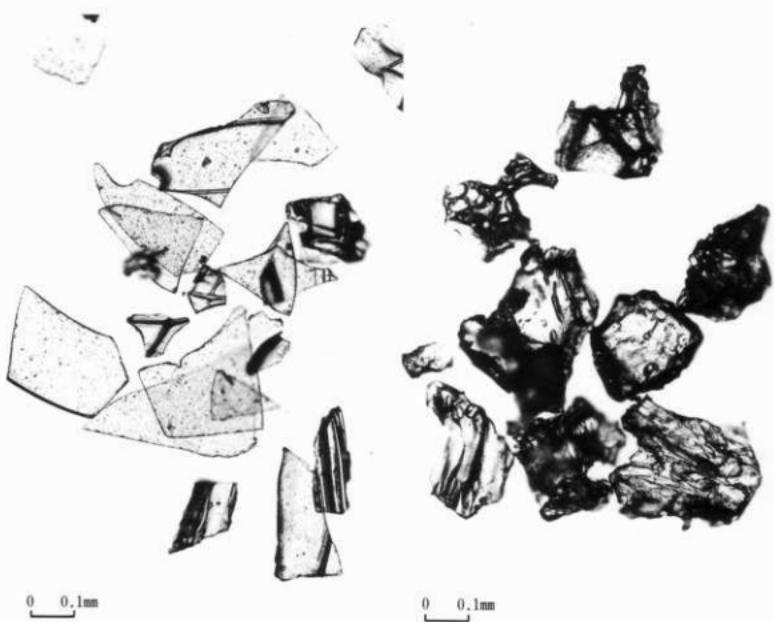
003号土坑全景



004号溝及び土層断面



(1) グリッド1J-85北壁  
試料採取土層断面



(2) 試料採取土層中火山ガラス

---

千葉県文化財センター調査報告第205集

千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書 XI

平成4年3月10日 印刷

平成4年3月21日 発行

発行 千葉県企業庁

千葉市長州1-9-1 TEL0472-23-3419㈹

住宅・都市整備公団千葉開発局

印旛郡印西町戸神501 TEL0476-46-2011㈹

編集 財団法人 千葉県文化財センター

四街道市鹿渡無番地 TEL0434-22-8811

印刷 株式会社 弘文社

市川市市川南2-7-2 TEL0473-24-5977

---